

緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集

Vol. 9



「ふくい森林づくり推進事業」(福井市朝谷町：木ごろの森)
福井県緑化推進委員会

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、32 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑と水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 24 年 12 月「国際森林デー」の制定、平成 25 年 11 月「国連持続可能な開発のための教育 10 年（E S D）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業（令和元年度）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 3 年 2 月

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

- 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成2年版 (1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成3・4年版 (1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成5・6年版 (1996.3)

- 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL1 緑と水のサイエンス (1996.8)
緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL2 緑と水のサイエンス (2001.7)
緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL3 緑と水のサイエンス (2004.6)
緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL4 緑と水のサイエンス (2007.8)
緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL5 緑と水のサイエンス (2009.5)
緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL6 緑と水のサイエンス (2010.4)

- 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL1 (2011. 3)
緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL2 (2012. 3)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL3 (2012.12)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL4 (2013.12)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL5 (2015. 3)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL6 (2016. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL7 (2017. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL8 (2018. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL9 (2019. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL10 (2020. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL11 (2021. 2)

- 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL1 (2013. 3)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL2 (2013.12)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL3 (2014.12)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL4 (2016. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL5 (2017. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL6 (2018. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL7 (2019. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL8 (2020. 2)
緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL9 (2021. 2)

目次

北海道森と緑の会

青少年育成事業 (A-1)	8
「美遊の森」体験活動事業 (A-2)	8
森林・みどり環境教育推進事業 (A-3)	9
☆緑の少年団野幌森林公園道有林育樹事業 (A-4)	9
森林ボランティア活動推進事業 (A-5)	10
野幌自然休養林再生事業を中心にした森林知識の普及啓発活動 (A-6)	10
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-7)	11
北海道指導林家社会貢献緑化推進事業 (A-8)	11
木育ひろば 2019 in ばんけい (A-10)	12
☆森林機能の普及啓発事業 (A-11)	12
林間学校 (A-12)	13
☆旭山希少種調査・保護事業 (A-13)	13
森と自然体験の子どもエコキャンプ 2019 (A-16)	14
身近な森林再発見事業 (A-17)	14
五稜郭保安林清掃事業 (A-18)	15
木になるフェスティバル (A-19)	15
阿寒湖畔における森林保全事業 (A-20)	16
普及啓発事業 (A-21)	16
「望みの森」森林浴の集い (A-22)	17
森林を活用した青少年育成対策事業 (A-23)	17
森林及び木製遊具体験事業 (A-24)	18
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-25)	18
津別「げんきの森」利用推進事業 (A-26)	19
緑化団体ネットワーク推進事業 (A-27)	19
☆地域材の利活用と生物多様性保全事業 (A-28)	20
間伐施業体験事業 (A-29)	20
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業 (A-30)	21
青少年木育推進事業 - 木育ひろば in チ・カ・ホ (A-31)	21
緑の少年団活動助成事業 (A-321)	22
馬追自然の森整備事業 (C-1)	22
清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業 (C-2)	23
台風被災森林の植栽後の保育活動 (C-3)	23
「遊々の森」での森林体験事業 (C-4)	24
コンサ百年の森づくり事業 (C-5)	24
サミットの森プロジェクト (C-6)	25
☆森林の役割を助ける「森に光と風を」事業 (C-7)	25
「ラブアースの森づくり」事業 (C-8)	26
風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり (C-10)	26
未来に向かって日高の森林づくり事業 (C-11)	27
日高の森づくり事業 (C-12)	27
「おさかなの森づくり運動」事業 (C-13)	28
第 25 回サケの上る森づくり植樹祭 (C-14)	28
お魚を増やす森づくり (C-15)	29
旭川ユネスコの森づくり (C-16)	29
☆赤岩青巖峡環境整備事業 (C-17)	30
☆環境林を育てる山主スクール事業 (C-18)	30

☆散布漁業協同組合女性部植樹事業 (C-19)	31
青森県緑化推進委員会	
青森県森林づくり推進体験学習活動事業 (A-33)	32
☆木と人のふれあい事業 (A-34)	32
岩手県緑化推進委員会	
令和2年度遠野市緑化祭『里山フェスタ 2020』(A-35)	33
2019 森林とのふれあい in 外山森林公園 (第40回盛岡市民植樹祭) (A-36)	33
ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-37)	34
第51回岩手県緑の少年団大会 (A-38)	35
宮城県緑化推進委員会	
宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-20)	36
秋田県緑化推進委員会	
緑と水のキャンペーン事業 (A-39)	37
市民グループ森林づくり事業 (A-40)	37
緑の少年団育成事業 (C-21)	38
森林活動指導者支援事業 (C-22)	38
山形県みどり推進機構	
山形県緑の少年団交流研修支援事業 (A-41)	39
山形県林業まつり開催事業 (A-42)	39
庄内森とみどりのフェスティバル開催事業 (A-43)	40
福島県森林・林業・緑化協会	
第28回緑の提言・作文コンクール (A-44)	41
福島県林業祭実行委員会	
森林・林業とのふれあい事業 (第44回福島県林業祭) (A-45)	42
福島県森林・林業・緑化協会	
ファミリー緑の教室開催事業 (A-46)	42
☆次世代を担う子どもたちによる森林づくり会議 (A-47)	43
都市と農村の交流事業「第32回ふくしま緑の百景歩こう会」(C-23)	43
茨城県緑化推進機構	
青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-48)	44
緑の体験教室開催事業 (A-49)	44
グリーンフェスティバル開催事業 (A-50)	45
森林ボランティア育成事業 (C-24)	45
山村地域づくり活動助成事業 (C-25)	46
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-26)	46
とちぎ環境・みどり推進機構	
森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業 (A-51)	47
青少年の教育の場としての森林活用促進事業 (C-27)	47
群馬県緑化推進委員会	
森と木のまつり (A-53)	48
緑の少年団活動活性化事業 (A-55)	49
埼玉県緑化推進委員会	
さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-56)	50
緑の少年団育成事業 (A-57)	50
緑化普及啓発事業 (A-58)	51
緑の少年団活動支援事業 (A-581)	51
森林ボランティア活動支援事業 (C-28)	52
千葉県緑化推進委員会	
木づかい推進・普及啓発事業 (A-59)	53

森林・林業技術講習会 (A-60)	53
第39回千葉県みどりの少年団交流集会事業 (C-29)	54
東京都農林水産振興財団	
ふるさとの杜活力調査事業 (B-1)	55
にいがた緑の百年物語緑化推進委員会	
普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業 (A-61)	56
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-62)	56
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-63)	57
緑化団体活動周知・地理情報活用事業 (A-64)	57
とやま緑化推進機構	
森林・木材等普及啓発事業 (A-65)	58
花とみどりの少年団活動支援事業 (C-30)	58
森づくりグループ活動支援事業 (C-31)	59
石川県緑化推進委員会	
緑化思想の普及啓発事業 (A-66)	60
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-32)	60
森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-33)	61
福井県緑化推進委員会	
もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-67)	62
ふくいの森林づくり推進事業 (C-34)	62
山梨県緑化推進機構	
緑の少年隊森林学習会 (A-68)	63
教職員森林・林業研修 (A-69)	63
子ども樹木博士認定事業 (A-70)	64
森の教材「くらしと森林」発刊事業 (A-71)	64
親子緑の集い (A-72)	65
緑化ポスター・標語コンクール開催 (A-73)	65
緑の活動発表会 (A-74)	66
長野県緑の基金	
岐阜県緑化推進委員会	
緑化推進活動促進と活動資材提供事業 (A-76)	67
みどりの啓蒙推進事業 (A-77)	68
恵みの森づくり事業 (C-35)	68
静岡県グリーンバンク	
森づくり県民大作戦支援事業 (A-78)	69
緑の少年団交流集会開催事業 (C-36)	69
愛知県緑化推進委員会	
みどりに親しむ集い事業 (A-79)	70
みどりの少年団育成事業 (A-801)	71
ふるさと樹木診断事業 (B-2)	71
森林ボランティア養成事業 (C-37)	72
三重県緑化推進協会	
県民参加の植樹祭開催事業 (A-81)	73
みえ森林イベント参加 (A-82)	73
森林とのふれあい促進事業 (A-83)	74
緑の少年隊活動の推進 (A-84)	74
森林教室開催 (A-85)	75
森林ウォーキング、巨樹・古木見学会開催 (A-87)	75
県民参加の植樹活動 (A-871)	76

滋賀県緑化推進会	
緑の少年団育成事業 (C-38)	77
京都モデルフォレスト協会	
京都モデルフォレスト運動連携強化事業 (A-88)	78
大阪みどりのトラスト協会	
大阪府緑の少年団連盟交流集会 (A-89)	79
自然環境保全ボランティア養成講座「森人塾」(A-90)	79
府民参加の森林づくりのための普及啓発 (A-91)	80
☆森林 ESD の推進 (B-3)	80
兵庫県緑化推進協会	
地域緑化イベント開催事業 (A-92)	81
森林整備・緑化活動支援事業 (C-39)	81
奈良県緑化推進協会	
森の文化活動事業 (A-93)	82
ボランティア緑化活動事業 (C-40)	82
和歌山県緑化推進会	
青少年を対象とする森林 ESD の推進など森林環境教育の促進事業 (A-94)	83
森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業 (C-41)	83
鳥取県緑化推進委員会	
樹名板設置事業 (A-95)	84
木工工作キット配布事業 (A-96)	84
青少年・民間活動グループ育成事業 (C-42)	85
森林空間活用推進事業 (C-43)	85
島根県緑化推進委員会	
「森の誕生日」2020 事業 (A-97)	86
緑の少年団育成強化事業 (C-44)	86
岡山県緑化推進協会	
第 20 回森林を考える岡山県民のつどい (A-98)	87
県産木材フェア開催事業 (A-99)	87
もりもりクラブ普及活動事業 (A-100)	88
第 35 回くらしき都市緑化フェア (A-101)	88
緑化普及推進事業 (C-45)	89
広島県みどり推進機構	
「みどりの集い」開催事業 (A-102)	90
(第 39 回) 緑の少年団交流集会開催事業 (C-46)	90
やまぐち農林振興公社	
都市と山村ふれあい交流促進事業 (A-103)	91
森林体験学習支援事業 (C-47)	91
記念の森造成事業 (C-48)	92
徳島森林づくり推進機構	
企業の森づくり普及啓発イベント事業 (C-49)	93
かがわ水と緑の財団	
緑化普及活動事業 (A-104)	94
愛媛の森林基金	
木工作品製作キット配布事業 (A-105)	95
愛媛の森林友の会の育成及び現地研修会開催事業 (A-106)	95
高知県森と緑の会	
土佐の名所の樹木活性化事業 (A-107)	96
森のようちえん推進事業 (A-108)	96

高知県森林インストラクター養成講座 (A-110)	97
地域の森林整備事業 (C-50)	97
活動基盤整備推進事業 (C-51)	98
福岡県水源の森基金	
ウッドフェスタ 2019 福岡 (A-111)	99
森林ふれあい交流事業 (A-112)	99
福岡県緑の少年団育成事業 (A-1131)	100
第 29 回世界子ども愛樹祭コンクール (A-114)	100
☆那珂川市植樹祭 (A-115)	101
里まちサイクルプロジェクト (B-4)	101
さが緑の基金	
よかウッドフェスタ (A-116)	102
森・川・海人っフェスタ (A-117)	102
緑の探検学習会 (C-54)	103
長崎県緑化推進協会	
森林のつどい事業 (A-118)	104
緑の少年団活動活性化事業 (C-55)	104
森のめぐみいきいき活用促進事業 (C-56)	105
熊本県緑化推進委員会	
くまもと森づくり普及・啓発事業 (A-119)	106
緑の少年団活動育成事業 (C-57)	106
シンボル森林の活用促進事業 (C-58)	107
森林ネットおおいた	
ふれあい森林教室 (A-120)	108
農林水産祭林業部門運営委員会	
木と暮らしのフェア (A-121)	108
森林ネットおおいた	
☆大分県みどりの少年団のつどい (A-123)	109
名木保全事業 (B-5)	109
森林ボランティアリーダー養成研修 (C-59)	110
宮崎県緑化推進機構	
緑と花のふれあい推進事業 (A-124)	111
森林浴癒しの集い事業 (A-125)	111
かごしまみどりの基金	
かごしまの緑・元気な森林体験事業 (A-126)	112
かごしまの名木古木樹勢診断事業 (B-6)	112
活力ある緑の少年団活動促進事業 (C-60)	113
森林ボランティア活動促進事業 (C-61)	113
沖縄県緑化推進委員会	
令和元年度 緑の育樹祭開催事業 (A-127)	114

(☆は 2019 新規事業)

青少年育成事業（A-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（緑の体験学習）

深川市内小学生を対象に、当別町道民の森において緑の体験学習を実施した。

体験学習の内容は、森の緑について学び、自然にある木の枝や実を使っての工作活動や、自然の植物の仕組みを模した遊びを行う中で、植物を身近に感じ、自然に対する意識の向上を図ったもの。

（学校緑化）

地域の核ともいえる深川市内小・中学校の環境緑化を実施し、児童生徒が花壇等を作成し世話をする中で、緑への理解と愛情を深めたもの。

2. 活動の成果

（緑の体験学習）

今回の体験学習を通して、森の緑と触れ合いながら、自然の仕組みや人間と自然との正しい関係について理解を深め、自然に対する愛情とモラルの高揚となり、緑化思想の普及活動の一環となった。

（学校緑化）

校内の花壇等を自ら植え育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子どもたちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりを推進できた。

3. 参加者の声

（緑の体験学習）

参加者は、前年度に参加した人もおり、自然との触れ合いを楽しんでいた。自然との関わりの中楽しさを見つけて、緑への興味を深めたようであった。

（学校緑化）

参加者は、緑の大切さを学び、緑への関心を高めたようであった。育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	5月22日～6月22日	計
事業量	緑の体験学習	学校緑化 (花苗1,972本の植栽)	
参加者数	40人	173人	213人
実施場所	当別町 道民の森	深川市内 8小・中学校	

「美遊の森」体験学習活動事業（A-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

美唄市立峰延小学校の隣接する林内において、子ども達に木や森との関わりについて学習する体験学習会を実施した。

体験学習会の内容は、前半は教室で普段接している学校林の歴史や森林の機能についての講義と、後半は林内で木々の種類や昆虫などを題材にしたゲームや木登り体験を行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい、子ども達の豊かな心を育むことを目的とした。

2. 活動の成果

今回の学習会では、子ども達が木育マスターの講義を熱心に聞き入り、遊びを通して木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。また、木を使用した箸の作成、学校林内にて木育マスターの話聞きながら自然と触れ合えることができた。

子ども達にとって木育の専門家から話を聞くことで、新たな視点で木や森について学ぶことができたと思う。

3. 参加者の声

- ・昔と今の空中写真を見比べて、普段見ている学校の森が昔から変わらない姿だったので、驚いた。
- ・学校の森にこんなにたくさん違う種類の木があるのを知った。
- ・カンナかけが難しかったけど、作った箸を大事にしたい。
- ・自分で作った箸でご飯を食べるのが楽しみ。
- ・今日もらった植物図鑑で、これからいろんな花や木の名前を覚えたい。
- ・箸を削るのが思ったより大変だった、物を作る大変さが解りました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月23日	計
事業量	小学5～6年 午前中	
参加者数	11人	11人
実施場所	美唄市立峰延小学校及び隣接森林	

森林・みどり環境教育推進事業（A-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

光林会と道総研林業試験場、北海道水産林務部（美咲普及指導員室）が共催する夏休みグリーンフェスティバルは、地域の小中学生等を対象として、森林や林業、みどりに関する知識の普及・啓発を目的に、学校の夏休み期間中である7月下旬の土曜日に開催している。

30回目となった今年は、開催日を7月27日（土）として、「シラカバ樹皮のかざりづくり」や「ドローンで見る森林の姿」など、森林や林業、みどりに関する12の体験プログラムを用意して、道総研林業試験場の施設等を活用しながら楽しい雰囲気のなかで実施した。

2. 活動の成果

フェスティバル当日は降雨の予報もあったことから、屋外で実施する体験プログラムの場所や回数を急遽変更したが、来場者を対象に行ったアンケート調査では、「とても楽しかった」「楽しかった」の回答率が80%を超え、「あまり楽しなかった」「つまらなかった」の回答率（約1%）を大きく上回った。

3. 参加者の声

アンケート調査から、楽しかった催しとして「森のスタンプ」「シラカバ樹皮のかざりづくり」、勉強になった催しとして「ドローンで見る森林の姿」「生き物図鑑の部屋」の順で関心が高く、その他の体験プログラムについても、閉会直前まで参加者が途切れることなく、好評を得ている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月27日	計
事業量	夏休みグリーンフェスティバル	
参加者数	300人	300人
実施場所	美咲市(林業試験場内)	

緑の少年団野幌森林公園道有林育樹事業（A-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

江別市西野幌の野幌森林公園道有林及びその周辺において、滝川緑の少年団が枝打ち体験や森林散策を実施した。

枝打ち体験は、若齢アカエゾマツ人工林にて、空知総合振興局森林室職員ほかの指導で、団員が手ノコを用いて枝打ち作業を実施した。

森林散策は、人工林隣接の林内で行い、遊歩道沿いの動植物に触れながら、「森のビンゴゲーム」を通して動植物の種類や生態などを学習した。

2. 活動の成果

今回の活動を通して、森林が生長する過程において、育樹作業中の枝打ちを体験することにより、節のない木を育てることが木の価値を上げ、また、枝を切除により風通しが良くなることにより、湿気を緩和と病気の予防となることなど、育樹作業の必要性や森林によって豊かな生態系が守られていることなどを学習した。

近年、少子高齢化や森林に精通する職員の減少などにより、児童・学生が森林に触れる機会そのものが減少しているため、今回のような活動は貴重な経験となった。

3. 参加者の声

ほとんどの参加者は、育樹体験そのものが初めての体験であり、楽しく夢中になって活動することができたと話していた。

森林散策については、担当者が森に詳しい木育マイスターであったため、学校では習うことができない内容を知ることができて良かったとの声も上がった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月8日	計
事業量	枝打ち体験 森林散策	
参加者数	19人	19人
実施場所	江別市 野幌森林公園	

森林ボランティア活動推進事業（A-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

道民の森への来園者を森林に誘導し、北海道を代表する落葉広葉樹と針葉樹からなる天然林に生息する動植物を間近に観察し、その中で生存競争に生き抜く動植物のたくましさや共生する姿を体感してもらうための活動を実施しました。

来園者には森の姿を分かりやすく理解していただくために、その解説方法を全道で実践している団体や教員経験者との交流を図り、会員のスキルアップに努めました。

また、小学校の児童を対象とした環境学習時に、森林の働きや効用を解説する「森の観察会ガイドブック（仮称）」を製作するとし、現況調査や編集作業を実施して、令和2年度に発行すべく取り組んでいる。

2. 活動の成果

令和元年度のボランティア活動は、道民の森において「森の観察会」及び小学校児童の森林環境学習時に、森林の生い立ちとその大切さ、そこに生息する動植物の生態、人と森の関わり合いについて説明し、理解をいただいた。

また、水源の森では、トドマツ、ミズナラ、カンパ類の苗木の植樹指導を行い、森林整備の大切さを実感していただいた。

さらに、道民の森での各種行事に参加して、森との触れ合いの楽しさ、森林が人に与える役割の大切さを感じていただくための支援活動を実施しました。

3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは、遠目に見ていた森林の中に一步踏み入れることにより、一見穏やかな森の中で生き物たちの生存競争、弱肉強食の食物連鎖、子孫を残すための知恵、そして共存共栄の姿を観察し、五感をフルに活用して森の様子を観察することにより、その多種多様さを感じていただき、驚きと感動を与えることができました。

また、植樹活動の参加者からは、汗を流しながら木を植えることにより、樹木への愛情が生まれ、地球温暖化の防止に寄与する森林造成の役割を説明し、理解をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月1日から10月31日	計
事業量	「親子でキャンプ」、「森の観察会」、「キノコの日学習会」、「木育バスツアー」 などイベント 延 310人	
参加者数	2,971人	2,971人
実施場所	北海道当別町・月形町 「道民の森」	

野幌自然休養林再生事業を中心にした森林知識の普及啓発活動（A-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野幌自然休養林にある捕植地（団体内ではシーズネットの森と呼ばれている）は、平成17年（2005）から続けていた植樹、下草狩り、ツルきり等の活動ですが、78年ぶりにクマが現れ、その動向が予測できないため中止しました。

創成川公園でのポット苗づくり、道民の森での植樹は計画通り実施し、森林整備を通して、森の重要性と環境への配慮の重要性を十分に体現しました。

今年は、道民の森での活動後、野外で昼食し、シーズネット内にある絵手紙グループが作成してくれたハガキに、その時の感想を記入し、自分宛に出すというイベントを取り入れ大変好評でした。

森林教室はリース作りを通し、都市の樹木と山の樹木の役割分担を勉強しました。

2. 活動の成果

200万人都市の近くに自然休養林があり、市民の憩いの場となっている一部に、当会の活動の場があることが、参加会員の誇りになっています。

森林がレクリエーション機能だけでなく、地球温暖化防止や環境改善（大気浄化機能）に係わっていることを体験的に学習（道民の森での植樹、現地で森林の効用を学ぶ）し、少々の社会貢献をしたと充実感を味わった。

3. 参加者の声

- ・皆とおしゃべりをしながら汗をかくのは清々しい。
- ・この弱弱しい一本の木が、20～50年後に大きく育ち、孫たちへの贈り物になるかと思うと、涙が出そう。
- ・森林浴をしながら、いい汗をかいて、社会奉仕。
- ・道民の森の植樹イベントは楽しかったけれど、3割程度しか育成しないことを聞き、来年も来て、下草狩りをきちっとしたいと思って居ます。
- ・まだまだ参加者を増やして活動を活性化したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月24日	9月10日	9月25日	12月9日	計
事業量	水源の森	事前調査	植樹	リース作り	
参加者数	23名	6名	22名	26名	77人
実施場所	札幌市 創成川公園	当別町 道民の森	当別町 道民の森	札幌市 交流プラザ	

次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 音更町、森町、七飯町において、地域住民（児童・生徒・親子）を対象に木工教室や自然観察会を開催し、森林・林業、木材利用に関する体験活動を実施した。
- 旭川市、置戸町において、地元の高校生・中学生を対象とした植樹・枝打ち体験学習を開催し、森林づくり体験活動を実施した。
- 本別町において、「銀河の里ツリーフェスティバル」の一環として、地域住民を対象に伐倒ショーや薪割り体験等を実施した。

2. 活動の成果

- 木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業や木材利用について、理解促進を図ることができた。
- 地域住民（児童・生徒・親子）が体験学習を通じて、森林の働きや森林づくりの方法等を学び、森林への関心を持つとともに森林の大切さや森林整備の重要性を理解してもらうことができた。

3. 参加者の声

- 木工教室では、大人から子供まで楽しんで森林・林業や木材利用を学べる良いイベントだとの意見が多く好評であった。
- 植樹・枝打ち作業では、「作業は大変だが楽しかった」「森林整備の重要性が理解できた」等の意見が多く、森林づくりに対する理解を深めていた。
- 伐倒ショーや薪割り体験では、「初めて見て、体験して新鮮だった」「薪割り体験は楽しかった」等の意見が多く、森林・林業の普及PRができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日	9月28日	10月6日	10月25日	2月16日	計
事業量	木工教室 薪割り体験	林業体験活動 (枝打ち外)	伐倒ショー 薪割り体験等	林業体験活動 (植樹外)	自然観察会 木工教室	
参加者数	62人	14人	266人	35人	26人	403人
実施場所	音更町 (十勝エコロ ジーパーク)	旭川市江丹別町	本別町 (本別公園)	置戸町字川南	七飯町、森町	

北海道指導林家社会貢献緑化推進事業（A-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 白老町桔梗原指導林家所有林において、室蘭市、登別市の地域住民を対象に、ほだ木の本伏せ作業と林内ほだ場の視察を行った。
- 苫小牧市の和みの森において、苫小牧市、厚真町の地域住民を対象に、ほだ木の本伏せ作業と北海道植樹祭植栽地の視察を行った。
- 遠軽町丸瀬布森林公園「いこいの森」において、社会福祉法人北海道家庭学校の児童・生徒等を対象に育樹（枝打ち）の体験活動と、木製楽器カリンバの製作を行った。

2. 活動の成果

- きのこの栽培体験を通じて、森林の恵みに対する理解や林業・特用林産業への関心が高まると共に、林産物の供給や生物多様性（菌類の役割）など森林の公益的機能についての理解が深まった。
- 児童・生徒等の森林に対する親しみや林業・木材産業への関心が高まると共に、森林整備の必要性・木材の良さについて理解が深まった。

3. 参加者の声

- 指導林家からの原木栽培方法の一連の説明（伐採～植菌～仮伏せ～本伏せ～発生）を聞いて菌類の働きを学ぶことができた。
- 初めて行う本伏せ作業に参加者一同は「おもしろい」、「なめこの収穫が待ち遠しい」と楽しそうに取り組んでいた。
- 枝打ち作業では、初めて体験する児童・生徒もいたが楽しそうに取り組んでいた。
- カリンバ制作では、終始楽しそうな様子で木工品を仕上げ、最後はみんなで「きらきらぼし」を演奏し楽器の音色を楽しんでいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月19日	7月23日	10月24日	計
事業量	きのこ栽培体験活動	きのこ栽培体験活動	林業体験活動	
参加者数	30人	19人	50人	99人
実施場所	白老町桔梗原 指導林家所有林	苫小牧市和みの森	遠軽町丸瀬布 丸瀬布森林公園 「いこいの森」	

木育ひろば2019 inばんけい (A-10)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市立盤溪小学校において、道が認定している木育マイスターを講師に招き、木や森に関する様々なプログラムの体験を通じて、森林や木材、林業のことを学びながら、地域住民のコミュニケーションを図る。

2. 活動の成果

実際に木に触れることにより木のぬくもりを感じ、木を削ることによって、硬い木・柔らかい木の違いを体感いただいた。また、木や森の話で、木の特性に応じた使い道や森の中に住む昆虫や動物のことを学び、森林に対する理解が深まった。

3. 参加者の声

- ・木を切ることによって、硬い木ややわらかい木があるのが解り、親子で貴重な体験ができた。
 - ・ドローンの操作が難しいことが解った。 ・木を使ったおもちゃが作れてよかった。
 - ・森にはいろいろな種類の虫がいたことが解った。 ・コースターをまだ作りたかった。
- などみんな喜んでいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	計
事業量	木育ひろば2019inばんけい	
参加者数	68人	68人
実施場所	札幌市立盤溪小学校	

森林機能の普及啓発事業 (A-11)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市近郊の一般市民を対象に参加者を募集し、札幌市役所前から借上げバスで「支笏湖をめぐる－千歳川、支笏湖の成り立ちや自然と先人たちの足跡を学ぶ」と題して観察会を開催した。ルートは、札幌－千歳－支笏湖（美笛）→オコタンベ湖→恵庭湖→札幌という順で各地点において北海道林業技士会の講師による観察会を実践した。

2. 活動の成果

支笏湖周辺の森林を巡り、地球の地殻運動によって生じた支笏湖の生成、千歳川流域森林の江戸時代からの利用、洞爺丸台風などの風倒木の被害と先人たちが取り組んだ復旧の歴史について各観察ポイントにおいて当会作成の資料に基づいて説明、質疑を交わした。

その結果、かけがえのない自然環境保全の重要性や森林・林業の大切さについて普及啓発を図ることが出来たもと考えている。

3. 参加者の声

- ・作成配布資料について
充実した内容であり、今まで知らなかった知識を得ることが出来た。
- ・美笛巨木の森で
ミズナラ、ハリギリ、カツラなどの巨木が生育し原始の森の面影を残す場所の観察会で、各樹木の生態的特徴についての説明は、とても良く分かり、興味深かった。
- ・車内及び各観察ポイントで
支笏湖周辺の森林の歴史（江戸時代からの森林利用・洞爺丸台風等幾多の風倒木被害の復旧に取り組んで現在の豊かな森林になっているのだということ）が当時を経験した林業技士会の一人のガイドの説明により、良く理解することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月2日	10月12日	計
事業量	コース下見	借り上げバス1台	
参加者数	5人	32人	37人
実施場所	支笏湖周辺の森林・湖沼		

林間学校（A-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

①ねらい

- ・冬の森のスノーシュー散策を通して森林など自然とふれあい、自然のすばらしさや不思議さ、冬の森林ならではの景色の美しさや足跡などから生き物の存在を感じ取り、自然を尊ぶ心情を養う。
- ・縦割り班活動の一環として位置づけ、協力しながら集団生活を創造し、集団生活の仕方を学ぶとともに楽しさを実感する。

②日時 令和2年1月30日（木）9：00学校発～1月31日（金）12：00学校着

③林間学校活動

1月30日（木）1日目

- スノーシュー散策（1～3年風のはらっぱ周辺、4～6年滝野の森）
- チューブ滑り（1～3年） ○キャンプファイヤー ○縦割り班宿泊
- 1月31日（金）2日目 ○山の家前での縦割り班でのスノークラフト

2. 活動の成果

スノーシュー散策では冬の自然と触れ合う中で、自然のすばらしさや不思議さと共に冬ならではの楽しみを感じ、どの季節でも自然に親しむ態度を育む計画のもとに実施した。周りの木々・森林が真っ白な雪で覆われたり、ひっそりとした中にも木の実が枝に残って彩を添えていたりすることを間近に見ることができた。また、実際の動物には会えなくても、雪の上にはたくさんの足跡を見つけたことで、確かに森のどこかに生きている動物たちの存在を肌で感じていた。1～3年生は、風のはらっぱ周辺でチューブ滑りも体験した。

夜はキャンプファイヤーを行い、静かな時間と活動的な時間の両方を楽しみ、1年生も初めての宿泊行事を満喫していた。

2日目はスノークラフトを行った。1～6年生が縦割り班で事前に相談していた形に仕上げるため、上級生が中心となり班全員で協力し、低学年にも役割を指示しながら満足感を味わわせるよう工夫していた。高学年実行委員が司会進行を務めリーダーシップを発揮する姿が大に見られた。

今年度、本来は秋期に実施する予定であったが、クマ出没により、昨年度同様、冬期に行うこととなった。次年度こそ秋期に実施したい。秋期・冬期の活動を隔年で行うことで子どもたちの感受性をより高めたいと考えている。

3. 参加者の声

- ・天気・気温にも恵まれ、野外活動も気持ちよく、充実した2日間だった。冬の自然の美しさを味わった。
- ・スノーシュー散策では、雪がない時には草がいっぱい生えていて入れない所にも入れて、とても楽しかった。
- ・スノークラフトでは、みんなで協力して雪のキャラクターを作れて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月30日	1月31日	計
事業量	スノーシュー散策他	スノークラフト	
参加者数	112人	112人	224人
実施場所	札幌市 青少年の家		

旭山希少種調査・保護事業（A-13）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

2019年度の活動は、①令和の樹林作り②チョウの回廊作り③啓発活動を行いました。

① 令和の樹林作りでは、公園内の「巨木の谷」と呼ばれるエリアに群生し在来の植物を駆逐してしまうニセアカシア・アワダチソウ・オニグルミを除き、在来の樹木を植樹し樹林の再整備を行いました。生き物はエサとする植物が決まっているものが多く、エサとなる植物の種類が多ければ多いほど生き物の種類も増えます。このような食物連鎖、生き物の多様性の意義を知ること、樹林の見方も変わり、将来に残していきたい樹林像が形になりました。

② チョウの回廊作りでは、オオムラサキの幼虫のエサとなるエゾエノキの更新を図りました。指標となる希少種を観察することで、多くの生き物の生態についても考察することができました。

③ 啓発活動として、近隣小学校の4年生を公園に迎え現地学習を行いました。自然とのふれあい、公園で取り組む活動について知ってもらう機会となりました。毎年、総合学習で来園してもらうことで、身近に残る自然を大切にしたいと思う心が育てばと期待します。

2. 活動の成果

①の樹林再整備においては、公園関係者（旭山記念公園市民活動協議会、公園管理者、札幌市中央区土木センター）で外来種の取り扱いについての共通認識を持つ機会となり、樹林管理についてお互いの理解が深まりました。今後生き物の保護についても、ルール作りを行うことになりました。

3. 参加者の声

活動に参加した児童が体験からの「気づき」をまとめ、コンクールやコンテストに出品、多くの賞を受賞しました。また、多くの保護者や来園者から活動へのご賛同の声が寄せられています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月22日	11月3日	5月30日	8月21日	7月11日	計
事業量		①令和の樹林作り		②チョウの回廊作り	③啓発	
参加者数	22人	23人	5人	15人	160人	225人
実施場所	北海道 札幌市中央区（旭山記念公園、都市環境林）					

森と自然体験の子どもエコキャンプ2019（A-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子ども達を対象に2泊3日の野外キャンプを行い、森林体験のほか次のプログラムを実施した。

実施日：令和元年8月2～4日 実施場所：白老町字石山 トラストの森及び周辺

参加者数：32名（子ども17名、指導者・スタッフ等15名（外部12名、会員3名））

プログラム：森の探索、夜の森ウォッチング、夜の森を感じよう、森の自然観察、木の実クラフト、
たき火炊飯、森づくり体験（カラムツの除間伐・シカ被害対策）、川の自然観察、
川遊びなど

2. 活動の成果

森の手入れ活動や自然とのふれあいを通して、森林や環境への関心を醸成するとともに、異年齢集団での活動を通して自主性、協調性を育むことができた。

今後も、多くの子ども達に森林の価値や森の手入れの重要性などを知ってもらうために、今回のような森林体験キャンプを継続していきたい。

3. 参加者の声

キャンプ最終日にアンケートを行った。

- ・楽しかったことの中で、森林体験では木の実クラフトと森づくり体験、たき火が多かった。
- ・次回のキャンプのプログラムの希望を聞いたところ、森と川の自然観察、木の実クラフトのほか、楽しいので日数を増やしてほしいとの子どもの声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日	8月3日	8月4日	計
事業量	森の探索 夜の森のウォッチング（団体）	除伐・枝打体験（0.0125ha） 夜の森を感じよう（個人）	木工クラフト （木の実等）	
参加者数	32人			32人
実施場所	白老町字石山 トラストの森及び周辺			

身近な森林再発見事業（A-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

身近な森林の再発見として、新型コロナウイルスの影響により活動の規模を変更、縮小しながらではあるが森林での活動を展開した。

厚真町環境保全林では、グリーンウッドワーク講習会を開催し、会場となる環境保全林の間伐材を使ってスプーン等を作成する。

6月には、間伐したナラを利用してナメコのコマ打ちもを行い、秋の収穫に向けて環境保全林で育成中である。

厚真町立上厚真小学校では、グラウンドに隣接する学校林の活用をめざし、草刈りや枯損木処理等のフィールド整備、自生する植物の調査を行っている。

2. 活動の成果

厚真町環境保全林においての活動を行うことで、森林の活用場を提供することができた。また、自分たちの活動の中で間伐を行った木材を有効利用することで、森林を自分たちの生活の中に取り入れ、より身近に感じる一助となっている。

上厚真小学校学校林整備では、近年活用されていなかった学校林を整備することで、今後の小学生の活動場所として活用を促進することができた。

3. 参加者の声

環境保全林で行ったグリーンウッドワークでは、生木での木工に初めて触れ、自分で気軽にスプーンなどを作ってみることができると知り、今後も継続して取り組みたいという声が聴かれた。

上厚真小学校学校林整備では、それまで学校林に立ち入ったことのない小学生が活動することができ、自分たちの身近なところに親しみを持てる森林ができたことで、もっと森の中で遊びたいと話している。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月6日	6月13日	6月14日	6月20日	6/14～30	計
事業量	グリーンウッド ワーク講習会	ナメココマ打ち会・ 植生調査	自生植物調査	自生植物調査	フィールド整備	
参加者数	11人	10人	3人	4人	8人	36人
実施場所	厚真町環境保全林		上厚真小学校学校林			

五稜郭保安林清掃事業（A-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

五稜郭風致保安林の塀の修理や草刈り、植木の剪定、巣箱の清掃付け替え、ゴミ拾いなどの清掃を行うことにより、緑化思想の普及啓発及び美化意識の向上を図った。

2. 活動の成果

緑化思想の普及啓発と美化意識及び貴重な風致・保健保安林の保護意識の向上が図られた。

3. 参加者の声

清掃終了後、五稜郭風致保安林を今後とも守り・育てていこうと会員同士で確認し合った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月26日	計
事業量	塀の補修、草刈り、剪定、清掃活動	
参加者数	54人	54人
実施場所	函館市柳町・本通 五稜郭風致・保健保安林	

木になるフェスティバル（A-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

1) 活動の目的

（地独）北海道立総合研究機構林産試験場を開放し「木材の良さの体感、普段は見ること、触れることのない体験・発見」の提供により、木材に親しむ体験を通して、木材利用の拡大と北海道が推進する「木育」活動の一層の浸透を図ることを目的にしています。

2) 活動の内容

林産試験場を一般公開し、木材利用に係る試験研究内容を紹介するとともに、木材に関する科学実験、観察、見学ツアー、クイズラリー、各種の体験コーナーなど14種類のコーナーを設け実施しました。

2. 活動の成果

今年は690名の方にご来場いただきました。

多くの方々から「体験できる催しがたくさんあって楽しかった」「木について興味・関心を持つ素晴らしいきっかけになった」という声が聞けました。また、樹種の違いも感じていただきました。

来年度も樹木や木材に興味を持ち、親んでもらえるような催事運営に取り組みます。

3. 参加者の声

- ・木が牛のえさに使われる実験をしていることを初めて知りました。
- ・クイズラリーで木のことを楽しく知れて嬉しかったです。
- ・貴重な体験の場を作って下さり、ありがとうございました。
- ・木を使って工作や体験をすることができ、面白かったです。
- ・木はいろいろなものに使われているのだと分かりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	計
事業量	木になるフェスティバル	
参加者数	690人	690人
実施場所	(地独)北海道立総合研究機構林産試験場	

阿寒湖畔における森林保全事業（A-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

旭川市、滝川市の一般市民を対象に、阿寒湖畔エコミュージアムセンター、前田一步園財団所有の「光の森」において自然探勝会を実施した。

（一財）自然公園財団が運営する阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは、パネル展示やマリモ水槽を観ながら職員から説明をいただいた。参加者は阿寒湖畔周辺の歴史や保全の方針、現在の状況、維持活動のようす、生態系などについて深く理解することができた。

その後は職員とともにバスで「光の森」に移動し、地図を手に林道を歩きながら、地熱が噴出する「ポッケ」や森林の現状、保全活動のようすを見学した。

2. 活動の成果

今回の事業の実施により、阿寒湖周辺は「切る山」から「観る山へ」という前田正名氏の遺志に沿って保全活動が行われた結果、乱伐されることなく現代に至るまで美しい姿を保っていることが分かった。参加者はそれぞれ森林保全活動への知識が深まり、森林を守ることの尊さについて理解が深まったと思う。これにより、参加者の地元周辺の森林を守り育む取り組みに参加したいという意欲喚起につながることを期待できそうだ。

3. 参加者の声

- ・「講師の田中政人さんのお話が興味深く、参加してよかった。一般では足を踏み入れることができない森を歩くことができ、思い出に残る旅になった。」
- ・「阿寒の森がそのまま、自然のままを大切にしていることの意味をよく理解できました。私財を投じて阿寒周辺の景観を守った前田家の方々に感服します。」
- ・「自然探勝会には何度も参加しているが、今回が一番よかった。森の保全について自分もできることから手伝ってみたいと思う。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月14日	7月15日	計
事業量	自然探勝会	自然探勝会	
参加者数	42人	42人	84人
実施場所	釧路市阿寒町 阿寒湖畔	釧路市阿寒町 阿寒湖畔	

普及啓発事業（A-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私たちの生活と深い関わりを持ち、限りない恵みを与えてくれる森林から生産される木材の良さを広く市民に理解を深めたく、木に触れ、木と遊びながら木の持つ優しさ・温かさが実感できる参加型・体験型のイベント、道産材・間伐材の使用・紹介・パネル展示、木材・木製品等の展示・販売等を通じて、森林や木の持つ素晴らしさ及び利用への理解を促し、併せて森林の持つ多面的機能及び地球温暖化対策の理解、さらに林業・林産業の振興をめざし開催した。

2. 活動の成果

現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされている。

環境エネルギー資源の問題解決に木材が中核的な役割を果たすことを期待し、暮らしに直結する身近な生活の中に木を取り入れてこそ癒されると、木材・木製品等の展示・販売、そして木工作体験を通して関心を持たた。

また、ポスターを各所へ掲示、チラシの配布、ホームページに掲載、ネット配信、旭川市広報誌、タウン情報誌掲載等、広くPRに努めた結果、参加体験者が増えたことは森林・林業の重要性についての普及啓発の一翼を担ったと思う。

今後も、森林・林業の普及啓発活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

木を見て！触れて！学ぶ！体験コーナーでは、子供たちが木の玉プール、スギックモック（杉の木の積み木）、「木の表札を作ろう」（木の実や枝を使って表札を作る）、おが粉アートなど木の温もりや香りを感じながら過ごし、木と触れ合い、楽しむことができた。

親子トンカチでは、家族で使える2段ラックを作った。紙すき体験では、ハガキを作った。「バードコールを作ろう」（卵型に削った木を使ってバードコールを作る）など木工工作を体験しながら作品を完成させた。

販売コーナーでは、木工品をはじめシイタケのほだ木、ラベンダーの苗木、カブトムシに興味が集まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	計
事業量	森林の市	
参加者数	約800人	約800人
実施場所	旭川市(旭川林業会館構内)	

「望みの森」森林浴の集い（A-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

美深町・上川北部森林室管理区内1林班「望の森」にて、森林浴参加の町民及び美深小学校3年生学年行事とタイアップして、桜の木5本の記念植樹を行った。児童ほか30名の父兄等がつたひ楽しんで心地よい汗をながした、作業したことにより桜の将来の姿など想像し子供同士会話が進み、より、森の樹木などに関心をもってもらった。

2. 活動の成果

森林に親しみ、意識せずに体に良い運動をし、森の音楽会、輪投げ、靴飛ばし、ストリートダンス等を楽しみ、無料配布のおにぎり、豚汁を食べ、ゲームに参加、玉子等の景品を沢山もらい楽しい1日を過ごしたようです。

森での楽しみ方や、森の木を大切に、何時までも自然の恵みを楽しめるよう育てることが如何に大切か思ってもらえた。

3. 参加者の声

- ・健康によく、楽しいので、又来年も友達を誘って参加したい。
- ・車の運転出来ない人は、その日だけ無料のバスがあればね。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月23日	計
事業量	「望みの森」森林浴の集い	
参加者数	300人	300人
実施場所	美深町字川西(道有林)	

森林を活用した青少年育成対策事業（A-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

7月に開催した夏の自然観察会では、阿寒町の白湯山にて樹木草花等の観察を行った。

10月に開催予定だった秋の自然観察会は、津別町のチミケップ湖での樹木観察等を行う予定だったが、熊出没情報などから参加者が極めて少なかったため、中止とした。

2月に開催予定だった冬季研修は、津別町内の木材加工施設や工場を視察・見学をする予定だったが、新型コロナウイルス感染症の道内発生事例が相次いだことから中止とした。

さらに、小学校2校での緑の教室を行う準備をしていたが、今年度は見送ることとなった。

2. 活動の成果

阿寒町の白湯山にて実施した自然観察会では、樹木草花の他、温泉の流れる川や泥火山のポッケを観察することができた。

また、阿寒湖畔スキー場から自然歩道を通って行くことのできる白湯山展望台からは、雌阿寒岳と阿寒湖の絶景を望むことができ、壮大な自然を肌で感じ、自然への理解と関心がより深まった。

3. 参加者の声

自然観察会で樹木草花等について学び、オホーツクの大自然を身近に感じられたことで、自然を大切にしようという意識が高まった。

自然豊かな環境が人間の豊かな心を育むとの講師の話に共感した。

自然を感じられる機会が少なくなりつつある現代において、次世代へこの自然を引き継いでいくために、緑の教室等の普及啓発を続けていく考え。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月6日	10月12日	2月28日	計
事業量	自然観察会	自然観察会	冬期研修	
参加者数	17人	中止	中止	17人
実施場所	阿寒町	津別町	津別町	

森林及び木製遊具体験事業（A-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具を外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策（森林のお話と森の端材集め）
- ・木工体験事業
- ・木製ダーツゲーム

2. 活動の成果

日時 令和元年9月22日（日）サロマ湖遊歩道・北見田園空間情報センター

参加人数 15名

森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、地域材で製作した「木製ダーツゲーム」により木材の利用拡大を理解することができた。小物入れ体験も行い木工体験もできた。

3. 参加者の声

とても楽しく森の仕組みがわかることができた。
ダーツが面白かった。ダーツが当たらなかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月22日	計
事業量	森林体験ツアー	
参加者数	15人	15人
実施場所	佐呂間町	

生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間の輪を広げることを目的として活動しています。

具体的には、森林管理署との「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、自然観察会などを行っています。

また、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っている針広混交林をめざす自然再生事業等への参加、パネル展・森林教室等での協力活動を行っています。

2. 活動の成果

ボランティアの活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に対する関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになっていきます。

3. 参加者の声

- ・すばらしい渓谷と紅葉のコントラストに感激、このような自然を残したい。（秋の森林散策会）
- ・木の枝やマツボックリなど、身近な材料で楽しめた。（クラフト作り）
- ・自然の中で遊ぶことが少ないので貴重な体験。（森林教室）

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月～10月	7月20日	10月12日	9/28～10/6	5/5、8/4、 8/6	計
事業量	森林づくり活動 (6回)	森林教室	森林散策会	パネル展 クラフト教室	子ども体験デー	
参加者数	90人	25人	43人	(約200名)	(約400名)	158人
実施場所	北見市・網走市 (オホーツクの森)	北見市・網走市 (オホーツクの森)	滝上町 (錦仙狭)	北見市 (緑のセンター)	北見市 (ネイパル北見他)	

津別「げんきの森」利用推進事業（A-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「げんきの森」を活用し町内の子どもたちへの森林体験活動の機会提供に取り組む。

(1) ツリーイング

ツリーイング体験を通じて木と直接触れあい、木と人の関わりなどの学習を行う。

(2) 林業体験学習（ヤキイモ作り・植樹・ネイチャーゲーム・のこぎり体験）

森を育む心と森林の機能や役割について学習するとともに、地球温暖化防止に森林が果たす役割の理解を深めるため植樹を実施する。

2. 活動の成果

(1) ツリーイング

普段体験しない高さから森林を観察し、森林を構成する樹種の違いなどを認識する機会を設けることができた。

(2) 林業体験学習

桜の苗木の植樹体験を通して、樹木が成長する過程を学ぶことができた。植樹体験やネイチャーゲームを通じ、樹木への興味や関心を高める場を提供することができた。

(1)、(2)を通して、子どもたちは森林での活動の楽しさや森林の大切さを感じることができ、森林・林業への理解も深まった。

3. 参加者の声

(1) ツリーイング

最初は戸惑いを見せる児童も見られたが、徐々にコツをつかみクライミングを楽しむようになった。空中にいる感覚や普段見られない樹の上から見る景色に歓声が上がった。

(2) 林業体験学習

ヤキイモ作りでは、落ち葉を夢中になって被せ、できあがった焼き芋をおいしそうに食べていた。植樹やネイチャーゲームでは、いろいろなところに目を向けるなど、木や森に興味を持って活動していた。子どもたちは、心もおなかも満たされ、笑顔で帰って行った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月26日	6月20日	計
事業量	林業体験学習	ツリーイング体験	
参加者数	7人	12人	19人
実施場所	津別「げんきの森」(津別21世紀の森)等		

緑化団体ネットワーク推進事業（A-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

オホーツクの「みどり」を次代に引き継ぐため、オホーツク地域の各緑化団体等の取り組みの輪を広げ、みどりに親しみ、みどりを守り、みどりをつくるための活動を促進することを目的に、(1) 団体等相互の交流と情報交換、(2) 緑化活動の活性化、(3) 緑化推進によるみどりづくり に関する取り組みを行った。

2. 活動の成果

団体間で情報交換することにより、相互の交流や理解が深まった。また、各事業を実施することにより、構成緑化団体はもとより地域住民のみどりに対する関心が深まり、みどりをつくるための輪が広がった。

今後もみどりの輪をさらに進める活動を継続する。

3. 参加者の声

- ・こんなに自然が豊かで素晴らしい場所はもっとみんなに知ってもらいたい。
- ・自然の中での森林ウォークをしてみたかった。
- ・展望台からのチミケップ湖の眺めが良かった。また参加したい。
- ・箸づくり体験が楽しかった。
- ・みどり検定に挑戦、ますます樹木や草花への興味が深まった。
- ・社員、家族一同での枝打ち体験、森林散策が楽しかった。
- ・今後の活動推進の参考となる多くの情報が得られるなど、参加者間でのお互いの知識の向上につながった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	8月11日	10月20日	10月24日	計
事業量	森林ウォーク in チミケップ湖の森	オホーツクみどり検定	森を知るイベント	紅葉のチミケップ湖一周森林ウォーク	
参加者数	70人	10人	109人	11人	200人
実施場所	津別町	網走市	津別町	津別町	

地域材の利活用と生物多様性保全事業（A-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

釧路市の森林イベント参加や講座、ワークショップを開催して、カラマツやトドマツの間伐材から出る枝葉を蒸留して作った蒸留水や精油で、化粧水やジェル作りを実施した。

エゾシカによる森林被害の理解を目的に、捕獲したエゾシカの骨を利活用したスープを紹介して、生物多様性と森林の保全バランスを理解してもらうワークショップを開催した。

水蒸気蒸留器でカラマツの蒸留をデモンストレーションし、見学をしてもらったり、作業課程の説明や活用方法のレクチャーをする講座を開催した。

2. 活動の成果

森林、林業というと木工品だけと思っている一般市民が多い中、ヘルスケアにも役立つことに関心を持ってもらえた。

子供だけではなく、男性や中高年にも森林やエゾシカのことに関心を持ってもらい、好評だった。

これからも、定期的なワークショップ開催や啓発イベントに参加するなど、積極的に活動をしていきたいと思う。

3. 参加者の声

- ・カラマツがこんなにいい香りになるとは思っていなかった。
- ・鹿は肉だけかと思っていたが、骨も利用できることは良いと思う。
- ・子供と参加して自由研究にもカラマツやトドマツを取り入れたい。
- ・森林の良さを広く知っていただけたと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9日	11月10日	12月25日	1月15日	1月18日	計
事業量	ワークショップ	ワークショップ	講座	講座	講座	
参加者数	18人	24人	5人	4人	5人	56人
実施場所	観光国際交流センター	観光国際交流センター	スタジオエシカル	スタジオエシカル	スタジオエシカル	

間伐施業体験事業（A-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業の実施要望のあった根室市内小学校2校（4年生及び6年生）を対象に、市有林の間伐作業現場において森林施業現場見学会を実施した。

森林施業現場見学会の内容は、実際に間伐現場において稼働している高性能林業機械の作業風景の見学や解説を通して、林業という職業の具体的な作業内容や役割を学んでいただき、林業の重要性和素晴らしさについての普及啓発活動を実施した。

また、森林の果たす役割とその役割を維持するための手入れ作業の重要性について学んでいただくために、参加者には実際に枝打ち作業を体験していただいた。

2. 活動の成果

今回の森林施業現場見学会を通して、参加した生徒及び教員に対する森林・林業の重要性についての普及啓発及び長期的な視点での林業の担い手対策の一翼を担ったものと思う。

今後も更に多くの方に森林及び林業の重要性を普及啓発するため、同様の事業を継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

参加者からは、初めて体験する森林の枝打ち体験や高性能林業機械の性能に驚嘆の声が上がり、中には将来森林に係わる仕事をしてみたいという感想もあり、参加者にとって非常に印象深い経験となった様子であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月15日	10月17日	計
事業量	森林施業現場見学会	森林施業現場見学会	
参加者数	75人	59人	134人
実施場所	根室市槍ヶ岳地区		

緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業（A-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当団は、豊かな自然環境を活用した自然体験活動を主として、自然を愛し、ふるさとを愛す心を育てるとともに、集団活動を通じて相互に協力し合い、友情を深め、心身ともに健全で豊かな人間性を培い、また緑の募金活動や植樹活動等の奉仕活動、地域の行事等にも積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚を高めることを目的に、年間を通じて様々な自然体験プログラムを実践しています。地元の講師に支えられながら実施した植物観察や春と秋に実施している野鳥観察、乗馬体験など専門的な分野にも触れながら、今年も楽しく活動できたと感じております。そのフィールドがあるのは緑を守る活動があつてこそということも団員たちは理解しており、春と秋に2回行っている街頭募金活動では広く住民に緑の大切さを伝え、植樹祭や林業体験への参加を通して、森林愛護の精神も活動の中で養うことができています。

2. 活動の成果

今年度は天候や新型コロナウイルス感染対策の影響もあり、中止になった活動もありましたが、育成会や中学・高校生の力強いサポートにより、無事に活動を行うことができました。また、今年度は団員同士が話し合い、自ら計画することに重点をおいて活動してきたことで、プログラムのマンネリ化を防ぎ、団員の達成感が増し、より充実した活動になったと感じております。さらに、育成会との連携により、安全面でのサポート体制が充実したことも大きな成果であったと感じております。次年度以降も新たなプログラムを指導できる講師の発掘や指導者への研修機会の提供など、指導者育成にも力を入れ、運営していくことを考えております。

3. 参加者の声

団員の父母からは、年々たくましく成長する子どもたちの姿にたくさんの感謝の言葉をいただきました。今後も地域の子どもたちとともに地域に根ざした活発な事業展開をしてまいります。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月18～19日	8月24～25日	9月28日	11月13日	その他22日間	計
事業量	野鳥観察会 中標津町植樹祭 緑の募金ほか	冒クラ キャンプ	野鳥観察会 緑の募金	乗馬体験	活動事前学習 もくいく交流会 林業体験 雪像づくりなど	
参加者数	17人	20人	14人	11人	354人	416人
実施場所	中標津町森林公園緑のふるさと研修舎ほか根室管内					

青少年木育推進事業-木育ひろばinチ・カ・ホ（A-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を大切に思う心を培うことを目的に、多くの住民が利用する札幌駅前地下歩行空間にて、都市部の児童や小中学生、一般住民を対象とした木育ひろばとして、木の玉プールや積み木で遊べるスペースや木工作のワークショップ、森の働きなどに関する展示などを実施。

2. 活動の成果

普段は森や木にふれる事の少ない都市の子どもたちに、木とふれあう事の出来る機会を提供することにより、木の暖かみや柔らかさを実感していただくとともに、森の働きなどの理解を促進できた。

さらに、様々なワークショップを実施するため、道内各地で活動している木育マイスターが、講師として集まってきた事により、それぞれの地域や活動状況などの情報交換も進められ、今後の活動の糧となった。

3. 参加者の声

- ・木の暖かみを子供が体験できた事は、学校では出来ない事なので良い体験でした。
- ・木とふれあう事で、自然環境の事や温もりを感じ優しい気持ちにが育っていくと感じます。
- ・子供が木工作を楽しんでいた事、興味を持つ事で、いろいろ学んでいたのが良かった。
- ・木の暖かみを感じた。子供が楽しそうにしている参加して良かったです。
- ・木の香りで癒されるので、家の中で木の香りを取り入れてみたくなりました。
- ・普段あまり知る機会のない林業や植樹について知る良い機会でした。親子向けのメニューは参加者も見にきやすいので、良いと思います。 など

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月18日	1月19日	計
事業量	木育ひろばinチ・カ・ホ	木育ひろばinチ・カ・ホ	
参加者数	2,123人	1,781人	3,904人
実施場所	札幌市 札幌駅前通地下歩行空間		

緑の少年団活動助成事業（A-321）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団活動の活性化を図るため、(公社)国土緑化推進機構や当会で発行・斡旋している樹木や森林・草花などを学べる図書や森林内で学ぶ・遊ぶをテーマにした図書を贈呈し、団員や指導者の知識の向上と森林内での活動の幅を広げる取組の助成を行う。

2. 活動の成果

現在活動中の道内の緑の少年団（31団）へ北海道の樹木や草花などを対象にした書籍を配布することにより、団員はもとより指導者についても、身近な森林などへの興味や関心が深まるとともに、森林内で学ぶ・遊ぶをテーマにした書籍により活動の幅が広がり、森林への愛着が深まる。

3. 参加者の声

(配布先のお礼のこぼ)

新型コロナウイルス感染防止のために、様々な活動が自粛を余儀なくされる中、このようなご配慮をいただき、感謝に堪えません。

とても良い参考図書、ありがとうございました。大切に使用させていただきます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月16日	計
事業量	図書の送付（6種10冊）	
参加者数	31団体	31団体
実施場所	北海道内全域	

馬追自然の森整備事業（C-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業、また、清掃作業と風倒木の処理及び登山口（7カ所）の粗大ゴミ清掃処理など、年数回実行して環境保護と整備に努めている。

自然の大切さを学ぶ研修会を開催するとともに、自然の森の素晴らしさを知っていただくため、参加者を募り一般町民とともに遊歩道を散策するトレッキングを実施している。

2. 活動の成果

遊歩道の整備をすることで、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者を和やかな気持ちにさせていただき喜んでおります。

毎年実施している登山口の清掃も、2カ所が道々に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ゴミは無くなりません。しかし減少はしてきていますが油断なりません。看板などで不法投棄を呼びかけるなど今後の課題です。

3. 参加者の声

会員達は、自然の森を守っていききたいという気持ちで、心強く取り組んで活動している。

漣台（山頂）の記録帳を見ると、町内外から大勢の登山者の方々に来ていただき、整備された遊歩道に称賛する声が多数あります。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月21日	2月5日	4月18日	5月6日	6月13日	計
事業量	遊歩道草刈り	研修会	登山口清掃	清掃登山	遊歩道草刈り 標識修繕	
参加者数	14人	20人	18人	20人	20人	92人
実施場所	北海道 夕張郡長沼町 馬追自然の森遊歩道一帯					

清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業（C-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 広葉樹等500本を植栽し、当該植栽木の保育（根踏・下草刈）を実施
 - ・ 6/18 厚田区発足 ミズナラ100本 仮植（青年部5名・職員1名）
 - ・ 10/18 厚田区発足 ミズナラ100本 仮植場所より一時保管（青年部4名・職員1名）
 - ・ 10/20 厚田区小谷 ミズナラ500本 植栽
（女性部8名・青年部7名・役員3名・系統関係者8名・職員3名）
- ※合計 延べ40名

2. 活動の成果

漁業関係者により、市有地「魚つき林」にミズナラの植樹を行って再生を目指す取り組みにより、森林を整備することの大切さや大変さを実感し、環境を保全することによる漁業資源の維持・増大に貢献できたものと考えます。

3. 参加者の声台風被災森林の植栽後の保育活動

今回、唯一参加の小学生は女性部員の子で、父親の仕事とのつながりを深く考えるようになり、この植樹で、美味しい魚がたくさん獲れるようになってほしいと話しており、植樹の大切さを家族で話す機会が増えたと、女性部員より報告がありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月18日	10月18日	10月20日	計
事業量	仮植 ミズナラ100本	仮植 ミズナラ100本	植樹 ミズナラ500本	
参加者数	6人	5人	29人	40人
実施場所	石狩市厚田区発足		石狩市厚田区小谷107-1	

台風被災森林の植栽後の保育活動（C-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 札幌市澄川都市環境林（札幌市56林班65.14ha）
今年度は、2004年2018年の台風と地震の被害を受け、荒れ果てた広葉樹の二次林の整備にあたりました。根返りした風倒木・傾斜木、中折れ木等の整理伐を終えたが、混みあった林床は、地拵えのみをして、実生稚樹の再生に期待した。作業道の整備や木道の設置で間伐材の集材作業は効率よく行えた。
- 札幌市有明第二環境林（札幌市199林班 4.42ha）
2018年9月の台風で伐期を過ぎたトドマツの倒木・傾斜木・中折れの被害が多数見られ、2019年8月までにそれらの処理を終えた。
- 野幌森林公園国有林（42林班か小班 1.1ha）
熊出没のため活動自粛の要請を受け延期していた標準地のトドマツ・広葉樹の生長調査を11月1日に行った。

2. 活動の成果

被害を受けて荒れ果てた森の整理で、林床が明るくなり、従来の郷土樹種の実生に期待している。

3. 参加者の声

無立木地の地拵えで、周りの母木からの実生を観察しながら、植栽苗との生長比較を見ていきたい。

現場での安全講習会（特に、伐倒時、チルホール等の機械類の使用時、小径木の手ノコでの処理法など）の継続実施は安全意識向上に繋がっている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月2日	7月5日	8月17日	9月10日	10月24日	11月1日	11月15日	1月8日	2月21日	3月28日	計
事業量	地拵え	整理伐	道路整備	器材整備	植栽	成長調査	整理伐	安全講習	整理伐	集材作業	10回
参加者数	16人	11人	10人	11人	9人	9人	9人	17人	11人	15人	118人
実施場所	澄川	有明	澄川	澄川	澄川	野幌	澄川	澄川	澄川	澄川	

「遊々の森」での森林体験事業（C-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

石狩森林管理署管内の国有林において「遊々の森」を協定し、木の葉、樹皮などの学習、枝打ち、樹木の測定、植樹（苗）、森探検と動植物の観察（フィールドビンゴ）、カミネッコンによる植樹など、児童の発達段階を考えた活動を展開した。

2. 活動の成果

毎年継続的に実施し、系統的な学習を積み重ねることで、児童の森林や動植物への関心が高まっている。また、森林を守るためにどのような活動が行われているかについての理解も深まっている。植樹の際には、これから長い年月をかけて太い木に成長していくように、しっかり根付くように丁寧に作業していた。中学年で予定していた枝打ちや樹木の測定、樹木の種類とその特徴などの活動は、3度計画したが全て雨天のため中止に至った。低学年では、葉っぱを見たり拾ったりして楽しく木の種類を学んでいた。今後についても継続的にこの活動を実施させていただき、森林環境教育を通して、動植物愛護や学校林活動、花壇・教材園の活動の内容についても深めていきたい。

3. 参加者の声

自然の中でのフィールドビンゴは、難しいものもあったが書かれているものを見つけることができ楽しかった。森林は私たちの生活に大切なものであることが分かった。森林を守る活動をしている人たちがいることが分かった。また森林の学習をした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月8日	7月9日	計
事業量	葉っぱと樹皮の学習	カミネッコン 植樹と散策	
参加者数	1年生35名 2年生33名	5年生50名 6年生47名	165人
実施場所	北海道千歳市 鳥欄舞国有林 (5298・5320)		

コンサ百年の森づくり事業（C-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

台風被害により失われた支笏湖周辺の森を復興するため、2008年から植林した苗木の維持管理とともに、小学生を対象とした学習「森の教室」を現地で実施。石狩森林管理署の協力の下、森の生態系などの授業とカミネッコンを利用した補植作業を行い、森の機能を含む自然環境についての啓発と理解を深めてもらう。

2. 活動の成果

絶滅危惧種のシマフクロウをモチーフにしたコンサドーレのマスコット「ドーレくん」。子どもたちにも人気があるこのドーレくんを題材にした生態系についての学習や苗木の補植作業を現地で実施することにより、多感期の小学生に対して、継続的な森の育成活動は生物多様性の保全に貢献できるのだということを理解してもらえた。

これからも「森の教室」を通して、子どもたちへ森林や自然環境についての理解を深める取り組みを実施していきたいと考えている。

3. 参加者の声

植樹は初体験という児童がほとんどで「シマフクロウが棲めるくらいの木になるまでには、すごく時間がかかるんだ」など、それぞれにさまざまな思いを持ったようだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月18日	8月26日	8月29日	計
事業量	現地予見調査	下刈と置き苗床作り	学習と補植	
参加者数	1人	3人	97人	101人
実施場所	千歳市水明地区（石狩森林管理署千歳森林事務所5460林班）			

サミットの森プロジェクト（C-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

カーボンオフセットを目的とした植林体験や、下草刈りを通して森林保全の重要性を広く普及・啓発させる。
美幌町にて約0.5haの下草刈り体験（2019年7月実施）や約200本のカラマツ植林体験（2019年10月）と森林の現状視察を実施。

2. 活動の成果

実際の森林整備を体験することによって保全の重要性やCO₂削減の大切さが理解されてきた。
今後も出来るだけ多くの方に参加できる機会を増やし、整備された森林を増やすことの一助になりたい。

3. 参加者の声

初めて参加された方は森林施業の重要性と大変さを感じ、毎回参加している方はかかわった森林の成長を見るのが楽しみにしているようです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月6日	10月20日	計
事業量	下草刈り・視察	植林体験・視察	
参加者数	20人	10人	165人
実施場所	北海道 美幌町		

森林の役割を助ける「森に光と風を」事業（C-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市、小樽市、恵庭市、江別市、苫小牧市など、8箇所の森林フィールドにおいて、下草刈、間伐等の作業を行った。
事業名のとおり「森に光と風を」とおすべく、また、山林の活用・再生などを念頭に置いて作業を進めた。
また、当年は公共林である恵庭市・江別市の防風林の風倒木などを処理して、再生に努めた。

2. 活動の成果

いずれのフィールドにおいても、下草を刈り、間伐をし、枝払いなどを行うことより、森には光と風が入り、森が再生していくよう作業を進めた。防風林などは風倒木が多く、外観も良くなく、その役割を果たせなくなることもあるため、その風倒木の処理作業をして、樹木の健康を取り戻し、防風林の役割を順当に果たせるようにした。

広報活動においては、ホームページの随時更新に努め、第53回林業関係広報コンクールにおいてホームページ部門の奨励賞を受賞した。このようなホームページの充実は新たな会員勧誘（ひいては啓蒙活動）につながり、新規会員9名もの入会につながった。

春には、日赤による救命救急講義を開催し、森林内の作業における危険の認識と、それに伴う救命救急方法について学んだ。

3. 参加者の声

新入会員が9名入会いただき、皆、作業が楽しく、また、森林の再生・保護に役立つことを知って、積極的な参加につながっている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日	7月28日	8月10日	8月25日	9月14日	10月12日	10月27日
事業量	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等
参加者数	8名	13名	9名	8名	12名	12名	4名
実施場所	恵庭防風林	札幌： 柴原山林	恵庭防風林	恵庭防風林	江別防風林	苫小牧山林	苫小牧山林

実施時期	11月9日	4月11日	5月24日	6月13日	6月28日	計
事業量	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	下刈り 間伐等	12回
参加者数	15名	21名	16名	15名	14名	147人
実施場所	小樽： 高川山林	小樽： 高川山林	札幌： 柴山山林	江別防風林	江別防風林	

「ラブアースの森づくり」事業（C-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

白老町の森で、「ラブアースの森づくりin白老」を実施しています。開催地は、2012年までに植樹をしてきた場所ですが、現在は、周辺からカラマツ、シラカバ、ハンノキなどの種が飛んできて育ち、大変混みあい、手入れが必要な状態です。

本事業では、北海道の自然環境保全の啓発から広い視野の環境活動につなげ、森づくり活動を通して、CO₂削減・温暖化防止、生物多様性の保全を学び、よりよい北海道の自然環境を次世代に残すことを目的に、開催しています。

2019年度は、10月5日（土）に、一般参加者22名と関係者15名により、NPO法人ウヨロ環境トラストの指導のもと、森を育てるための育樹作業（除間伐等）と、ウヨロ川フットパスウォーキングで、サケの遡上や自然の観察を行いました。

2. 活動の成果

作業参加者37名で、森を育てる作業として、樹木が育ちやすい環境に整えました。樹木や環境（バランス）を観察するポイントや、森全体の将来を想像する視点を学び、森林が果たす役割と間伐や枝打ちによる育樹作業の重要性を知ってもらう場を提供でき、環境づくり・自然保護への関心を広めることができました。

また、フットパスウォーキングでは、サケや周辺の生物を観察し、多様性の保護の重要性を学びました。

3. 参加者の声

「育樹」に着目点を認識してもらい、森への関心を深めてもらうことができたと思います。

自分の森でも技術を活かした活動をしたいと参加した方には、大変勉強になったと喜んでいただきました。

また、サケが遡上のために連なる姿に、生命力を感じたという声もありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月5日	計
事業量	育樹体験・森林観察会	
参加者数	37人	37人
実施場所	白老町石山	

風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり（C-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（目的）

平成16年9月の台風で被害を受けた野幌森林公園の再生を検討する「野幌森林再生検討会」（座長：五十嵐恒夫北大名誉教授、主催：北海道森林管理局）の自然豊かな森林の再生に取り組む。

（内容）

- ・自生種の苗木による風倒被害地の再生を目的とした植樹。
- ・植樹した苗木の育成のための下刈作業。
- ・生育状況調査及び樹種選定の検討。

2. 活動の成果

（成果）

- ・新たに風倒木が1本発生し、手前植栽列の入り口をふさいでいたため手鋸で整理、複数の植栽木につる類が巻き付いていたため手ノコで切断し、植栽木の保全に努めた。
- ・保育作業（下刈）を通じて森林育成の大変さを学ぶとともに、子供たちや初めての参加者が森林に興味を持つきっかけとなり、森林の重要性を認識することにつながった。
- ・植樹と下刈を始めて15年が経過し、樹木もかなり成長し、植生も徐々に変化してきた。

（これからの取組）

- ・植樹や保育作業（下刈）などの森林育成活動の継続実施。
- ・生育状況調査及び樹種選定の再検証。
- ・女性や子供を対象とした森林学習会の実施。

3. 参加者の声

・初めて参加し大鎌で笹を刈ったが、普通の草と違って太く背丈もあるため結構大変だと知った。大変だったけど楽しく感じだし、森の中は気持ち良かったので、また来年も参加したい（高校生）。

・草刈りの途中、笹原に古い鳥の巣が出てきてびっくりした。笹原に巣を作る鳥がいることを知って森はいろいろな生き物が住んでいると思った。（小学生）

・ぼくは虫が大好きなので森に来る前の日からすごく楽しみだった、草刈をした後、落ち葉をめくったりしてたくさん虫を見つけたので楽しかった。（小学生）

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月27日	計
事業量	植樹・下刈り 0.62ha	
参加者数	16人	16人
実施場所	野幌国有林 42林班に小班（0.24ha）、54林班に小班（0.38ha）	

未来に向かって日高の森林づくり事業（C-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地元の森林をフィールドに体験林業（森林再生を図るための造林地の下刈りや植樹・枝打ちなどの森林整備）を通じ、森林浴を満喫して、会員相互の親交を深める活動とする。

2. 活動の成果

森林・林業に関する理解の増進に資することができ、身近な自然に親しみ、森林づくりを楽しみながら、国土緑化事業や地域活性化に貢献したい。

3. 参加者の声

「親睦を第一に、決して無理をせず」をモットーに、身の丈に応じた活動を続けており、国民の財産（森林）づくりに少しでも役立てたかなという満足感がとても心地よい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月5日	6月19日	7月11日	10月12日	10月17日	計
事業量	町有林 枝打ち0.35ha	希望の森事業 枝打ち0.15ha	森林再生事業 下刈り0.15ha	バットの森植樹祭 40本	町有林 枝打ち0.35ha	
参加者数	9人	8人	9人	4人	8人	38人
実施場所	新ひだか町 町有林	新ひだか町 国有林	苫小牧市 樽前山麓国有林	新冠町 国有林	新ひだか町 町有林	

日高の森づくり事業（C-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

日高地域の森林で、主に地元小学生を対象とした環境教育を行い、子ども達に自然のしくみと森林を大切にすの気持ちを育てることを目的に、植樹活動や枝打ち体験などを通じて、森林の働きを学ぶ事業を行う。

新冠町立朝日小学校では、今年度も「総合的学習の時間」において、継続的に森林の働き、樹木に関する座学を実施している他、学校林「朝日の森」や学校施設を利用して、木工教室、枝打ち体験などの体験学習を実施した。

他に、地域の親子を対象に、シイタケの植菌体験を開催・実施している。また、今年度は、会員の技能・技術向上を図るため、リスクマネジメント講習会、ツリークライミング技術講習会を実施した。

2. 活動の成果

身近な森林環境を活用して森林教室を継続的に行ってきた朝日小学校では、樹木や森林生態系への知識や関心を持つ児童が増え、さまざまな体験学習を生き生きと楽しむ姿が見られた。

また、地域の住民に身近な森林環境に親しむ機会を提供することができた。

マネージメント講習会では、野外活動における安全管理に関する知識・技能を身に付けることができ、併せてツリークライミングの最新の技能技術を習得することができた。

3. 参加者の声

- ・木の枝を切るのは楽しそうに見えるけど、実際にやるとすごく大変な作業だということがわかりました。
- ・枝打ちをした後がすっきりして気持ちよかったです。
- ・木を切ることは大変だったけど、木を守るために、こんなことをするんだと勉強になりました。
- ・木の名前をたくさん覚えた。
- ・シイタケがこんなふうにできるんだとわかった。
- ・菌駒をホダ木に打ち込む作業がおもしろかった。
- ・どうして菌駒からシイタケができるのか不思議だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月10日	11月1日	4月19日	5月29日	6月26日	計
事業量	枝打ち体験	木工体験 表札作り	シイタケ 植菌体験	リスクマネジメント講習会 ツリークライミング講習会	木工教室 巣箱作り	
参加者数	8人	7人	6人	4人	11人	36人
実施場所	新冠町 判官館森林公園	新冠町 朝日小学校	新冠町 松本農園	新冠町 松本農園	新冠町 朝日小学校	

「おさかなの森づくり運動」事業（C-13）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

八雲町遊楽部川は、全国でも有数の清流としてサケ・マスの遡上河川であり、また、アユ等多数の魚類が生息している。近年、遊楽部川を含む管内河川の自然災害等により、河川の底棲動植物並びに水資源に対する影響が危惧される中、海を育む森づくり計画を策定し、海と河川に係わる森林整備を図るため、一般町民等の参加を募り緑の豊かな自然環境と普及啓発を図ることを目的として、地域の関係者と連携のもとに植樹（ハルニレ苗木550本）を実施した。

2. 活動の成果

平成6年度より毎年実施している本事業については、植樹による森づくりの効果だけにとどまらず、本事業を今後も継続していくことにより、漁業者のみならず関係者間における森林整備が海と河川を育むという意識の維持・向上につながっている。

3. 参加者の声

- ・毎年植樹に参加することで、本事業の海への好影響を感じられる。
- ・森林整備を継続していくことで、河川からの流木や濁水の流出が抑制されることを願う。
- ・さけ資源の維持・保護のため欠かせない事業である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月16日	計
事業量	0.2ha ミズナラ550本	
参加者数	20人	20人
実施場所	二海郡八雲町 富咲	

第25回サケの上る森づくり植樹祭（C-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と海との密接な関わりに着目し、魚の育成環境・自然回帰を図り、豊かな海づくりに繋がる植樹活動を行うことを目的とする。

2. 活動の成果

豊かな森づくりは豊かな海づくりにつながるとの観点から、魚の生息環境への自然回帰等を図り、「山・川・海」の緑化思想の普及啓蒙が図られた。

3. 参加者の声

実行委員会構成員のほかに町内の緑の少年団2団体が参加しており、参加児童からは、せたな町にはたくさんの森林があり、その森と海が深く関わっていることを学んだ等の声が聞かれた。

児童たちは大人たちのサポートを受けながら、苗木が大きく育つように心を込めて植樹をしている様子だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	計
事業量	植樹祭 苗木180本	
参加者数	103人	103人
実施場所	せたな町 北檜山区 徳島町有林	

お魚を増やす森づくり (C-15)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「森と川と海はひとつ」を合言葉に、森や自然について実践的に学ぶ活動を実施しました。

国有林「遊々の森」を活用した森林教育として、占冠小学校を対象に、関係団体と協力して植樹活動を行うとともに、メープルシロップの採れる「イタヤカエデ」を、村民憩いの場である「メープルの森」での植樹祭で、占冠小や関係団体と参加し植樹しました。

また、植樹した後の保育作業として、雑草や灌木の刈り払いや枝打ちを行うほか、アオダモのエゾシカ食害を防止する対策を実施しています。

2. 活動の成果

森で植樹・保育活動を行い、森と人がずっと共に生きる、かけがえのない自然を守る大切さを肌で感じ、未来へつないでいく機会であったと思います。

3. 参加者の声

- ・森や木が大好きな仲間たちが、森づくりの実践活動に参加していくことは、小さなことかも知れませんが、必ず将来への架け橋になるものと信じています。
- ・イタヤカエデの木が成長して、大好きなメープルシロップの樹液がたくさん取れてほしいと笑顔を見せていました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月25日	8月27日	9月3日	10月4日	10月4日	計
事業量	下刈1回刈り 約2ha	下刈2回刈り 約2ha	自然体感 カミネッコン植樹 アカエゾマツ50本	植樹祭 0.5ha イタヤカエデ500本	枝打ち 0.5ha	
参加者数	14人	14人	4人	7人	6人	45人
実施場所	鵜川源流 国有林 占冠村上トマム		国有林 「遊々の森」	村有林 「メープルの森」	村有林 占冠中央	

旭川ユネスコの森づくり (C-16)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境保全及び青少年緑化教育活動を目的に実施しており、今年度は、参加児童が倍増したため、バス2台を借り上げて開催した。

- ・6月に会員と小学生が、旭川新橋河川敷でミズナラのポット苗を作り、各家庭に持ち帰って9月まで水やりなどの育苗。
- ・大会員が、植林地の下草刈りや枝払い作業を実施。
- ・9月に、自分で育てた苗を持ち寄り、大雪山旭岳や天人峡近くのユネスコの森で植樹を行い、森林技術指導官により森林の役割などを現地学習した。植樹後は、「森の神様」と呼ばれる樹齢900年のカツラの巨木の下でお弁当を楽しむ。

2. 活動の成果

何回も参加している児童が多く、活動の意義が子どもの心に定着してきた。

今年度は、上川中部森林管理署の森林技術指導官たちによりクイズ形式の紙芝居を自作していただき、子どもたちの学習意欲を喚起していただいた。

子どもたちは、自然の中での体験学習によって、森林の働きを体で感じ、子どもなりの表現で自分たちの活動の誇りを発表していた。

3. 参加者の声

- ・森林技術指導官の説明で、森の役割がわかった。
- ・子ども達「僕達は緑のダムを作っているんだね。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月15日	6月26日	9月11日	9月21日	計
事業量	紙ポット作り	下草刈り	下草刈り	苗木植樹	
参加者数	52人	5人	5人	48人	110人
実施場所	旭川新橋河川敷		東川町野花南国有林		

赤岩青巖峡環境整備事業（C-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

北海道の山岳会員を中心に占冠村内外からボランティアを募り、赤岩遊歩道と周辺の清掃活動を行った。清掃活動を行いながら赤岩遊歩道に自生している植生などの説明をしながら保全活動をした。清掃終了後には赤岩青巖峡での取り組みなどを記載した資料配り意見交換を行った。

巨石と苔の散歩のツアーで占冠村在住のガイドに依頼し、占冠村の赤岩青巖峡の成り立ちや保全活動について無償でガイドツアーを行った。

2. 活動の成果

今回の清掃活動や意見交換を行い、これからの赤岩青巖峡（遊歩道）環境整備や普及活動について大変意味のあるものだった。今後は意見交換でた箇所を重点的に維持・整備を行い来年度以降もボランティアを募ってこれからの活動に活かしていきたい。

3. 参加者の声

今回、家族で巨石と苔の散歩に参加し普段感じる事の出来ない自然を体験できた。子供たちも大満足しているとの事でした。清掃を通じて、赤岩青巖峡の魅力を感じることができたと思う。遊歩道の場所によっては、一部、危険と感じられる場所があるので改善して欲しいとの事でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	8月20日	10月27日	11月5日	計
事業量	赤岩清掃登山	巨石と苔の散歩	赤岩清掃登山	赤岩遊歩道修繕	
参加者数	40人	13人	21人	4人	78人
実施場所	赤岩青巖峡				

環境林を育てる山主スクール事業（C-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（目的）

生物多様性の保全を目的とした森づくりを行う山主を育成する。

（概要）

チェーンソーを使った伐木や木材の搬出技術の習得を通し、森林における生物多様性の保全を目的とした森づくりの考え方を学ぶ講座の実施。また体験型イベントの実施により森林環境保全や地域材利用促進の普及啓発を図る。

2. 活動の成果

山主スクールではのべ35名の参加がありました。参加者の方々は、生物多様性の保全を目的とした森づくりの考え方や伐木技術を学びました。また東京大学北海道演習林に赴き、森林の管理方法や現場での作業を見学しました。

体験型イベントでは、チェーンソーや薪割り、薪を使った足湯、ツリーイング、端材を使った木工、焚き火などの体験をしました。イベントの参加者は合計で140名に登りました。

今後もこういった活動を継続し、体験から実践へ移行する一助となるよう努力していきたいと思っています。また森林に関わる市民が増えることにより、環境保全や地域材利用への関心が高まってくれることを願っています。

3. 参加者の声

（山主スクール）

- ・理論に基づく実践的な内容で勉強になった。
- ・将来的には自分で育てた木を使って家具を作ってみたい。
- ・自分で山林を所有して薪を作ってみたい。

（体験型イベント）

- ・子供がとても喜んでいました。
- ・森でしか味わえない体験をさせていただきました。
- ・その他、楽しかった。来年もやってほしい。という意見をたくさんいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月7日	9月8日	9月22日	10月23日	計
事業量	第1回 山主スクール チェーンソー基礎と 間伐初歩	第2回 山主スクール 森を育てる間伐	体験型イベント 「もり薪まつり」	第3回 山主スクール 森の見学会	
参加者数	10人	8人	140人	7人	165人
実施場所	北海道旭川市東鷹栖				

散布漁業協同組合女性部植樹事業（C-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

平成29年度より「森と海を守る植樹事業」を、浜中町藻散布（道有林内）において開催してきたが、近年のエゾシカ増加により植栽木の被害が深刻な状況にあるため、植樹事業実施場所にエゾシカ進入防止用の電気柵を設置し、植樹を行うこととした。

計画では、散布漁業協同組合女性部植樹祭等で、ミズナラ、カシワ計260本を植栽予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、電気柵の設置はしたものの、植樹祭は中止となり、来年以降に植樹を行うこととした。

2. 活動の成果

植樹祭は中止となり植樹は実施できなかったが、エゾシカ進入防止用の電気柵140mを設置したことにより、エゾシカの食害が防止され、海岸地域の森林の保全が図られることが期待される。

今後も、植樹事業と電気柵の設置を実施し、森林の公益的機能を地域に活かし、漁村生活の向上と、住みやすい漁村社会の構築に取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

植樹活動が中止となり、残念との声が上がっていた。

しかし、電気柵を設置したことで、次回の植樹活動に意欲が湧いた様子であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月20日	計
事業量	電気柵設置 140m	
参加者数	6人	6人
実施場所	浜中町藻散布（道有林内）	

青森県森林づくり推進体験学習活動事業（A-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

開会式、オリエンテーション、森林のエコ体験活動、チェーンソーアート制作及び作品のオークションの実施。①県産材を使用した木工教室、②ドライフラワーアレンジメント教室、③蜜ろうを使用したキャンドル教室、④津軽伝統アケビ蔓の細工教室を開催した。県民に森林の重要性を認識して頂くために、「県民の森」で森林の性能や生態を学習する目的に体験会を実施した。

2. 活動の成果

森林を散策し、森林インストラクターから森林機能などについて説明を受け、参加者に森林の重要性等について理解や認識を深めてもらうことが出来た。今後はもっと多くの県民に森林の重要性を普及啓発する必要がある。

3. 参加者の声

- ・森林が持つ様々な機能について学ぶことができた。
- ・アケビ蔓細工を作るのは初めてで難しかったが講師のおかげで最後は上手く仕上がりが満足できた。次は他の教室も体験してみたいと思った。
- ・普段なかなか自然に触れる機会がないので、森林浴が出来て気持ちが良かった。
- ・森の中をただ歩くだけでなく、生態系を学んだり草木の名前を教えてもらったりして勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月14日	計
事業量	フォレストフェスタ2019in 梵珠山	
参加者数	約160人	人
実施場所	青森県青森市 県民の森 青森県立自然ふれあいセンター	

木と人とのふれあい事業（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内6地区11箇所木工教室を開催するとともに県産スギ材を使った卓上カレンダーを製作・配布し、木材利用の普及啓発を図った。

また、幼少期の子供たちに県産の積み木を贈呈し、木とふれあい、木に学び、木と生きることを通して豊かな心を育む木育を推進した。

2. 活動の成果

幼少期の子供たちが、日頃から木に接し木を使うことを通し、豊かな心を育む木育を推進し、木材の利用拡大を図った。

また、当該事業の実施を新聞等のマスコミが報道することにより、森林・林業・緑・水の普及啓発を図った。

3. 参加者の声

- ・ノコギリで木を伐る競争や木のティッシュケース作りが楽しかった。
- ・木を使ったボーリングが楽しかった。
- ・森林の生態系についてわかった。
- ・親子で作品を作ることが新鮮でした。
- ・正解を早く見つけてクイズラリーをまわることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月29日～12月8日	計
事業量	森林環境教室 6地区11箇所	
参加者数	県内 1,135人	1,135人
実施場所	青森市、弘前市、八戸市、今別町、鱈ヶ沢町、 七戸町、東北町、おいらせ町、新郷村、佐井村	

令和2年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2020』（A-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林体験活動を通じて森林の役割と大切さについて理解を促すとともに、住みよい環境・まちづくりを創造することを目的に開催した。

2. 活動の成果

令和2年2月9日に開催された宮守町地域づくり推進大会において、宮守小学校の児童から遠野市宮守町の「銀河の森総合運動公園」の活用案についての発表があった。

このことから、地域の子供たちが提案する、地域が安心して集い活用できる場の再整備を地域の大人が自ら実施することで、すべての世代が地域の未来を考え行動することを目的に、テーマを「子どもが描く未来を地域の手でつくる自然と地域が共生する未来につなぐ森林づくり」とし、サクラ及び広葉樹の植栽が行われた。

3. 参加者の声

今年は、新型コロナウイルス感染症防止対策もあり、森林愛護少年団の参加は最小限に抑え、市内林業関係機関、宮守地域町づくり関係団体職員等の参加に絞って開催した。

参加者からは、「森林の大切さや、木を植えることの重要性を知ることができた。」等の声が聞かれ、森林整備への理解が深められたと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月13日	計
事業量	・ミズナラ等の植栽 ・記念植樹（桜） ・記念標柱設置	
参加者数	80人	80人
実施場所	岩手県遠野市宮守町地内	

2019森林とのふれあいin外山森林公園（第40回盛岡市民植樹祭）（A-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民と植樹活動を通じて、植樹の意義と大切さを学ぶ。

また、森林・林業への関心と認識を深め、森林を守ることや使うことの大切さと緑化意識の啓発を図る。

2. 活動の成果

市民自らが植樹を体験することにより、森林とふれあい、森林や林業への関心と認識を深めることができた。

今回の植樹は、市制130周年を記念して開催したもので、子どもから高齢者まで市民195人が参加して、豊かな自然を満喫しながらシラカバとヤマツツジの苗680本を植え、環境を守る森林の機能について理解が深まったと思われる。

3. 参加者の声

- ・自然環境を守る体験をしてほしくて孫達を誘ったが、参加して本当に良かった。
- ・土を掘るのが難しかったけど、地球が壊れませんようにと願って植えた。
- ・なかなか普段はできない体験、子供と一緒にできてうれしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年9月28日	計
事業量	育樹体験 680本	
参加者数	195人	195人
実施場所	外山森林公園（岩手県盛岡市藪川字大の平31-1）	

ふるさとの巨樹・名木観察会（A-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域における巨樹・名木を観察するとともに、居住地における歴史や自然環境を理解することにより、自然の恩恵に感謝する心を育むことを目的に一関地区で観察会を開催した。

2. 活動の成果

参加者は、定員40名に対し、39名の応募があり、観察地は、一関市の6ヶ所、6種類の巨樹・名木を講師の岩手大学名誉教授橋本良二氏の解説により観察会を行った。

講師の巨樹・名木に係る幅広い知識と経験を交えて、現地の観察樹木を見ながら樹木の優環境、生態、病害虫の分野まで具体的に分かりやすい説明と歴史にも造詣が深く、巨樹から歴史を学び伝える言葉は意味が深く、講師の解説は参加者からも分かり易くとても良かったと好評であった。

毎年、県内各地で実施しているが、参加人数もほぼ募集定員どおりとなっており、今後も継続して実施することとしている。

3. 参加者の声

- ・地元に住んでいても今回観察した木があることを知らなかったので、参加して良かった。
- ・今まで生きぬいてきた生命力・忍耐力に感動した。
- ・樹木の勉強になり、巨樹・名木に感動と驚きを感じた。
- ・どの巨樹・名木も良かった（桜は2年前満開時、カヤは10年前）に来たが、更に認識を深くした。（興田神社の建物彫刻は、他で見たことのない見事さ！）
- ・どの樹もその場所で、一生懸命生き残って、自己主張をしており、その立派さに嬉しくなりました。（興田神社の3本の老杉も元気で良かった）
- ・講師の説明がとても分かり易く、とても良かったし、資料の内容もとても良かった。
- ・講師の説明内容がとても良かった（発音が明瞭で良く聞き取れた）
- ・講師の解説で今まで知らなかったことも、腑に落ちる所が沢山あり、分かり易く大変良かった。
- ・巨樹・名木が大切に保存されているのが分かって、良かった。
- ・次回も参加したい。（他地域の巨樹・名木も見たい）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年9月21日（土）
事業量	巨樹・名木6種類 一関駅⇒一関市地内（6ヶ所）⇒一関駅
参加者数	39人
実施場所	一関市地内

第51回岩手県緑の少年団大会（A-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団や森林（自然）愛護少年団が一堂に会し、森林を中心とする自然の中での学習や共同生活を通して相互に交流し、仲間の連携と理解を深めると共に、緑を愛し育てる豊かな心を育むことを目的に、少年団員の交流活動と第50回大会の記念行事を実施した。

さらに、東北各県と北海道の緑の少年団にも本大会への参加を呼びかけた結果、秋田県・福島県からの参加を得て、県外少年団とも交流することができた。

2. 活動の成果

今年度は、新たな取組みとして、女性で日本初の森林インストラクター岩谷美苗氏を森林学習講師に招き、樹木観察、ヤマザクラ細工、バードコール作り、トチ蛍光ペン遊び、トチの実石鹸遊びを担当して頂いた。これに加え、恒例の名刺交換、キャンプファイヤー、木工細工等を行ったところ、他の少年団員との交流により仲間との連携と理解が深められ、人や動植物は豊かな自然環境によって生かされていることや、生活に欠かせない木材の利用など、森林や自然を守る重要性の理解と緑化意識の醸成が図られた。

3. 参加者の声

- ・他校との名刺交換は緊張したけど、ちゃんと話せて交流ができたので楽しかった。
- ・樹木観察では、自分が見たことのない木や葉っぱの特徴を知ることができた。
- ・ヤマザクラ細工では、木を削るのが大変で手がとても疲れたけど、立派にできて満足でした。
- ・木の特徴や葉の形、名前が知れてとても楽しかった。木工では木を削って作ったキーホルダーやペンダントを作るのがとても簡単にできて良かった。
- ・自然のことも知ったし、自分で木のネックレスやアクセサリも作れて楽しかったです。初めて参加して良い思い出になりました。
- ・木を削ってストラップなどを作ったことが思い出、ツルツルになってとても気持ち良かった。
- ・樹木観察で自分の知っていた木の特徴や始めて知った特徴があった所が思い出に残った。
- ・ヤマザクラ細工で木の葉を乾かせばヤスリになる葉があると始めて知った。とても楽しかった。
- ・一日自然に触れてみて、自然のある事の有難味を知ることができた。
- ・小鳥の鳴き声のする楽器を作ったことが思い出です。木を削ることが大変だったけど、お気に入りの出来て最高です。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年8月1日（木）～2日（金）
事業量	（1）開会式（寄木小学校鼓笛の入場行進） ①寄木小鼓笛隊が歓迎の演奏 ②「花の種」の贈呈 ③緑のちかい （2）全体交流会 ①名刺交換 ②森林学習（樹木観察、ヤマザクラ細工等） ③キャンプファイヤー交流会（出し物発表） ④キャンプ（泊） ⑤森林学習会（トチ蛍光ペン、トチの実石鹸遊び、木工工作（ペン立て）
参加者数	363人（緑の少年団16団192人、育成会62人、その他関係者）
実施場所	岩手県八幡平市「岩手県民の森」

宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

各みどりの少年団が一堂に会し、共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展及び健全な育成を図ることを目的として、例年この時期に開催している。本年の大会は、宮城県緑化運動70周年記念事業として、昨年まで大震災で被災した海岸防災林における植樹活動を内容とした大会模様を一端替え、平成9年に開催された第48回全国植樹祭地である白石市福岡深谷地区「南蔵王野営場」（未来の森、第2キャンプセンター）に移し、全国植樹祭ポストイベントとして会場に埋設した夢カプセルの開封式を併せて開催した。

本大会当日は晴天の中、県や開催地の白石市等関係団体の協力により、少年団16団、総勢400名の参加により開催された。少年団は、全国植樹祭の参加者による植栽により荒れ野からかつての豊かな森へ甦った当地「未来の森」において、森林散策を行いながら、樹名板の設置、森林インストラクター協会指導員による森林学習及び除伐等の森づくり体験、夢カプセルの掘り起こし、各団代表による記念植樹を行った。その後、第2キャンプセンターに移動し、交流会（ものづくり、ネイチャークラフト）に参加した。

2. 活動の成果

少年団たちは、大会の各イベントへの参加を通じて、緑や森林の果たしている大切な役割に直接触れ五感で感じるにより、みどりを守り育てることの重要性を再認識するとともに、各種イベントへの参加による各団との相互交流により、共通認識を図り連携を更に深めることができた。来年度以降も、みどりの少年団の健全な育成及び各団の連携を深めるため、交流を主眼に継続して開催を行う予定である。

3. 参加者の声

団員たちからは、森林散策による森林学習は大変好評であり、森に生育している様々な木々や生き物に見て触れることができ楽しかったとの笑顔がこぼれ、元気に充実した1日を過ごした。

また、団員及び引率者からは、「仲間づくりができた」、「森林の重要性を再認識できた」、「大会会場である「未来の森」が、荒れ野からかつての豊かな森林に見事に甦った状況を実際に見ることができて良かった」などの声が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月26日（金）	計
事業量	・森林散策、森林学習 ・カプセル開封式 ・記念植樹 2本 ・ネイチャークラフト	
参加者数	16団 総勢400人	16団 総勢400人
実施場所	宮城県白石市福岡深谷字白萩山（平成9年全国植樹祭開催地） 南蔵王野営場（未来の森、第2キャンプセンター）	

緑と水のキャンペーン事業 (A-39)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をなお一層向上させていくため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためすべて中止となった。しかし、みどりの月間である4月15日～5月14日に秋田市の秋田駅東西連絡自由通路へ普及啓発プランターを設置し、緑の募金の普及宣伝を強化させた。

2. 活動の成果

県内すべての街頭募金が中止となったが、みどりの月間に普及宣伝を行うことにより、厳しい状況の中でも緑の大切さを県民に呼びかける良い機会となった。

3. 参加者の声

・季節の花々や樹木があると通路の雰囲気が明るくなり大変良い。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年4月15日～5月14日
事業量	緑の募金街頭キャンペーン 木製プランター 11基設置 材質：木製 寸法：L=120cm W=55cm H=150cm (植栽された花、樹木の高さを含む)
実施場所	秋田市 秋田駅東西連絡自由通路

市民グループ森林づくり事業 (A-40)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができる。

3. 参加者の声

・桜の木の追肥や補植に注力しつつ、今後も新しい植栽を行っていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業量	参加者数	実施場所
8月20日	植樹や草刈り等の緑地環境保全	22人	大仙市内小友余目地内 内小友地域森林愛護推進協議会
10月19日	下刈りや除伐等の森林整備	24人	秋田市河辺 御野場連合町内会
10月26日	サクラ、ナナカマド等の植樹 150本	32人	湯沢市駒形町 八面部落
11月3日	オカメ桜の植樹 20本	15人	主要地方道 57号沿い農道 オカメ桜並木を守る会
11月15日	サクラの植樹 20本	43人	仙北市角館町 株式会社花葉館・植栽グループ

緑の少年団育成事業（C-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るための緑の少年団交流集会を開催した。また、学校における植樹体験を通じて、児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対して助成した。

2. 活動の成果

緑の少年団交流集会では県内の「緑の少年団」及び森林環境活動等を行う児童生徒が、それぞれの団体の活動発表を行うとともに、水と緑の保全と創造に関する自然体験や共同生活を通して新しい友達をつくり、水と緑を愛する心を育んだ。

3. 参加者の声

- ・森のクラフトではいろんな材料があって好きなように作れた。
- ・動物や虫など分からなかったことをしっかり楽しく知れた。
- ・巣箱に鳥がとまってほしいなとわくわくした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年 7月24日～25日	令和元年 7月3日	令和元年 10月17日	計
事業量	秋田県 緑の少年団交流集会 森のクラフト、巣箱作製及び 設置、野鳥の森散策等	秋田県立 秋田中央高等学校 ブルーベリーやブルーンなど 6種類の苗木植樹	大仙市立 豊成中学校 シダレザクラの植樹	
参加者数	40人	30人	70人	140人
実施場所	秋田県秋田市河辺 「秋田県森林学習交流館 ブラザクリプトン」	秋田市	大仙市	

森林活動指導者支援事業（C-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。

また、森林ボランティア個人登録者 650 名への情報提供や、新規登録者へはヘルメットの贈呈を行った。

2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の底上げ、向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが元気に安心して活動出来るよう、今後もお手伝いしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年 7月7日	令和元年 12月5日～6日	計
事業量	2019 あきた水と緑の森林祭 植樹活動	緑の少年団指導者研修交流会 派遣研修	
参加者数	約200人	2人	ほか登録者650人
実施場所	北秋田市 大野台地内	東京都千代田区 砂防会館別館	

山形県緑の少年団交流研修支援事業（A-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団が相集い、自然の中での体験活動を通じて、相互の交流や資質の向上をはかることを目的に、交流研修事業を行った。山形県緑の少年団交流研修大会（庄内サマージャンボリー）は、庄内町大中島自然ふれあい館森森を会場に開催し、県内の10少年団86名が参加した。イワナつかみどりや川原の流木等を使ったフォトフレームづくりなどを体験したほか、山形県緑の少年団活動発表大会も併せて実施した。山形県緑の少年団地区交流研修会は、県内4地区5会場で開催し、森林探検や木工クラフト、野外炊飯などを体験した。

- ・村山地区：7/30 山形市少年自然の家 94名参加、9/28 朝日町秋葉山多目的広場 44名参加
- ・最上地区：9/16 金山町遊学の森 9名参加
- ・置賜地区：8/5 飯豊町源流の森 27名参加
- ・庄内地区：8/1～2 庄内町大中島自然ふれあい館森森 24名参加 ※1日目は県大会と併催

2. 活動の成果

郷土の自然の中での活動を通じて、緑と親しみ、緑を愛し、緑を未来につなぐ心を育むことに寄与した。また、他の少年団のメンバーとの班活動などを通じて、団員相互の交流につながった。

3. 参加者の声

- ・魚を焼いて食べたことが楽しかった。
- ・班のみんなと仲良くなった。虫が苦手だったけれど、活動を通して、名前を覚えることができた。
- ・オリジナル作品を作ることができてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	7月～9月	計
事業量	山形県緑の少年団交流研修大会	山形県緑の少年団地区交流研修会	
参加者数	団員 86人	団員 198人	団員 284人
実施場所	山形県庄内町、山形市、朝日町、金山町、飯豊町		

山形県林業まつり開催事業（A-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山形県林業まつりは、県民の森林や林業さらには環境に対する理解を深め、木材や林産物等の利用を促進するため「緑と水と木の祭典」として開催したイベントである。美しく健全なやまがたの森林づくりを推進するとともに、地域林業・木材産業の振興を図る事を目的としている。

主な開催内容は下記のとおりである。

- ・県産木材等の普及啓発
- ・木材を使った身近なクラフト体験
- ・子ども上棟式（餅まき）や木製大型遊具の展示等
- ・木工品の販売・体験

2. 活動の成果

山形県林業まつりは29回目を迎え、広く県民に定着したイベントとして家族で来場するリピーターが多く、当事業においては木に親しむ・体験するイベントとして、子供を対象に木材による自由な工作が出来る「青空木工教室」や「子ども上棟式」、木と遊ぶ「木の体験コーナー」「木製遊具コーナー」を主体に取り組んだ。「青空木工教室」では木材を使っの椅子や本箱・棚などの制作を、「子ども上棟式」では、上棟式の神事や餅まきを体験、「木の体験コーナー」や「木製遊具コーナー」では、丸太切り競争及び木の積み木や昆虫等の木製遊具で自由に遊ぶなど、子供から大人まで参加できるイベントとして賑わった。直接木に触れることで、木に対する理解を深める場となり、森林・林業の普及啓発にもつながっており、今後も木に直接触れる機会を作って行きたい。

3. 参加者の声

- ・毎年楽しみにしており、親子で一緒に木工工作が出来て良かった。
- ・近年新築しても上棟式が見られなくなってしまい、懐かしい気持ちになった。
- ・木のぬくもり、香りを感じた。
- ・子供も大人も楽しめるイベントで楽しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	10月20日	計	備考
事業量	テント 17張	テント 17張		
参加者数	5,000人	24,000人	2.9万人	19日は雨によるもの
実施場所	山形県 天童市	山形県総合運動公園		

庄内森とみどりのフェスティバル開催事業（A-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割や森林整備の必要性、また地域産木材を利用することの意義について広くPRした。

主な事業内容は、木製品等の展示のほか、参加者が直接木に触れながら、その肌ざわりや香りを体感できる木工クラフトをはじめ、森林・林業・木材に親しむイベントを実施した。

2. 活動の成果

「フェスティバル」は平成2年度から継続して開催している事業であり、近年は、実施場所の市が企画するイベント「つるおか大産業まつり」、「酒田市農林水産まつり」との合同開催により知名度も上がり、数多くの参加者に「木の良さ、地域産木材利用の重要性」などをPRすることができた。

3. 参加者の声

- ・いろいろな物があって、大人も子供も楽しめるイベント。
- ・木のおもちゃはいいなと思った。木のおもちゃ博物館をつくって欲しい。
- ・木にふれる機会がないのでいいと思います。
- ・出展者と来場者の触れ合う良い機会

実績報告とりまとめ表

実施時期	(鶴岡会場) 10月13日、14日	(酒田会場) 10月27日、28日	計
事業量	テント 9張	テント29張	テント 36張
参加者数	412人	113人	525人
実施場所	鶴岡市 小真木原公園内	酒田市 国体記念体育館周辺	

第28回緑の提言・作文コンクール (A-44)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。森林資源をとりまく諸情勢は厳しく全地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

2. 活動の成果

2019年11月から作品の募集を始め、年明けの1月10日前後から作品が届き始めました。

小学校から48点、中学校から104点の合計152点の応募がありました。

2月14日に福島民友新聞社で審査会を開き、全部門合わせ、40名の入賞者を選びました。

翌日15日付けの福島民友本紙で結果を発表し、3月上旬に賞状・副賞を学校宛に発送しました。

5月4日付け「みどりの日特集」で金賞・銀賞入賞作品を掲載し、その栄誉をたたえとともに、自然の大切さ・身近な環境問題意識の啓発をしました。

応募作品の内容としましては、自分の体験からくる自然・森林への思いや課題が多くみられました。身近な体験・自然環境に対する提言が多く、特に身近な体験に基づく内容は、事細かな事例や問題点が分かりやすくつづられていました。

参加賞は「花の球根と4寸鉢のセット」、副賞は学用品を用意しました。机の上で育てられる物です。身近に自然を感じてもらおうと企画しました。数年トライしてみても、反響を見極めたいと考えます。

今後も、福島県の未来をどのように考えていくか、未来を担う小中学生の考え方を同コンクールを通して、紙面で伝えていきたいと考えます。

3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

■小学校低学年

- ・身近な自然に対する気付きや疑問を、子どもらしい着眼点でまとめていた作品が多かった。
- ・家族との会話や、日常生活の中で緑に触れた経験など、些細なきっかけから自然について深く思いを巡らせていた作品が多く素晴らしいかった。

■小学校中学年

- ・家族や級友との実体験に基づいた作文が多く、説得力があった。
- ・これからの実生活に生かしていこう、行動に示そうという決意に満ちた作品は読んでいて引き込まれた。

■小学校高学年

- ・提言が明確な作品が多く、とても興味深かった。
- ・具体的に調査した数値を根拠に論を展開した作品が多い。裏付けとなる根拠が明確に示されている作文は、やはり説得力がある。

■中学校

- ・直接的に自然と関わる体験も多かったが、自然と自分の間を取り持つ人物や出来事を通して自然と我々の関わり方について考えを深めた作品が見られ、一気に読ませる力があった。
- ・提言については、根拠となる情報をもとに理路整然と主張するものも見られたが、自分の生きた体験を考への切り口にしたり、根拠にしたりできている作品は自分事として読む者に対して説得力をもたらした。
- ・時期的なものとして2年生の応募が多かった。自分たちの郷土愛を多く感じられるものばかりだった。より強くその思いを伝えられた作品は、体験をそのままではなく、それを自分なりに解釈し直したり、再構成したりして整理し、主張としてまとめられていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和1年11月1日	令和2年1月16日	令和2年2月14日	計
事業量	作品募集開始	作品締め切り 作品整理	本審査会	
参加者数	152人		7人	
実施場所	本審査会は、福島民友新聞社で実施（事前審査は、附属小・中で実施）			

森林・林業とのふれあい事業（第44回福島県林業祭）（A-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・林業の重要性や役割について、広く県民にPRすることで、林業・木材産業の成長産業化と森林資源の適正な管理に資するため、当初令和元年10月19日（土）に第44回福島県林業祭を開催し、森林・林業・木材産業の再生に向けた取組、森林の持つ水源かん養機能やその機能を発揮させるための森林の整備、緑化活動の推進など森林や林業に関する情報発信や、県産材のPR、木工製作体験、特産林産物等の展示、販売など様々なイベントを行う予定であったが、台風19号の影響により開催が困難となり中止とした。

2. 活動の成果

3. 参加者の声

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	計
事業量	第44回福島県林業祭の開催 (台風19号の災害の影響により中止)	
参加者数	—	
実施場所	—	

福島県森林・林業・緑化協会

ファミリー緑の教室の開催事業（A-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

家族が共通の課題をテーマに、一日一緒に自然に親しみながら、地球温暖化防止等の緑の重要性を認識するため、森林・林業体験等を通じて、緑に対する愛護の心情と豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進することを目的として開催する。

【内容】

休日を利用して、家族の参加者を募集し、一日共通のテーマで自然に親しみながら福島県産間伐材を使用した木工工作キットによる木工クラフトや、自然観察等を実施した。

2. 活動の成果

自然観察会及び木工クラフトを実施し、日常生活では触れることのない植物や昆虫に触れながら森の恵みや森林と人間の共生を学習することができ、あらためて「緑」の大切さ、森林の重要性を認識できた。また、家族が一緒に参加することで、普段の生活とは違ったコミュニケーションを図る機会を創出できた。

3. 参加者の声

自然観察会では、植物の名前について由来や特徴を交えて紹介することで、参加者が理解しやすく、「いままで何気なく目にしていた草花の名前を覚えることができた。」との感想が聞かれた。木工クラフトでは、スケルトンリーフ作りなど親子で協力して完成させることで、「こどもと一緒に楽しむことができた。」「来年も参加したい。」などの意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日	9月16日	12月15日	計
事業量	自然散策、木工クラフト	自然観察会、木工クラフト、 スケルトンリーフ作り	木工クラフト体験	
参加者数	家族21人	家族26人	家族29人	76人
実施場所	いわき市	南会津郡下郷町	伊達郡国見町	

☆次世代を担う子どもたちによる森林づくり会議（A-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団代表が一堂に会し、少年団のネットワークづくりと活動の情報発信を行い、意見交換等を通じて活動の重要性、必要性、意義などについて、考え、未来の森林づくり活動を進めていく契機とするため開催する。

岐阜県立森林文化アカデミーの森林総合教育課長の川尻秀樹氏を講師として招き、ネットワークづくり活動の名刺交換は、特別参加の2019ミス日本みどりの女神の藤本麗華さん、2017ミス日本みどりの女神の野中葵さんと大戸小学校、大玉村緑の少年団が参加した。

室内の講話は、講師よりレバノンの杉乱伐の歴史についてプロジェクターを使って行われ、その後県民の森第二広場において「スティック飛ばし、スティック立」を行い、同会場にベニシダレ3本を記念植樹し閉会した。

2. 活動の成果

緑の少年団員は、森林づくりの大切さや、必要性を再認識し、豊かな自然を未来に残していくこと、緑を守ることを誓った。

3. 参加者の声

名刺交換会では、「みどりの女神と名刺交換ができたことがうれしかった。」ことや野外活動の「スティック飛ばしやスティック立が面白かった。」などの感想があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月5日（土）	計
事業量	第2回次世代を担う子供たちによる森林づくり会議	
参加者数	25人	
実施場所	福島県安達郡大玉村玉井 ふくしま県民の森森林学習館及び第二広場	

都市と農村の交流事業「第32回ふくしま緑の百景歩こう会」(C-23)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的にあわせて、参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために毎年開催している。今年は白河市で実施。

白河藩主、松平定信により身分を越えて誰もが楽しめる「土民共楽」の理念のもと、1801年に築造された、緑あふれる南湖公園や近代日本の経済の父と言われる渋沢栄一が建立に尽力した南湖神社や日本庭園の翠楽園、南湖の周辺の松並木や緑など「ふくしま緑の百景」の選定地、「南湖公園のアカマツ」の並木道を中心に、福島県の玄関口、白河市の城下町の街並みや白河市内にある緑豊かな中に建つ「名城・小峰城」や「小南湖」と呼ばれる緑あふれる湖水周辺、歴史ある建造物などを巡り、健康づくりと、ふくしま緑の百景の景勝地を歩くことで自然と緑の大切さを学んでいただいた。

2. 活動の成果

今回は新型コロナウイルスの感染防止のため、参加者を福島県在住の方のみに限定しての開催とした。

コースは福島県白河市の緑豊かな城下町を歩く特設コースで開催。豊かな自然と県内でも有数の歴史と景勝地でもある松平定信翁が築城した小峰城と南湖公園を中心に緑豊かな城下町を歩きながら、自然と共にウォーキングコースを楽しんだ。

特にスタート地点の南湖森林公園は、森林とのふれあいを通じ緑や自然の大切さを学べるよう、白河市民が中心となってつくった緑豊かな公園で、遊歩道では森林浴が楽しめる、大切な緑を守り育てる公園として市民に親しまれている。

公園内の特設ブースでは、様々なおもてなしや名産品、銘菓を振舞った。緑の募金も行い、県内参加者から緑化の募金を募り参加者や市民の皆さんにもアナウンスなどで緑化推進啓蒙活動を行った。

3. 参加者の声

- ・福島県の玄関口白河市にある南湖公園を中心とした城下町の美しい自然と緑、奥深い歴史の地で開催。
- ・多くの参加者が訪れ豊かな自然を城下町ならではの風景、景観を楽しんでいただき、緑の大切さを学んでいただいた。
- ・南湖森林公園の小高い山の一部未舗装の上り坂を歩き、濃密な森の空気と森のパワーを感じていただきました。
- ・南湖森林公園の未舗装の丘や緑あふれる上り下りの起伏のある特設コースを設定、参加者は緑の景色に感動していた。
- ・参加者からは、「来年も是非、ふくしま緑の百景歩こう会に参加したい」、との声を多数お寄せいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月17日（土）	計
事業量	第32回緑の百景歩こう会開催	
参加者数	380人	
実施場所	福島県白河市	

青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-48)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

教育機関への森林林業情報を流し、緑化の普及啓発を図るため、茨城県林業普及協会発行の月刊誌「林業いばらき」を県内約907か所の機関に無償配布した。

2. 活動の成果

緑当機構が進める「緑育」の出前授業や林業体験学習等の成果を小中学校全部に情報提供でき、また各種緑化イベントの周知徹底も図れた。

3. 参加者の声

緑化だよりで地球温暖化防止による異常気象などと森林の関係が分かって良かった。

緑化コンクールなどの表彰が近隣の関係者に周知されて良かった。

緑化関係イベントの開催情報が良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	毎月	計
事業量	907部 / 月	
参加者数	教育関係者	
実施場所	茨城県一円	

緑の体験教室開催事業 (A-49)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

近隣の緑の少年団の交流の輪を広げることを目的として、「木を植えて、水郷県民の森をミツバチに優しい豊かな森にしよう」をコンセプトに、茨城県水郷県民の森を会場として、参加した子どもたちが森林への理解を深め、自然に親しみ、豊かな自然環境を守る心を育成するため、「緑の少年団交流事業」を開催する。

2. 活動の成果

竹トンボ作りや、ミツバチの蜜蝋を使ったろうそく作りを通してミツバチや自然に親しんでもらうことができた。

また、講演会を通して在来種のニホンミツバチの生態や役割をはじめ、飼育上の問題点等について学ぶことができた。

3. 参加者の声

子どもたちからは、「ミツバチは最初怖かったけど、慣れるとかわいいと感じた」、「竹トンボを初めて作って飛ばしたけど、上手く飛んで気持ちよかった」、「記念植樹した木が早く大きくなってほしい」、「他の小学校の子ども達と交流できて良かった」などの感想が聞かれました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	10月14日	計
事業量	蜜蝋工作、木工工作、記念植樹	ミツバチ講演会、記念植樹	
参加者数	30人	69人	延99人
実施場所	茨城県 潮来市	水郷県民の森	

グリーンフェスティバル開催事業（A-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「企業の森づくり」（企業の新入社員研修）の一環として、木材の供給をはじめ、水源の涵養、生活環境の保全、生活環境の保全、地球温暖化防止等の様々な機能を発揮している森林を守り育て、健全に次世代に引き継ぐため、「グリーンフェスティバル2019」を開催する。

2. 活動の成果

①春の下草刈り体験 令和元年11月14日 参加者60名

②春の植樹祭体験 令和2年4月2日 参加者200名

（春の植樹祭体験は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。ただし、体験開催に伴う植樹地整備（下草刈り、地拵え）については、2月末から準備にかかったことから助成対象とした。）

3. 参加者の声

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月14日	(4月2日)	計
事業量	森林ボランティア団体	(森林ボランティア団体)	
参加者数	60人	(200人)	(延260人)
実施場所	那珂 県有林		

森林ボランティア育成事業（C-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林ボランティア団体のスキルアップを図るため、指導者養成が急務になっているので、ボランティア活動の意義と技術の取得を目的に公募による指導者育成・確保及び交流を図るための宿泊合宿を行う。

2. 活動の成果

間伐をはじめとした森林整備技術の向上を図るとともに、スキルを持ち帰ることにより、団体のスキル向上が図れた。宿泊によりネットワークができ、団体の交流が始まるきっかけとなった。

3. 参加者の声

他団体との交流がはかれてよかった。間伐の技術や機械整備の技術も高めたいので林業資格取得の場としてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月24日	1月25日	計
事業量	森林整備技術実習	県指定文化財、天然記念物の視察	
参加者数	29人	29人	延58人
実施場所	茨城県 大子町 奥久慈憩いの森		

山村地域づくり活動助成事業 (C-25)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域の活性化をはかるため、地域づくりを実践する森林整備グループ活動に対して支援を行うことを目的として、公募により助成金を交付する。

2. 活動の成果

地域コミュニティの構成者を会員にする森林整備グループ、団体を活動支援することにより、地域環境整備に貢献した。また、他地域のグループ結成の動機づけになった。

3. 参加者の声

地域住民の連帯感が強まった。定期的に来ることにより協働作業に生きがいが生まれた。生物に興味が生まれた。地域文化の保存が図れた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計
事業量	森林整備・環境整備・間伐実施・ 竹林整備・松林再生等	
参加者数	約500人	
実施場所	茨城県 水戸市等11か所	

緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-26)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民の緑化意識の向上を目的に県内均等に普及啓発する目的で緑化推進協議会が関係するイベント等の参加者に対し、苗木の無償配布を行い、緑化思想の普及啓発を図った。

2. 活動の成果

緑化樹木の配布による地域植樹祭の開催やイベントの記念植樹等により、各地域での緑化意識の啓発を図ることができた。さらに、各市町村に広く事業の普及を広げていきたい。

3. 参加者の声

持ち帰って庭に植樹できてうれしい。記念日に木をもらったので大事に育てたい。あまり大きいと持ち運びに大変なのでミニ樹がほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月～3月	計
事業量	苗木の配布及び緑の募金PR	
参加者数	250人	
実施場所	県内一円	

森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業（A-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋季緑化期間中に、24市町29会場において苗木の配布会を行った。

また、苗木配布会には県土緑化メッセージを知事名・当機構会長名で読み上げ、緑化の一層の推進を図った。

なお、当機構の情報・活動内容を掲載した、広報誌「とちぎの緑化」を発行し、県内一円に配布、また、緑化をPRするCMを県域テレビで放映して緑化の推進を図った。

国土緑化推進機構作成の国土緑化運動ポスターを、学校等へ配布し、緑化の重要性について普及啓発を行った。

2. 活動の成果

苗木配布会、みどりの月間にCM放映をするなど、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の高揚に資した。また、苗木配布会場においては、募金箱や募金チラシ等で募金活動を実施し、県民の多くの方々が緑化募金に協力した。

なお、当機構の機関誌「とちぎの緑化」には、機構の組織・事業内容、事業実施者の感想等を掲載し県民の皆様に配布し、当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただいた。今後より一層緑化の推進に努めていきたい。

3. 参加者の声

- ①苗木配布会が楽しみです。大切に育てます。
- ②緑が多いと気持ちがいいですね。
- ③今後も苗木配布会を引き続き実施して欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月30日	4月1日～6月30日	計
事業量	苗木 5,770本 ポスター配布 1,030枚	広報誌配布600冊 県域テレビスポットCM5回	
参加者数	5,900人	550人 放送回数 5回	6,450人
実施場所	苗木配布会：24市町29会場 ポスター・機関誌：各学校・各市町等		

青少年の教育の場としての森林活用促進事業（C-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

体験をとおして、森林の重要性の理解を深めるとともに、自然環境と共生できる豊かな心を育むため、「2019森林わくわく体験ツアー」を日光市で開催した。銅親水公園では野生動物の観察、足尾の緑化及び治山について解説し、足尾環境センター、足尾銅山観光、古河掛水倶楽部では足尾の自然や歴史を勉強した。

2. 活動の成果

銅親水公園では、野生動物の観察、足尾の緑化及び治山について説明し、足尾環境センター、足尾銅山観光、古河掛水倶楽部では、足尾の自然環境や歴史について、映像や展示物を見ながら楽しく学習した。これらの活動を通じ、子どもたちの自然への関心が高まるとともに自然への理解が深まった。また当機構の事務報告に掲載し、当機構の会員等に配布するとともに、当機構HPに掲載することにより、当機構の活動状況を発信し、森林への理解を深めることにつながる。

今後も、子どもたちが森林への理解を深めるための活動を継続的に実施して行きたい。

3. 参加者の声

- ・足尾の自然や歴史についてよく知ることができた。
- ・銅親水公園で野生の鹿を観察できてよかった。
- ・足尾環境センターでのビデオの内容がとてもわかりやすくて良かった。
- ・足尾の環境破壊と復興までの歴史について学べてよかった。
- ・森林体験ツアーに参加して、いろいろなことが学べてためになったので、この栃木や足尾の自然を大切にしていきたいです。このようなイベントがあったら参加して、自然についてもっともっと知りたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月3日（土）	計
参加者数	参加者 37人 事務局 3人	40人
実施場所	栃木県日光市足尾町	

森と木のまつり (A-53)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の素晴らしさ、林業・木材産業の現状、山村の伝統文化・産業等を紹介し、地域住民に理解を促すことなどを目的として、毎年各地でイベントを開催し、森林・林業に親しむ機会を提供している。

イベントを開催するにあたり、国関係機関、地元の市町村や森林組合、農業団体、福祉団体、環境団体、NPO団体、地域活動団体などとも連携して事業を実施している。

2. 活動の成果

森林・林業に親しむ機会を提供する地域に密着したイベントとしている。

参加者からイベントの継続を望む声も多く、今後も、内容を見直しながら、森林や林業の果たす役割をよりわかりやすく紹介できる事業として実施したい。

赤城ふれあいの森まつりは、荒天が危惧されたが、当日は晴天のもと実行でき、室内開催の木工広場ばかりでなく各ブースに多くの親子連れが訪れていた。

わたらせ森と木の祭りは今年も絶好の晴天に恵まれ家族連れを中心に例年より多くの来場者に楽しんでもらった。

3. 参加者の声

- ・丸太をのこぎりで切ったり、木工工作をしたのが楽しかった。
- ・水鉄砲で、竹の筒を狙って倒した景品をもらえてうれしかった。
- ・森の動物のお絵かきが楽しかった。
- ・チェーンソーでフクロウを作っていたのがすごかった。
- ・また、来年も来てみたい。
- ・大工さんによる木工指導や、森の恵みの作品作りなど貴重な体験ができた。 など

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月27日	11月10日	備考
事業量 又は 事業内容		赤城ふれあいの森まつり	わたらせ森と木のまつり	
参加者数	県内 県外 計	人 人 1,300人	人 人 3,200人	県内外の統計無し 合計 4,500人
実施場所		群馬県前橋市	群馬県桐生市	

緑の少年団活動活性化事業（A-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団は県内すべての小学校等に結団され約5万6千人の団員が活動しており、全国的にも有数の規模を誇っている。しかしながら、全少年団を対象として交流集会の開催等が困難であることから、意欲ある少年団の活動を支援し、その少年団の模範的活動を冊子等で紹介することとする。

県内各少年団に対して、緑の少年団として、森林の役割や森林との関わり方を考えるきっかけとなるよう働きかけ、また指導する小学校教員に対し森林環境学習の重要性を認識してもらい、今後の少年団活動の活性化に資することとしたい。

具体的には、自然観察会やツリーイングなどを実際に森林に入って体験する「夏の森林教室」を開催するほか、各緑の少年団の活動内容を紹介する冊子「緑の少年団活動の記録」ほかを作成する。

2. 活動の成果

自然観察会、ネイチャーゲーム、ツリーイングなど実際に森林に入って体験することによって、子供たちの森林や林業、環境問題等に関する理解を深めることができた。

また、活動事例冊子の配布は、他団の特色ある活動や優れた活動を知ることによって、緑の少年団活動がより一層活性化することが期待される。

「夏の森林教室」は参加した児童教員からは高い評価を得ている。今後は反省点を踏まえ、より効果的な手法を検討し、メニューの充実を図っていきたい。また、子供への森林環境教育に関心のある企業との連携による事業の充実も検討して行きたい。

3. 参加者の声

自然観察

- ・木の名前や特徴、由来まで学ぶことができました。
- ・ヒノキの木や自然のおいをかぐことができました。
- ・人間と森林は深く結びついていることを実感できました。
- ・森林の働きや生物たちの知恵を知ることができました。

ツリーイング

- ・空中の綱渡りは、迫力がありました。
- ・頂上についたときの達成感と眺めは最高でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月24日	月日		計		備考	
事業量	夏の森林教室	緑の少年団活動の記録ほか					
参加者数	35人	県内全318団ほかに配布		51人			実参加児童・教員 35人 ほかスタッフ16人
実施場所	群馬県前橋市富士見町「SUBARUふれあいの森赤城」						

さいたま森林フォトコンテスト事業（A-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第29回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは、「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

2. 活動の成果

応募期間は令和2年3月から令和2年5月15日までとして実施し、応募作品は448点であった。同年5月に審査会を行い、特選（知事賞）1点、準特選（緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞）2点、優秀賞（埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ダイドードリンコ賞、日本製紙賞、AGS賞）5点、佳作12点を選定した。6月24日に表彰式を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

6月17日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介され、併せて、埼玉新聞社のホームページでも紹介されている。また、7月22日から埼玉県庁で展示予定である。

3. 審査総評

29回目を迎えたさいたま森林フォトコンテストは、応募点数448点と昨年の応募点数をわずかだが上回った。

今年の内容傾向だが、外出自粛の要請に伴い、春先の花見風景や美しい桜の開花シーン、春のイベントなどの作品は例年より少ない印象であった。しかし、昨夏から今春までのさまざまなシーンが活写されており、その内容は多種多様であった。また、月の光で撮影したり、インターバル露光で星空と桜を組み合わせ撮影するなど、これまでにない手法で撮影した作品が登場するなど、目を惹く作品も多かった。今後とも従来の撮影方法による撮影はもとより、新たな着想による撮影方法にも果敢に挑戦していただくことに期待を寄せたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月11日～5月15日	5月18日	計
事業量	作品募集	審査会	
参加者数	448人		
実施場所	埼玉県内		

緑の少年団育成事業（A-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成のため、指導者研修を実施するとともに、自然環境の中での活動を通じて、森林についての理解と相互の交流を深めるための交流会を開催した。

2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の推進と継続して森を守り育てることの大切さが普及啓発された。

3. 参加者の声

- ・研修会における団活動のすすめ方や安全管理の説明が参考になった。
- ・交流会での活動発表により他の団の活動の様子がよくわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月24日	10月19日	計
事業量	研修会	交流会	
参加者数	20人	112人	
実施場所	寄居町		

緑化普及啓発事業 (A-58)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供するとともに、秋に開催される農林業イベントにおいて、ボランティアの活動状況等を展示した。

活動情報については、8月から12月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、緑の募金とともに森林ボランティア活動への参加を呼びかけた。

イベントについては、11月16日、17日に埼玉県草加市のまつばら綾瀬川公園で開催された彩の国食と農林業ドリームフェスタの会場において、森林ボランティアの活動状況の展示や緑の募金のPRを行って、緑化の大切さやボランティア活動参加を呼びかけた。

2. 活動の成果

新聞の情報を見て、毎月2から3人が新たに森林ボランティア活動に参加した。

また、イベントにおいて、展示を見ることより、緑の募金や緑化活動に関心を持ってもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・森林ボランティア活動をやってみたかったが、どこに問い合わせればよいかわからなかった。新聞を見て、参加のきっかけとなった。
- ・展示を見て、いろいろな活動を行っていることがわかった。機会があれば、参加してみたい。
- ・緑の募金が緑化に役立っていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月16日	11月17日	計	備考
事業量	イベント展示1日	イベント展示1日		イベント展示
参加者数				
実施場所	埼玉県草加市			

緑の少年団活動支援事業 (A-581)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団活動実施のための基礎となる森の恵みや森とのかかわり方を学ぶための図書を少年団に配付し、森林への理解を深めてもらう。

2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の基礎となる図書を配布し、活動が従来通りできない中、学習活動に活用された。

3. 参加者の声

- ・今年は活動がほとんどできなかったが、今後の活動に図書を活かしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月～10月	計
事業量	170冊配布	
参加者数		
実施場所	埼玉県内	

森林ボランティア活動支援事業 (C-28)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の森林ボランティアが主催する森林整備に必要な技術を習得するための研修会の開催に対し助成した。

これは、ボランティアによる間伐作業が安全に行なわれるよう、森林の作業を生業（なりわい）としないボランティアを対象に実技の習得時間を充実させたチェーンソー研修会を実施したものである。

2. 活動の成果

森林づくりのボランティア活動において、チェーンソーを活用した効率的で安全な間伐作業が実施できるとともにボランティアリーダーの養成につながった。

3. 参加者の声

- ・安全作業の重要性を改めて学べる良い機会となった。
- ・無事立ち木が倒れることに達成感を感じ、これからも初心を忘れず安全な作業を心がけたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月24日	9月28日	9月29日	計
事業量	学科研修：6時間	学科研修：1時間 実技研修：4時間	学科研修：1時間 実技研修：4時間	
参加者数	6人	6人	6人	18人
実施場所	埼玉県：越生町			

木づかい推進・普及啓発事業 (A-59)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

二酸化炭素吸収機能など、森林の公益的機能を十分に引き出すためには森林の若返りが求められている。

そのためには豊富な森林資源を上手に活用し（木づかい）、木材製品の良さを社会全体に普及啓発する必要があることから、本事業においてモデル的な取り組みとして間伐材を利用したベンチ及び樹木名ラベルを製作し、会員市町村の施設及び北総教育事務所管内の小中学校（29）に設置した。併せて地域材、間伐材の活用の目的を広く周知等行った。

2. 活動の成果

市町村の庁舎だけでなく、学校や図書館などの施設に設置することにより、多くの県民が木製品に実際に触れることができるとともに、豊富な森林資源を上手に活用し循環させることの重要性について理解を広めた。

3. 配布先の声

木の自然な色合いが良い・木の暖かみがあってよい・学校も喜んでいた（学校設置分）

子どもたちが樹木名を学び、みどりにふれあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13～12月5日	9月15～12月15日	計
事業量	ベンチ	樹木ラベル	
設置数	11台	29小中学校	
実施場所			

森林・林業技術講習会 (A-60)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

健全な森づくり、災害に強い森づくり、森の生物多様性など、現代の森づくりはテーマが多様化、高度化しており、専門的な知識や技術を求めるニーズが出てきていることから、森林に携わる県民のスキルアップを図るため森林林業技術講習会を実施した。

会員や森林・林業に関心のある県民等を対象に、「豪雨による山腹崩壊のメカニズム」～山腹崩壊実験（富津市ほか）からわかること～と題して山腹崩壊実験の映像や実験結果から崩壊のメカニズムなどについての講義と旭市櫻井の緊急予防治山工事現場で最新の機器を使った施工状況等の現地視察をおこない森林の持つ様々な防災機能や土砂災害防止工事の工法等について知識・技術の習得を図った。

2. 活動の成果

近年、自然災害が多発し、強風による倒木や豪雨による土砂災害などの被害が発生している。そこで、山腹崩壊のメカニズムについて、山腹崩壊実験の結果等をもとに、詳細でわかりやすい講習会を開催し、森林があることによって発揮される様々なはたらきについて学び、参加者全員が森林の機能や緑の大切さを再確認することができた。また、参加者がそれぞれの職場、地域等で本講習会の内容を周知することが期待される。

3. 参加者の声

森林斜面の崩壊を映像で見れたのは衝撃でした。崩壊メカニズムを教えていただき益々森林整備の重要性を認識しました。先端技術を駆使した治山工事を生で現場視察でき有意義でした等の感想があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月29日	計
事業量		
参加者数	36人	
実施場所	成東文化会館会議室（講義）・ 旭市櫻井（緊急予防治山工事） （現地視察）	

第39回千葉県みどりの少年団交流集会事業（C-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県下各地のみどりの少年団が一同に会し、自然のなかで総合的な緑の体験学習と共同生活を通じて、自律、責任、協力の精神を養うと共に情報交換等を行い、団の資質向上と連携を深めることを目的に第39回千葉県みどりの少年団交流集会を実施し、10市町から14団が参加した。

内容は自然豊かな大多喜県民の森を会場に1泊2日の行程をキャンプ形式で実施。そのなかで竹を利用した食器作り、薪を使用した自炊活動、体験林業（人工林の間伐・その他）、間伐材を利用した木工作等を通じ、森林資源の循環的活用を学んだ。また代表3団による活動発表会を行った。

2. 活動の成果

子どもたちの中には木を伐る、使うことに罪悪感を持っていることが多い。

今回のプログラムによって、「森林」は守るだけではなく上手に活用し、循環させていくことで健全な森林の姿を維持できることを理解してもらえたと思われる。

3. 参加者の声

少年団とはいえ普段体験することの少ない野外活動を通じ、自然の素晴らしさや厳しさ、緑を育て活用していくことの重要性に気づく機会となった。また普段関わることのない地域の子も達同士が生活を共にすることで、人間性や社会性も育む事が出来た。また他の少年団の活動の状況など情報交換の場になったとの感想が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月25～7月26日	計
事業量		
参加者数	164人	
実施場所	千葉県 夷隅郡大多喜町 千葉県立大多喜県民の森	

ふるさとの杜活力調査事業（B-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都内には小規模な公園や寺社など、多くの「杜」が点在している。これらは、都市部における美観風致の維持に加え、地域住民の憩いの場や災害時の避難場所としても、古くから重要な役割を果たしてきた。

このような公共的評価のある「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹や保存林などを中心とした樹林を対象に、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。

また、過去に調査した「杜」について、その後の保全や活用の状況を追跡調査して再評価し、地域の取組みの中で「杜」を有効に活かす方法をまとめた。

2. 活動の成果

今回は、杜の活力調査を3カ所で、追跡調査を1カ所で実施した。

杜の活力調査では、塚山公園（杉並区）、下耕地グリーンベルト（日野市）、永山北公園（多摩市）にて樹木・植生の現況、活力度等を調査・評価し、今後の管理方法について提言等を行った。

追跡調査では、平成23年度に活力調査を行った富士見町公園斜面林（立川市）の樹木・植生について、前回調査後の変化等を再調査し、持続可能な「杜」として管理するための提言等を行った。

今回は、上記4箇所の「杜」における樹木の腐朽や枯損等の問題点と課題を明らかにし、具体的な対策を提言としてまとめ、地元自治体へ還元した。今後、利用しやすい「杜」の環境整備と安全確保がいっそう進み、景観の維持や生物多様性の保全等が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期		計
事業量		
参加者数		
実施場所	活力調査：塚山公園（杉並区） 下耕地グリーンベルト（日野市） 永山北公園（多摩市） 追跡調査：富士見町公園斜面林（立川市）	

普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業（A-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな潤いのある県づくりを目指し、「森林の世紀」といわれる今世紀に、森林・緑に対する「国民参加の森林づくり」運動の一層の推進を図るため、普及啓発情報誌を発刊し、普及啓発に努めた。

2. 活動の成果

「森林と人間との共生」を基本理念とし、県内における唯一の林業月刊誌「林業にいがた」に、当委員会の事業内容や活動状況を掲載することによって、県民に広く普及啓発を図り、「森林・緑・水」に対する認識を深め、森林づくりの重要性をアピールすることができた。

3. 参加者の声

林業関係者の方に、当委員会の事業内容や各地域の活動状況を伝え、理解してもらうことができるので、今後も有効に活用し継続していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R元年7月～R2年6月		備考
事業量	「林業新潟」内 特別コーナー 2P×12ヶ月		
参加者数	計		
実施場所	新潟県全域		

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）（A-62）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、FM放送での周知、森づくり活動情報パンフレット、会報誌の作成を行った。

2. 活動の成果

ふるさとの環境について理解を促進するため、新潟県民エフエム放送が企画した「ポルタ」では、県民一人ひとりが身近な森林について考え、保護し活動を促すことを発信した。新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

また、にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（秋期版）を作成して広く県民に配布し、ホームページにも掲載したことで、活動の参加促進を図ることができた。

どちらも新潟においては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・「ポルタ」の放送を聞いて緑の募金への意識が高まった。
- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はとてもありがたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月	7月～9月	7月～9月	計
事業量	FM放送	パンフレット	会報誌	
参加者数				
実施場所	新潟県全域			

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-63）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、森の名手・名人の認定者、褒賞の受賞者を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにおいては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はとてもありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月～4月	4月～5月	4月～6月	1月～6月	計
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット	FM放送	
参加者数					
実施場所	新潟県全域				

緑化団体活動周知・地理情報活用事業（A-64）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、2001年にスタートした、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、地理情報システムを活用して、県内で展開する緑化団体の活動を周知し、身近な森づくりの推進を図る。

2. 活動の成果

第65回全国植樹祭の開催を契機として、県民参加の森づくりの推進が一層求められている。当委員会が中心的役割を担う、2001年にスタートした「にいがた緑の百年物語県民運動」の、これまで積み上げた県内各地の森づくり活動を集約・発信し、森林・緑の対する意識を深める機会を提供した。同時に、身近な森づくりへの参加を促した。また、環境保全への関心を深め、ボランティアによる森林整備や緑化活動を活発にした。そして、当委員会との連携や緑化活動団体相互のつながりを密にし、県民一人ひとりが思いを抱く緑化活動の展開につなげた。

3. 参加者の声

- ・これまでの森づくり活動が簡単に検索でき、他団体の情報も知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R元年7月～R2年6月	計
事業量	地理情報システム	
参加者数		
実施場所	新潟県全域	

森林・木材等普及啓発事業（A-65）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（1）木工教室の開催

「とやま木と住まいフェア2019」（富山県木材組合連合会共催、場所：富山県木材研究所（射水市））を開催し、親子木工教室、県産スギ（JAS材）の魅力を感じ、チビッ子とんかちコンクールの表彰等を行った。

（2）緑に親しむ集い

新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントは中止となったが、シイタケの植菌体験については、県民公園頼成の森（砺波市）において、ホダ木355本に植菌をし、希望者に森からの恩恵について普及啓発を行い、配付した。（（公財）花と緑の銀行共催）

（3）花とみどりの少年団支援

森林環境教育を促進するため、県内の花とみどりの少年団に運営費を助成した。

（4）森林・緑普及広報

ホームページで事業活動を紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。また、学校への苗木配布や各種コンクールの募集、審査や表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

2. 活動の成果

木工教室やシイタケの植菌を通し、森の恵みの活用や作る楽しさを知ってもらえた。また、環境教育や苗木の植樹などを通して、未来を担う青少年に木の良さや森林の働きについて理解を深める機会となった。更にホームページで情報発信することにより、今後の森林整備や緑化の推進に繋がることが期待できた。

3. 参加者の声

- ・（木工教室で）木の温もりを体感できた。
- ・（シイタケ植菌で）森の恵みに感謝することができた。
- ・（花とみどりの少年団活動で）森林の働きについて知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	5月	計
事業量	とやま木と住まいフェア2019 （木工教室）	緑に親しむ集い	
参加者数	800人	62人	862人
実施場所	富山県射水市	富山県砺波市	

花とみどりの少年団活動支援事業（C-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「花とみどりの少年団体験学習」において、団員の体調管理や怪我等の緊急時に対応できるように看護師を配置した救護班を設置し、体験学習の円滑な運営を図った。

また、フォレストリーダーに森林の多面的な機能等について解説していただき、知識を深めるとともに、参加少年団からの感想等をとりまとめ「活動集」を作成、配布した。

2. 活動の成果

「花とみどりの少年団体験学習」を、令和元年7月29日～30日、国立立山青少年自然の家において1泊2日で実施した。研修内容は、自然観察、クラフト体験、野外炊飯、テント設営・テント泊、キャンドルサービス等である。

この体験学習の期間、救護班を設置し、看護師2名が会場に泊まり込み、24時間体制で緊急時に対応した。看護師の治療件数は、虫刺され等6件であった。

また、少年団員に森林の多面的な機能を知ってもらうため、県フォレストリーダーによる「木工クラフト」や「森のふしぎ〇×クイズ」等の指導を行い、参加少年団からの感想等をまとめた「活動集」を作成、配布した。

3. 参加者の声

少年団員：「看護師さんがいたので安心だった。」

父兄：「救護班が設置されているので、安心して子供を参加させることができた。」との声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29～30日	計
事業量	看護師2名、 フォレストリーダー15名	看護師2名、 フォレストリーダー15名
参加者数 （団員、引率者等）	25人	42人
実施場所	富山県中新川郡立山町芦嶺寺地内	

森づくりグループ活動支援事業（C-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

下刈、間伐等の森林整備を行う森づくりグループの活動を支援し、里山林の再生を図るとともに森づくりグループの自発的な活動を促進した。

2. 活動の成果

シラカバ林の下刈と、既存のコナラ、ミズナラなどを選木し、誤伐を防ぐため竹の杭を打ち広葉樹の環境整備を行った。

また、第68回全国植樹祭（平成29年5月28日、富山県魚津市開催）に向け育てたコナラ、クリ、クスギ等の保育に努め、森林の有する公益的機能の増進を図った。

さらに、作業道を車が安全に通行できるよう法面に生えている灌木を伐採した。

今後も、里山林の再生が図られるとともに、森林ボランティア活動への理解が得られるよう活動を支援していきたい。

3. 参加者の声

- ・森林ボランティア活動に参加して、20年目をむかえました。高齢になっても活動できる自分を誇りに思います。
- ・下刈作業は、生産森林組合の方の指導のもと、動力も使い、横一列に並んで作業しました。効率的で、きれいに仕上がり、大変満足感がありました。
- ・天候にも恵まれ、怪我もなく皆さんと活動できたことに喜びを感じました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月28日	10月26日	計
事業量	下刈（1.0ha） 竹杭打込み	下刈（0.2ha）	下刈（1.2ha） 竹杭打込み
参加者数	11人	13人	24人
実施場所	富山県富山市 本宮大平割地内	富山県富山市 本宮大平割地内	

緑化思想の普及啓発事業（A-66）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの県審査における入選作品の表彰を行った。

また、金沢市の石川農林会館において、入選優秀作品の掲示を行った。

2. 活動の成果

表彰により応募者のインセンティブが高まるとともに、緑化ポスターに対する関係者の関心が高まった。

また、入選優秀作品の掲示を通して、広く県民の皆さんに対する緑化思想の普及啓発に役立った。

3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、子供たちの視点で絵に表現されている。

表彰や作品展示は、児童・生徒のインセンティブの向上になる。

作品を鑑賞して、子供たちの自然に対する想いの一部が伝わってきた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年4月～5日	計
事業量	緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール優秀作品 掲示、表彰	
参加者数	29人	29人
実施場所	金沢市古府 石川農林会館	

県内産緑化苗木無償配布事業（C-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑の募金や緑化の普及啓発活動とセットで県内産緑化苗木の無償配布を実施した。

2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、新たに募金に協力する動機付けにつながった。

また、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、改めて感謝したい。

今後、緑を守り育てるための協力をしていきたい。

無償配布で頂いた緑化苗木は大切に育てていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年11月	令和2年3月	計
事業量	30本	58本	88本
参加者数	19人	36人	55人
実施場所	県内一円	県内一円	

森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-33)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中、国民参加の森づくり運動推進の中核的役割を担う森づくりボランティアのリーダー養成を目的に、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

ボランティアについては、一般県民を対象に広く募集し、地元の住民との交流、連携に努めながら、各フィールドの森林の現況に応じて、植栽、下刈、施肥、除間伐、歩道開設、竹林伐採等の作業を実施した。

また、現地での作業のほか、セミナー形式で森づくりに関する基礎的知識や、安全のポイント、森林整備の道具・機械類の扱い等の研修を開催し、人材の育成に努めた。

2. 活動の成果

各フィールドの整備が促進されたことに加え、計画的に県内の森づくりボランティア活動を担う人材の育成が図られた。

また、地元住民等との交流を通じて、農山村の活性化に役立った。

3. 参加者の声

森林の大切さや森林整備における各種作業の適期、必要性が理解できた。

森づくり活動は、一定期間継続しなければいけないことがわかった。

事前準備の重要性や作業が重労働であることがわかった。

実績報告とりまとめ表

①森づくり活動

実施時期	9月7日	9月14日	9月28日	10月19日	10月26日	11月9日	計
事業量	除伐、間伐 0.99ha	竹林伐倒整理 0.3ha	里山林植樹、 施肥 0.3ha	下刈、除伐、 植樹 0.4ha	竹林伐倒整理、 植樹 0.2ha	竹林伐倒整理、 植樹 0.3ha	2.49ha
参加者数	37人	40人	43人	26人	47人	62人	255人
実施場所	小松市	金沢市	能美市	輪島市	金沢市	津幡町	

②研修講座

実施時期	7月～11月
事業量	講義6回
参加者数	77人
実施場所	金沢市他2市町

もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-67）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

- ①竹工作体験 ②木の工作体験 ③「森の中で分解する生き物」キノコと虫と仲間たち ④木工クラフト体験（本立て、巣箱）
⑤落ち葉の森で遊ぼう（里山散歩、落葉遊び） ⑥森の恵み収穫祭（林内散策と落葉、リース作り） ⑦学校林の作業体験活動

2. 活動の成果

木や花、きのここと接し名前が覚えられたこと、親と子が楽しく自然体験ができたこと、木のぬくもりを感じながら木工体験ができたこと、秋の森の紅葉、自然のきのこや昆虫を採り名前を覚えることができたこと、植樹や下刈の体験ができたことなど、森づくり活動等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの認識が深められた。

これからも、大人から子供まで県民が森の中で森の恵みを体験できるイベントを行う。

3. 参加者の声

- ・森遊び体験を子どもたちにさせたかった。
- ・自然の中で、普段できない遊びがたくさんできた。
- ・子どもは森や山で遊んでいないので、ここで体験できると知って参加した。
- ・子どもと自然の中で遊べると思って参加した。
- ・森のことをいろいろ教えてもらったり、リース作りも楽しかった。
- ・子どもに自然を学ばせたかった。森を歩いていていろいろ発見することに興味があった。
- ・いろいろな木やきのこが見れて楽しかった。
- ・落葉遊びや岩登り、森の散歩等、自然の中で楽しく遊べた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日 8月4日 8月11日	10月20日 10月26、27日	11月24日	計
事業内容	竹工作体験 木の工作体験 樹木観察 自然観察 下刈活動 間伐枝打講習会	きのこ探し 木工クラフト 落葉の森の散策 木の実や枝拾い 秋の森散策	木を使おう リース体験 蔓と木の実を 使って創ろう	
参加者数				253人
実施場所	福井市駅前、福井市朝谷町、大野市六呂師、越前市別院、越前市八ツ杉、南越前町今庄			

ふくいの森林づくり推進事業（C-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・森を元気に育てる体験会
- ・竹林を手入れし、里山林をまもろう
- ・ふくいの森林づくり間伐研修会

2. 活動の成果

植樹の大切さの体験、侵入竹除去の講習や施業の集約化による低コスト化利用間伐材搬出方法の講習で、森林と水の大切さ、地域材・山村資源の活用等が一般県民に啓発ができた。また、これからも植樹体験会、竹林の手入れ方法や効率的な間伐研修会を実施し、森林所有者、一般県民やボランティア団体に積極的に森林づくりに参加して貰えるよう努めたい。

3. 参加者の声

- ・植樹活動に参加したことがなかったので、一度体験したかった。簡単に植樹が出来るんだと思った。
- ・森に来ることが好きだから家族皆さんでできました。気持ちよく植樹ができました。
- ・大きな機械で木を切るところを見たのは初めてだった。倒した木の枝を取ったり長さ通りに切ったり積み込んだりを機械でできるとは思わなかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月2日	11月4日	11月8日	計
事業内容	植樹体験	侵入竹除去講習	間伐講習	
参加者数	20人	10人	6人	36人
実施場所	福井市脇三ヶ町、福井市八幡山、勝山市北谷町谷			

緑の少年隊森林学習会（A-68）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年隊を含む県内の小中学生を対象に、森林学習・自然体験などの活動を通じて、森林についての興味や関心を深め、自然に親しむことを目的とする。

2. 活動の成果

森の素材でクラフトづくりや、森の中で野生動物や草木の観察を五感によって学び、緑豊かな自然のすばらしさ、大切さを学ぶことができ、森林及び自然に対する興味や関心が深められ、青少年に対する森林環境教育の促進が図られた。

3. 参加者の声

- ・自分の学校以外の友だちと仲良くなれた。
- ・森にある材料を拾ってリースが作れて楽しかった。
- ・レンジャーさんの話して森にすむシカのことがあった。
- ・カレー作りは大変だったけど、食べれてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和1年7月31日～令和1年8月1日	計
事業量	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションゲーム ・森の素材で木工作 ・レンジャートーク ・自然観察ウォーク 	
参加者数	24人	24人
実施場所	山梨県南アルプス市市之瀬 エコパ伊奈ヶ湖	

教職員森林・林業研修（A-69）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

学校周辺の自然を観察する方法や木工作の指導方法等について、実習を通じた体験的な研修を行うことにより、理科、総合的な学習の時間、生活科、環境教育等における指導方法の向上を図る。

2. 活動の成果

教職員の森林・林業への理解が深まるとともに、児童生徒に対して森林環境教育等を行う際のスキルアップが図られた。

3. 参加者の声

- ・実習が中心の研修で分かりやすかった。
- ・体験を通して林業の大変さや、間伐作業の重要性が理解できた。
- ・現任校の学校林学習に生かせると思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和1年8月6日	令和1年8月9日	計
事業量	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業の基礎知識講義 ・森と人との関わり方（ヒノキ間伐体験） ・森と人との関わり方（ヒノキ樹皮で編みカゴ作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・木工作入門講義および実技 	
参加者数	10人	13人	23人
実施場所	山梨南巨摩郡富士川町	山梨県森林総合研究所	

子ども樹木博士認定事業（A-70）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

夏休み期間中に県内の2箇所の森林で、小学生とその保護者を対象として、林内を歩きながら講師から樹木の解説を受けた後、樹木の名前テストを実施し、成績に応じて樹木博士の認定書を授与した。

2. 活動の成果

森林の中で、親子が共にふれあいながら樹木の名前を識別できるようになり、自然により親しんでもらうきっかけになった。

3. 参加者の声

- ・夏休みの自由研究に書く。
- ・もっと勉強したいと思った。
- ・樹木の事がよくわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和1年7月21日	令和1年8月4日	計
事業量	21人の小学生に認定書を授与した。	8人の小学生に認定書を授与した。	
参加者数	44人（保護者を含む）	18人（保護者を含む）	62人（保護者を含む）
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 河口湖フィールドセンター		

森の教材「くらしと森林」発刊事業（A-71）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の教材「くらしと森林」を作成し、森林・林業を学習する課程に合わせて、県下の小学5年生全員に配布し、副教材として活用するとともに、県下の図書館・教育委員会等に配布し、水源かん養機能、地球温暖化防止など森林の果たす役割を普及啓発するとともに、広く緑化思想の高揚を図った。

2. 活動の成果

多くの小学校で総合学習の時間に活用しており、県下全域の小学生に対し、確実に森林・林業への理解を深めることができた。

3. 参加者の声

森林が木材を作るだけでなく、いろいろな働きを持っていることがよく理解できた。
森林を大切に守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	森の教材「くらしと森林」発行・配布（4月～8月）	計
事業量	9,700部印刷	
参加者数	県下小学5年生全員に配布	
実施場所	県下全域の小学校、図書館等に配布	

親子緑の集い（A-72）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森が産んだ素材の木材、枝、木の実、樹皮等を活用したクラフト教室と普段経験のない高木へ登るツリークライミングを開催し、日頃の日常生活では味わう事が出来ない天然素材の物作り等を体験し、森林の香りや癒しの効果を実感してもらうとともに、森林や緑の重要性を学んでもらう。

2. 活動の成果

森の中で遊ぶ、学ぶなど自然を体感することの少ない現代生活において、参加者からは親子のふれあいが深まり、貴重な経験ができたと感じるをうけ、これらの場を提供することにより、募金事業の有益性や理解を得ることができた。

3. 参加者の声

- ・自然にたくさん触れ合えて楽しかった。
- ・木に登ったのがとても楽しかった。
- ・親子で参加でき、とても楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和1年7月28日	令和1年10月26日 令和1年10月27日	令和1年11月23日	計
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工	親子でツリークライミング	クリスマスリース作り	
参加者数	親子19組51人	親子14組35人	親子12組32人	親子45組18人
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜サービスセンター			

緑化ポスター・標語コンクール開催（A-73）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

全県下の小中学生を対象に、緑化・育樹ポスターコンクール、国土緑化運動・育樹運動標語コンクールを開催し、優秀作品を選定後、秋に開催する林業まつり記念式典で表彰を行った。

2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、森林や自然に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

3. 参加者の声

- ・木の大切さを考えながら書いた。
- ・入賞してとてもうれしかった。これからもがんばって書きたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年6月～10月	令和元年6月～10月	計
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動標語コンクール	
応募者数	863作品	208作品	1,071作品
実施場所	山梨県甲府市丸の内 恩賜林記念館ほか		

緑の活動発表会（A-74）

基金事業の概要

1. 活動の概要

県内各地において緑化活動を積極的に行っている各地区から推薦された4団体の児童が、日ごろの緑の少年隊や学校林活動等の状況を発表するなかで、お互いに刺激を受けながら切磋琢磨し、今後の緑化活動が発展することを目的とする。

2. 活動の成果

各団体とも地域の特徴を捉えた活動内容であり、参加した児童はほかの団体の活動状況を知ることで良い刺激を受けた。指導者は、この発表会は各団体相互の情報交換の良い機会であり、今後の活動を進める上で良いヒントとなり、活動のメニュー作りの参考になった。

緑の少年隊事務局の指導者にとっても、県内緑の少年隊の活動を知る良い機会となり、今後の活動の広がりや充実が期待できる。

3. 参加者の声

- ・とても緊張したが、楽しかった。これからもがんばって活動したい。
- ・他の学校の活動がわかって良かった。
- ・森や林についての勉強ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和1年11月9日	計
事業量		
参加者数	34人	34人
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜	

緑化推進活動促進と活動資材提供事業（A-76）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供や巨樹・名木観察会の開催、みどりの少年団活動に必要な教材の提供、木育の普及啓発を行い、緑化推進に繋がる活動を行った。

- (1) 植木祭り
保育園に苗木を配布し、子どもたちが緑の大切さ学ぶきっかけとした。
- (2) 巨樹・名木探訪観察会
郡上市美並町、白鳥町地内の巨樹や名木を訪ね、樹木にまつわる歴史や樹木の保護保存に対する地域の取り組みなどについて、観察・研修した。
- (3) みどりの少年団活動支援
みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「街路樹を観察しよう」を3,500部作成するほか、活動に必要なヘルメットなどを購入し、配布した。
- (4) 木育普及啓発
ぎふ木育の普及啓発を図るため、「ぎふ木育ガイドブック」を配布した。

2. 活動の成果

- (1) 植木祭り
苗木の配布を契機に緑を大切に作るきっかけづくりが出来た。
- (2) 巨樹・名木探訪観察会
巨樹や名木を守り育てることを通じて、樹木や地域資源を大切にすることに加え、それらを支える地域の取り組みに対する理解が深まったので、今後も継続したい。
- (3) みどりの少年団活動支援
少年団活動に必要な教材を配布し、子どもたちに身近な樹木に対する興味を喚起することが出来たので、今後もテーマに配慮して継続する。
- (4) 木育普及啓発
木育ガイドブックをの配布により、「ぎふ木育」の推進に繋がった。

3. 参加者の声

- (1) 植木祭り
苗木が大きくなるとよいと思った。
- (2) 巨樹・名木探訪観察会
巨樹や名木を大切にしている地域の取り組みに敬意を表し、樹木への愛情が湧いた。
- (3) みどりの少年団活動支援
身近な街路樹を観察によって、もっと木の種類や紅葉などを知りたくなった。
- (4) 木育普及啓発
木や森の遊びは、とても面白く、もっと遊びたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	植木祭り 令和2年5月	巨樹名木探訪観察会 令和元年10月2日	みどりの少年団活動支援 令和2年1～10月	植木育普及啓発 令和2年6月	計
事業量	植木28本	観察会1回実施	活動手帳3,500部 ヘルメット218個 トートバッグ300枚等	ぎふ木育 ガイドブック 1,088部	
参加者数	2人	18人	3,500人	733人	4,253人
実施場所	下呂市萩原町	郡上市美並町・白鳥町地内	岐阜県内各地	岐阜県内各地	

みどりの啓蒙推進事業（A-77）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○「ぎふ木育WEEK（山の日フェスタぎふ2019）」

8月の「ぎふの山に親しむ月間」の中心的行事として、「ぎふ木育WEEK」と冠して、県民一人ひとりが木に親しみながら、ぎふの山や森林、自然、林業、木材のことを考え、体験が出来る催しを、関係団体と共催した。

・ぎふの木のおもちゃ広場、赤ちゃん木育広場、ワークショップ など

○「ぎふの木フェスタ2019」

子どもから大人まで多くの県民が木に親しむことを目的に、木の良さや木を使うことの大切さを普及啓発するため、関係団体と共催した。

・木のおもちゃ広場、赤ちゃん木育広場、子どもアスレチック、木のジャングルジム、木の巨大迷路、木工工作体験、木工品等展示販売 など

2. 活動の成果

豊かな自然を背景に、森と木からの学びである「ぎふ木育」を通じて、木に親しむ機会を幅広く提供し、来場者が体験したことにより、木の良さを実感し、木を使うことの大切さに加え、森林づくりの大切さに対する県民の理解を深めること繋がった。令和2年4月には、「ぎふ木遊館」が開館するので、木育の推進に協力していきたい。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが木の優しさと温かみに触れて、良い体験ができた。
- ・親子で木の乗り物やおもちゃで遊ぶことができ、とても楽しかった。
- ・木のおもちゃは、子どもたちがとても喜び、自宅のおもちゃを見直したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日～12日（8月11.12日）	11月2日～3日	計
事業量	ぎふ木育WEEK（山の日フェスタぎふ2019）の開催	ぎふの木フェスタ2019の開催	
参加者	1,860人	26,000人	27,860人
実施場所	岐阜市 ぎふ清流文化プラザ	岐阜市 岐阜メモリアルセンター芝生広場	

恵みの森づくり事業（C-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山いきさの会は、地域住民等で組織した団体で、地域のシンボルとなる森林（恵みの森）を住民参加で整備する取り組みを続け、地域の自然環境の維持と住民の活力向上を図り、人々の交流促進とともに、森林による地球温暖化防止、地域材の利用等について普及・啓発し、地域の人々の理解を深めている。

○ シンボルの森林（恵みの森）の整備

四季を通じて美しい森林景観を呈する「せせらぎ街道」沿いの伐採跡地が景観を損ねているため、参加者を広く募集して、地域住民とともに広葉樹の植栽を中心とする森林整備を行い、地域のシンボルである「せせらぎ街道」の景観向上と森林づくりへの理解を深め、緑化推進の意義を啓発した。

2. 活動の成果

地域のシンボルであり、多くの人々が通行する「せせらぎ街道」沿いの森林を住民参加で整備することは、地域住民の結束と地域への愛着が深まるとともに、地域へ訪れる多くの人々へのおもてなしにも繋がっている。今後も「せせらぎ街道」沿いに植栽が予定されており、適切な整備と併せて、美しい森林景観を取り戻すことが期待される。

なお、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者の募集は取り止め、会員等で植栽を実施した。

3. 参加者の声

- ・自分たちが植えた木の成長していく様子を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・親子や地域の人々と共同作業を行うことで、家族や地域に連帯感が生まれるとともに、達成感も得られている。
- ・せせらぎ街道が美しくなることにより、沿道の美化につながっている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	恵みの森づくり 2020年4月	計
事業量	ヤマザクラ、モミジ、ハナモモ、ホオノキ等 200本 面積：0.5ha	200本
参加者数		20人
実施場所	岐阜県郡上市八幡町初納（しよのう）地内	

森づくり県民大作戦支援事業（A-78）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を県民全体で支えていくという県民意識の醸成に向け、県と連携し、県内各地で行われる森づくり活動を「森づくり県民大作戦」として位置づけ、さらに活動の適期となる春と秋の一定期間を重点期間と定め支援・推進した。

しずおかForestStyleセレクション SDG s COLLECTION supported by TGC しずおか2020（主催静岡市）に出展し、これまで森づくり活動や自然とふれあう機会の少なかった若者や子育て世代等を新たに呼び込むため、森林環境教育や木製クラフト体験及び森づくりとSDG sとの関わりや新たな森林空間の活用（森林サービス産業）のPRを行った。

2. 活動の成果

今年度の「森づくり県民大作戦」の行事数は秋の台風の影響もあり減少した。しかし、行事数に比し参加者数は昨年度並みであり、県民参加型・体験型の森づくり活動が定着してきていると思われる。

引き続き、森林空間の活用に向けた森づくり活動や、県民による空間活用の取り組みの拡大など、新たな森づくり活動の促進に取り組んでいく。

3. 参加者の声

- ① 日頃接することのない森林や自然環境と接することができリフレッシュできた。
- ② 伐採作業を間近で見て、更に体験できるなど貴重な時間となった。
- ③ キノコやキノシ肉などを食べることができ自然との一体感が生まれた。
- ④ 他の活動団体の森林環境教育の手法を学ぶことができた。

実績報告とりまとめ表（1月末時点）

実施時期	4月1日～5月31日	9月15日～12月15日	その他	計
事業量	208行事	169行事	230行事	607行事
参加者数	5,869人	14,330人	6,908人	27,107人
実施場所	静岡県内 各地			

緑の少年団交流集会開催事業（C-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然の中で緑や森林の大切さを学ぶ「緑の少年団交流集会」を開催した。

少年団の普段の活動ではダイナミックな自然・森林にふれる機会が少なく、また専門知識を有する指導員の指導を受ける機会も少ないことから、緑溢れる富士山麓の宿泊施設を会場に、専門指導員を配置し、2泊3日のスケジュールで実施した。

学習・体験活動、生活（宿泊棟）にあたっては、交流を深める視点から、少年団の所属にとらわれないグループ分けを行った。

- ・初 日：少年団ごとの活動報告、五感を研ぎ澄まして森林と同化する「ナイトハイク」
- ・2日目：宝永山火口トレッキング、巨樹の森のフォレストウォーク、キャンドルファイヤー
- ・3日目：森のおははし、お土産作り、3日間のふり返り、発表

2. 活動の成果

富士山トレッキングや森林の中でのスポーツビルディング等の森林の中でのプログラムは団員や指導者に好評であった。また、体験する中で自然とチームワークが生まれ、交流を深めていた。

年々参加少年団は減少の一途をたどっている。何十年も使用していた開催会場が今年度で閉鎖されたこの機会に、場所や時期、プログラムの内容、PRの方法、応募方法等全面的にリニューアルする。

3. 参加者の声

○少年団員

- ・他の団員達と色々な話ができて、とても楽しく特に富士山のことが勉強になりました。
- ・友達がたくさんできました。
- ・宝永山からの雲海が見えたり、富士山の雄大な景色に感動しました。

○少年団の引率者

- ・行く前は不安で仕方ありませんでしたが、行ってからは楽しいことばかりでした。（父兄）
- ・このような機会がなければ、体験できない事ばかりでした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月7日～9日	計
事業量	1回（2泊3日）	1回（2泊3日）
参加者数	73人	73人
実施場所	静岡県富士宮市粟倉 県立富士山麓山の村、 富士山宝永山	

みどりに親しむ集い事業（A-79）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

所有している山林をどのように管理したらよいかのノウハウや、森林観察活動のリーダーの育成を図った。

また、中学生、小学生に対し森林環境学習や間伐材を利用した木工作を行い、森林環境整備や森林活性化のリーダーとしての育成を図った。

2. 活動の成果

楽しい山づくり講座では、山の機能について学び、山の管理に関心をもたせることができた。森林観察リーダー入門講座では、参加者に次代のリーダー候補を育成することができている。森林セミナーでは、人工林と天然林の違いや、森林の公益的機能等を現場観察を通し学び、間伐の必要性の理解に繋がった。

また、将来を担う子ども達に、木工作や森林作業を通じ、木に親しみを抱き、森林環境や育林に興味を持つ子どもも現れ、将来に期待をもてた。また、森林の重要性を認識した子どもたちを多く見る事ができた。

3. 参加者の声

- ・間伐の必要性を比較し実感できた
- ・刈り払ったあとの爽快感
- ・講師に、所有林を重荷に思わず楽しみながら活用してほしいと言われたのが印象に残った
- ・山の見学会で、所有者による色々な山が見ることができ勉強になった
- ・安全教育の大切さをしることができた
- ・キノコ栽培など多目的な利用がためになった
- ・自然の仕組みがおもしろい

実績報告とりまとめ表

平成30年度みどりに親しむ集い事業 実績一覧表

事業主体名	事業名	実施状況	実施時期	実施場所	参加人員
豊田市 (豊田市)	楽しい山づくり入門講座・森林観察リーダー入門講座	所有している山林をどのように管理したらよいかのノウハウや、森林観察活動のリーダーとして必要な知識を実践的に学ぶための講座を開く ○活動内容 12回 ・合同講座（1日間） ・楽しい山づくり入門講座（4日間） ・森林観察リーダー入門講座（4日間） ・森林セミナー（3日間）	R1.7.1 ～R2.3.3	豊田市 市内公共施設 県有林他	合同講座 延べ 16人 楽しい山づくり入門講座 延べ 24人 森林観察リーダー入門講座 延べ 45人 森林セミナー 延べ 100人 4講座合計参加者 延べ 185人
特定非営利 活動法人 森林真剣隊 (新城市)	森林管理ボランティアリーダー育成実習活動	都市・農山村居住者を対象とした森林管理技術者兼ボランティアリーダーの育成と、これらを通じた森林の健全育成と林業の再活性化。また次世代を担う子供たちと共に森林環境学習や、間伐材を利用した木工作を行い、森林環境整備や森林活性化の先達としての育成を図る。 ・活動内容 10回 初級活動、環境整備 4回（50人） ・下草刈り、低雑木処理 鳳来中学校森林体験学習 1回（1年生52名） 森林真剣隊活動 4回（27人） 木工作 1回（59人） ・新城市立門谷小学校	R1.7.1 ～R2.2.28	新城市 門谷及び周辺 地区	参加者 188人 ・小学生 59人 ・中学生 52人 を含む 真剣隊 77人 延べ 188人
2団体	2件	22回			373人

みどりの少年団育成事業 (A-801)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

少年団が行っている街頭募金や学校募金などで、様々な資材が不足している。そのため、今回各団にアンケートを取り募金グッズを配布し、一層の募金運動の推進を図る。

2. 活動の成果

愛知県には、少年団が76団あり、約4,500人の団員がいます。大半の少年団が学校募金や街頭募金を実施しており、多くの少年団団員が参加しております。

募金活動へ参加体験することにより、個々の団員がやりがいを感じている。また、経験することにより、社会の一員としての役割や大切さを学ぶことができています。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが、やりがいを感じている。
- ・横断幕など、募金活動以外でも利用します。
- ・どんぐりくんの募金箱がカワイイ。
- ・缶バッジがかっこいい。
- ・募金グッズが足りないと思っていたので助かります。

実績報告とりまとめ表

実施時期	期間 完了	令和2年6月20日～令和2年12月31日 令和2年12月28日
事業量		緑の募金横断幕 45枚 募金箱各種 180個 新どんぐりくん募金箱(国土提供) 60個 手作り募金封筒 3,000枚 角2封筒(手作り募金封筒印刷入) 5,000枚 缶バッジ(少年団名入り) 1式
実施場所		県下76 みどりの少年団

ふるさと樹木診断事業 (B-2)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等(ふるさと樹木)を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。

樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて42本の診断樹木を選定し、一般社団法人日本樹木医会愛知県支部に委託し実施した。

診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立てている。

2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。

緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も続けて実施する予定でいる。

平成6年からのデータの蓄積(約1,300本)もあり、保護・保全に役立っている。過去のデータをまとめ、情報の共有を計画している。

3. 参加者の声

- ・事業を今後も続けてほしい。
- ・名木(シンボル)が保存され、地域住民の緑化の高揚にも繋がった
- ・過去のデータをとりまとめて、誰でも見えるようにしてほしい。
- ・手当をした際このデータが役に立った。(過去の診断木)
- ・名木を一覧にして本にならないか。

実績報告とりまとめ表

実施時期 (委託)	委託期間 委託完了	令和元年8月1日～令和2年1月31日 令和2年1月31日
事業量		樹木診断本数 42本
実施場所		愛知県内 20市町

森林ボランティア養成事業 (C-37)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

下記 令和元年度みどりに親しむ集い事業 実施一覧表参照

2. 活動の成果

下記 令和元年度みどりに親しむ集い事業 実施一覧表参照

3. 参加者の声

下記 令和元年度みどりに親しむ集い事業 実施一覧表参照

実績報告とりまとめ表

令和元年度みどりに親しむ集い事業 実績一覧表

区分	事業主体名	事業名	実施状況	実施時期	実施場所	参加人員	活動の成果	参加者の声
山村交流	新城市	木トピア	森林・林業に対し理解と関心を深めてもらうことを目的に、木工工作を通じ、木と触れあう機会をつくり身近な「木」を感じる行事を行った。また、緑化木の配布なども行った。	1.10.19	桜淵公園	1500人	・森林林業・身近な木工等を体験することを通じて、森林や緑の大切さを理解できた。緑化意識の高揚につながった。	・「はし」がきれいに出来上がった。 ・さまざまな取り組みがあり、楽しい一日を過ごせた。 ・持ちきれないほど、一日を楽しめた。
作業体験	里山ルネッサンス	市民参加による子ども森林ひろば作り体験	都市近郊にありながらも一般市民が親しみにくかった雑木林に一般市民を招き、森林整備作業、あそび場作り、木工工作など緑と森林に親しむ体験を通じて、森林や緑、水の大切さを理解してもらう活動を行った。	1.7.14 ～ 2.2.19	瀬戸市「遊々の森」及び尾張旭市交流館	260人	・人の手が入らず荒れつつあった雑木林に光と風が入り多様な生物が住みやすい環境になっていくのが、体感として効果が期待できる。	・間伐体験、初めてです。 ・竹トンボが飛んだとき感動した。 ・森の工作が楽しかった。感動した。 ・疲れた。でも明日から頑張れる。
	みどりのまちづくりグループ	グリーンクラフト	みどりのまちづくりグループ「秋の緑の募金活動 みんなで間伐材を活用しよう」をテーマにイベント活動を行った。	1.7.1 ～ 2.2.14	春日井市廻間町及び春日井市西尾町県有林	693人	・自然のつながりを多くの人が体験でき、多くを学ぶことができた。また、幼児の参加も多く、幅広い年齢層の参加が得られた。	・自然素材の工作はひと味違った感じがする。 ・山の恵みに感謝。 ・疲れたが、いい体験になった。 ・初めてシイタケの菌打ちを体験した。 ・シイタケの収穫がたのしみだ。
木工教室	愛知県県木材組合連合会	ちびっこ木工工作ひろば	一般の方に、木材に触れ親しんで頂くために、毎年秋に「秋の木工工作教室」を実施し、親子で体験するほか、プレカットされた継ぎ手を実際に組み、家づくり体験をする。また、木材のPRのため自家製のカレンダーを配布した。	1.10.13 1.10.14	名古屋市中川区戸田川緑地公園	150人	・実際に木に触れて、木の香りや質感を感じることができ、木を身近に感じる事ができた。	・家づくりの仕組みを少し勉強できた。 ・普段さわれない木に感激した。 ・継ぎ手がおもしろかった。
	岡崎木材組合	ちびっこ木工教室	森林や緑の大切さを学び、木工細工を通して子供たちに木とのふれあいの場を提供した。椅子、木箱、プランター等子供でも作成しやすいキットを用意し、多くの子供達が体験することができた。	1.11.2 1.11.3	岡崎市乙川河川敷	1,000人	・毎年の恒例行事として定着してきた。多くの親子で物作りの楽しさを体験できた。リピーターがどんどん増え、活動の成果が上がっている。木の香りや温もりを感じることができた。	・キットなので失敗がなくてよかった。 ・毎年来ている。いろいろな体験ができた。 ・子供が一生懸命作ったものを大事にしたい。
	額田木材製材業組合	木工教室	地域材活用の木工教室や緑化木配布を通じ、森づくりの重要性を普及した。3種の椅子キット、間伐材でのサンタクロースの絵描きなど、木の良さを体験することができた。	1.11.10	岡崎市豊富小学校(運動場)	500人	・地域材活用と森林整備の重要性を理解していただくため、木工教室を通じ、推進することができた。	・早速、家に帰り木を植えます。 ・サンタの絵がうまく描けた。 ・いろいろな催し物があり素晴らしい。
環境教育	知多森林緑化振興会	令和元年度知多地域みどりの少年団交歓会	自然観察や交流・交歓を通して、知多地域みどりの少年団員相互の親睦を図ることができた。	1.11.16	東海市小池公園	38人	・自然の大切さや役割や大切に気づききっかけとなった。今後の少年団活動に役立てることができた。 ・地域の少年団の親睦を図る行事として定着した。	・指導員の話がおもしろかった。 ・他の少年団と交流ができた。楽しかった。 ・木の葉・実に触れることができ、名前も教わった。
計		7事業				4,131人		

県民参加の植樹祭開催事業（A-81）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹活動を通じて森林や緑に対する県民の理解を深めるため、令和元年11月23日（土）紀北町引本浦地内で、三重県、紀北町と共催で、天皇陛下のご即位記念として位置付けた「海と山と人をつなぐ植樹祭」を開催した。

開会式典は、引本魚市場のイベント「海・山こだわり市」会場で行われ、紀北町長、三重県農林水産部長、当協会長、みどりの女神等が参加して行われた。

植樹祭当日の「こだわり市」会場は、たくさんの林業関係ブースも出展があり、多くの県民が森林・木工等の体験を楽しんだ。

植樹会場へは船で移動し、ヒノキの苗木を尾鷲地方の伝統的な密植方式で植樹した。植樹活動は約80名が参加し、当協会は、植樹会場の整備等を行うとともに、ファンド事業により緑の少年隊の植樹活動（28名）等を支援した。

2. 活動の成果

植樹活動やイベント会場での森林・木工体験を通じ、広く県民に森林活動の大変さ、大切さ、楽しさなどの普及啓発を図ることができた。

また、植栽にあたっては、尾鷲林業の特徴などを説明した後に伝統的な密植方式でヒノキの苗木を植栽してもらうことで、尾鷲林業の普及や次代の資源確保につなげることもできた。

3. 参加者の声

- ・傾斜が急だったけど海が見えて気持ち良く植樹ができた。
- ・尾鷲林業の話聞くことができて勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日	計	備考
事業量	植樹活動 ヒノキ苗木80本		
参加者数	80人	80人	うち緑の少年隊28人
実施場所	三重県北牟婁郡紀北町引本浦網代地内町有林		

みえ森林イベント参加（A-82）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑に対する県民の理解を深めるため、令和元年11月23日（土）に三重県、紀北町と共催で開催した「海と山と人をつなぐ植樹祭」において、植樹祭及び森林体験学習等のイベント参加者に対し、樹木医による緑化相談を行うとともに、ファンド事業を活用し家庭で育ててもらうための苗木（ブルーベリー100本、クレマチス50本）の無償配布を行った。

2. 活動の成果

植樹祭や森林体験学習等のイベントへの参加者に対し、緑化相談を行うとともに苗木を配布することで、家庭での緑化活動を促し、樹木や森林への理解を深めることができた。

いろいろな組織や活動と連携しながら県民の森林や緑の理解を深めるために取組を進めていきたい。

3. 参加者の声

- ・実がなるのが楽しみです。
- ・大切に育てます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日	計
事業量	苗木配布150本	
参加者数	150人	150人
実施場所	三重県北牟婁郡紀北町引本浦 「海と山と人をつなぐ植樹祭」イベント会場	

森林とのふれあい促進事業（A-83）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 概ね20名以上の県民が参加する森林環境教育等のイベントを実施する森林ボランティア7団体に対して10万円を限度とする助成を行った。
- ①「グリーンボランティア「森林づくり三重」」は、森林体験や緑の少年隊など子どもたちを対象とした木工工作体験を実施した。
 - ②「鈴鹿市大久保町自治会」は、自治会管理の活動フィールドで地域住民の参加を得て下刈りなど森林整備を実施した。
 - ③「竹林整備隊」は、「みえ子ども森の学びサミット」において、木のクイズや竹ポックリづくり体験教室を開催した。
 - ④「大石里山林保全会」は、小学生を対象に菌打ち体験や森の役割を学ぶ森の教室を開催した。
 - ⑤「しぜん・ふしぎ・ワンダーランド」は森林に関心を持ってもらうために炭出しや薪割り等の体験教室を開催した。
 - ⑥「穂積製材所プロジェクト」は、森林学習や木工工作など年間を通じて実施した。
 - ⑦「大山田大日つあんクラブ」は、地域の景観の向上を目的とした植樹祭を開催した。
- (2) 森林ボランティア団体の活動の活性化を目指すため、森林ボランティア交流研修会を開催した。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体の活動に支援することで、県内各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、森と触れ合うことの楽しさ等の普及啓発を図ることができた。

また、研修交流会を通じて情報交換や技術向上を図ることで、ボランティアの今後の活動の活性化につなげることができた。

3. 参加者の声

各団体が実施するイベントの参加者からは好評をいただいているとのことで、活動基盤の弱い団体にとっては、当助成によって活動が広がり子どもたちに森林環境教育の機会を提供することができるため、事業継続を求める声が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	1月18日	計
事業量	助成団体7団体	交流研修会1回	助成団体7団体 交流研修会1回
参加者数	1,727人	22人	1,749人
実施場所	三重県下一円		

緑の少年隊活動の推進（A-84）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年隊の活動の活性化を図るため、県内の7隊にそれぞれ3万円の活動助成を行い、活動に必要な装備品の充実や動植物観察や木工等の体験学習や、野外学習の費用などを支援した。

なお、令和2年3月8日（日）に紀北町で開催を予定していた交流集会については、活動発表や草木染体験を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため急遽中止した。

2. 活動の成果

子どもたちが楽しみにしている交流集会は実施できなかったが、各隊の施設利用や装備品を支援することで、各隊の活動の幅を広げることができた。

交流集会の開催も含め、緑の少年隊の活性化に向けて活動を継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・県交流集会の中止は残念だったが、助成金を活用して自然観察会をすることができてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	計	備考
事業量	活動支援7隊		
参加者数	125人	125人	支援した少年隊の隊員数
実施場所	三重県内一円		

森林教室開催（A-85）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

三重県が子どもたちを対象に12月7日（土）に「三重県立みえこどもの城」で開催した「みえ子ども森の学びサミット」において、子供たちに森林や緑の理解を深めてもらうために、森林教室を開催し、「森のせんせい」の協力を得て子供たちに「原木シイタケ菌打ち」の体験、シイタケのできる仕組み、育て方などの指導を行った。

2. 活動の成果

原木シイタケの菌打ち体験をしながら、併せて原木の話や発生の仕組みの話をする事で、原木しいただけだけでなく、森林や樹木に対する理解や関心を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・シイタケができるまで時間がかかること、大変なことが分かった。
- ・原木シイタケと菌床シイタケの違いが分かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月7日	計
事業量	シイタケ原木菌打ち体験1回	
参加者数	93人	93人
実施場所	三重県松阪市立野町 三重県立みえこどもの城	

森林ウォーキング、巨樹・古木見学会開催（A-87）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和元年11月9日（土）に三重県森林インストラクター会と協力して、熊野古道の森林ウォーキングと巨樹・古木見学会を実施した。

森林ウォーキングは、班ごとに分かれてそれぞれ熊野古道の語り部とインストラクターが引率し、古道の歴史や古道沿いの樹木の説明をしながら、熊野古道始神峠道のウォーキングを行った。

その後、近くの豊浦神社にある三重県の天然記念物に指定されている社叢にあるバクチノキなどの巨樹・古木をインストラクターの解説で見学した。

2. 活動の成果

森林ウォーキングで森林内の心地よさを体感しながら、樹木を知ってもらったり親しんでもらったりすることや、地域にある巨樹・古木を知ってもらうことを通して、森林の良さや樹木保護の大切さを認識してもらうことができた。

参加者からは好評をいただき、引き続き実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・熊野古道の語り部や森林インストラクターから話を聞くことができ、古道の歴史やいろいろな樹木のことを知ることができた。
- ・このようなイベントがあればこれからも参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9日	計
事業量	森林ウォーキング 巨樹・古木見学会 開催1回	
参加者数	26人	26人
実施場所	三重県北牟婁郡紀北町始神峠、豊浦神社	

県民参加の植樹活動（A-871）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

平成30年に新種として公表されたクマノザクラの普及を通じて地域の豊かな自然や森林に対する理解を深めるため、紀宝町にある飛雪の滝キャンプ場でクマノザクラの植樹活動を実施した。

クマノザクラの発見者の勝木博士をはじめ日本樹木医会三重県支部、紀宝町、地元の熊野さくらの会、熊野農林事務所など多くの皆さんの協力をいただき、津駅からバスで参加した37名と紀宝町緑の少年隊6名を含め、総勢68名で40本のクマノザクラの植樹活動を行った。

2. 活動の成果

植樹活動の前に勝木博士からクマノザクラについて解説をしていただき、参加者にクマノザクラについて知ってもらうことができた。

今回、この地域で新しく発見されたクマノザクラの植樹活動を通じ、この地域の自然や森林の豊かさ樹木の魅力に対する理解を深めることができた。

参加者からは、クマノザクラの花を見たいという声もあったことから、見学会の開催を計画している。

3. 参加者の声

- ・クマノザクラの花を見るのが楽しみだ。
- ・このようなイベントがあれば是非参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月9日	計
事業量	植樹活動1回	
参加者数	68人	68人
実施場所	三重県南牟婁郡紀宝町浅里地区 飛雪の滝キャンプ場周辺	

緑の少年団育成事業（C-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団48団、3,649人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や活動交流会・発表会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動となった。

また、活動交流会・発表会の開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

とりわけ平成26年度より、滋賀森林インストラクター会の協力を得て緑の少年団サポーター制度を設け、当インストラクター会の指導のもと県内を4ブロックに分けて行っている指導者研修会を令和元年度は計8回開催し、またそのフォローアップとして5回にわたり個別指導を実施したことによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上が図られた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していきたい。

3. 参加者の声

森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通 年	7月～9月	10月27日	計
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 8回	緑の少年団 グリーンジャンボリー	
参加者数	3,649人	53人	200人	3,902人
実施場所	県下一円	びわこ地球市民の森 (守山市) 他7箇所	鹿深夢の森 (甲賀市)	

京都モデルフォレスト運動連携強化事業（A-88）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

モデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体」をさらに強め、活かし、広げることによる運動のさらなる発展を目指して、国際博物館会議京都大会（ICOM）の開催を契機とし、同大会の関連事業として行事を開催し、運動のPRを行った。また、次世代を担う青少年や親子、一般府民、企業の森林づくり担当者ら森林づくりリーダー等を対象とした体験講座等を開催した。また、国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、取り組みについての情報発信を行った。

2. 活動の成果

森林づくりに現在参加中の企業・団体だけでなく、今後参画を検討中の企業担当者、また未来を担う子どもたちや保護者に働きかけることで、豊かな森林の持続可能性についての重要性を認識いただいた。あわせて、京都モデルフォレスト運動への参画を促し、今後の活動の発展に向けて呼びかけを行った。

3. 参加者の声

- ・「京都の景観を美しく保つための取組がわかり、自然にふれられて良かった」「京都の知らなかったこと、森の大切さがよくわかり、内容の濃い一日になった。」（ICOM関連事業府民公開講座）
- ・「普段森に関わる機会があまりなかったが、実際に森林の中での調査や作業が体験できてよかった」「100年近く継続して調査研究をしているフィールドで、域内で絶滅してしまったものや危機的状況にある草花も多くあることを知った。」「生物多様性を守っていく取り組みの重要性を再認識した」（トライアルモデルフォレスト・森林保全ワークショップ）
- ・「磨いていると松のとてもしいい香りがして楽しく作る事ができた。」（StayHome応援企画）

実績報告とりまとめ表

事業量	ICOM協賛府民公開講座	企業の森「オープンフォレスト」環境教育・植樹等			企業の森「トライアルモデルフォレスト」森林保全活動ワークショップ		「山キッズ交流会」緑の少年団活動支援	子ども向け木工・森林教室	
		R1. 8. 3	R1.10.19	R2. 3.14	R1.11.29	R1.12. 4		R1.11.30-12.1	R2.5月
実施時期	R1. 9. 7	R1. 8. 3	R1.10.19	R2. 3.14	R1.11.29	R1.12. 4	R1.10.22	R1.11.30-12.1	R2.5月
参加者数	34人	61人	27人	8人	7人	7人	187人	75人	50人
実施場所	京都市	南丹市	京都市	和東町	南丹市		京丹波町	京都市	府内全域

大阪府緑の少年団連盟交流集会（A-89）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大阪府内の緑の少年団の団員および指導者の交流、また日常の活動の研鑽や意欲の向上を目指して開催した。

開催地 奈良県山添村生涯学習施設「東豊館」（大阪府羽曳野市契約施設）参加団 府内4団

実施日 2019（令和元）年8月24日（土）・25日（日）

24日（土）AM 伊賀上野城視察・冒険の森アスレチック体験、PM プール、入村式、
ランタンづくり、夕食づくり、キャンプファイヤー、花火

25日（日）開会式、仲間づくりゲーム、ネイチャークラフト、昼食（流しそうめん）、
活動発表会・功労者表彰式、夏の班対抗ゲーム、記念撮影

2. 活動の成果

子どもたちに自然体験や環境について学びの機会を提供するため、年に1度、府内各団が集まる機会を持っている。今年度は1泊2日で開催し、1日目には夕食づくりやキャンプファイヤーを行った。2日目には午前中はネイチャークラフトをつくり、昼食には流しそうめんを行った。午後からは各団による活動発表会や功労者表彰を行い、各団の団員、指導者間の交流を図ることが出来た。

また、団を超えた班対抗交流ゲームを行い、団員たちにも緑が多く自然豊かな場所で思いっきり体を動かし、新しい出会いもあり新鮮な機会だった様子である。指導者には指導者同士の交流を図り、安全管理の再確認などを行う機会にもなった。

3. 参加者の声

- ・アスレチックは怖くてドキドキしたが、楽しかった。
- ・自然の中で思いっきり動きまわって嬉しかった。
- ・仲間づくりゲームが楽しかった。
- ・流しそうめんと一緒に食べた果物が美味しかった。
- ・他の団の子と話ができて嬉しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月24日・25日	同左	計
事業量	緑の少年団連盟 交流集会	同左	
参加者数	団員 51人	指導者 37人	88人
実施場所	奈良県山添村東豊館（羽曳野市提携施設）		

自然環境保全ボランティア養成講座「森人塾」(A-90)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 7/6 ゼフィルスの保護から生物多様性の保全へ（池田商工会議所）
講師 石井実 参加者4名
- 7/13 三草山の植生と植生管理の必要性（三草山ゼフィルスの森）講師 藤原宣夫
参加者4名
- 7/13 森の中の安全講習（三草山ゼフィルスの森）講師 八里良一 参加者4名
- 8/17 地黄湿地の植物たち（地黄湿地）講師 澤島拓夫 参加者4名
- 8/17 湿地群の成り立ちと地黄湿地の再生（池田商工会議所）講師 服部保
参加者5名
- 9/7 地黄湿地秋の水生昆虫たち、保全活動体験（地黄湿地）講師 平井規夫
参加者4名
- 9/7 能勢町と地黄の歴史（地黄公会堂）講師 嶋田哲夫 参加者4名
- 10/5 修了式（ATCグリーンエコプラザ）参加者4名

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。

2名が当協会傘下のボランティア「みどりすと」として、今回フィールド実習で訪れた現場の保全活動に取り組みされている。

3. 参加者の声

- ・遷移と攪乱の説明で、里山管理活動の意味が分かった。「乾田」など現代農業の欠点。氷河時代の生物（温帯系の生物）が里山林のおかげで生き残った。これが北と南から攻められて（植生）、放っておくと失われてしまうということが印象に残った。
- ・周辺の森の状況や、具体的に樹木の見分け方について理解が深まった。自然の倒木やナラ枯れの被害、対策も観察できた（シカの被害も）。
- ・雨が降りましたが、森の中はステキでした。「感じる事は知っていることの何倍も大事」ということは大切にしている言葉のひとつでしたが、数字でわかる事、知っている事で見えてくる事、伝わる事はあるというふうに思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～11月	計
事業量	座学3回、フィールド実習3回、 安全講習1回、修了式1回	
参加者数	のべ33人	
実施場所	大阪府大阪市、池田市、豊能郡能勢町 ほか	

府民参加の森林づくりのための普及啓発（A-91）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、シンポジウムやイベントを開催した。

- ①.地黄湿地サギソウ観察会（7月28日 参加者20名）
- ②.タガメの田づくり 稲刈り（9月29日 参加者10名）
- ③.和泉葛城山ブナ林ハイキング（11月23日 参加者51名）
- ④.タガメの田づくり 冬支度（12月1日 参加者16名）
- ⑤.「再発見！大阪の生物多様性ホットスポット 能勢の里山の魅力を語ろう、つなごう」シンポジウム（12月8日 87名参加）

各イベントを開催するため、年間を通じてボランティア保険に加盟するとともに、保全活動や動植物調査を行った。イベント告知には会報誌「みどりのトラスト」を活用した。

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。今後も引き続き様々な手段を講じ、理解者を増やす。

3. 参加者の声

- ①. ゆっくり説明を聞き、質問も出来た。この雰囲気が良い。
 - ・サギソウが美しく、湿地で咲いていて感動です。
- ②. 手鎌を使うことに慣れておらず、初めて触ったときは手を切りそうで怖かった。
- ③. 充実した説明は、有料でも良い。
 - ・天気も良く、説明も楽しく学習できた。
- ④. お餅つきが楽しかった。
- ⑤. 能勢高校の発表が良かった。全体的に堅苦しくなく、聞きやすくて楽しかった。
 - ・参加してみたい保全活動がたくさんあり、体が3つぐらいほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計
事業量	普及啓発やイベント	
参加者数	のべ184人	184人
実施場所	大阪府大阪市、岸和田市、貝塚市、豊能郡能勢町 ほか	

森林ESDの推進（B-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

教育関係者が森林ESDを認知し、関心を持ち、実践するための情報提供を行うとともに、森林ESDに関する意識・ニーズを把握するため、①教員向けアンケート調査の実施、②情報提供のシンポジウムの開催を行った。

2. 活動の成果

- ①教員向けアンケート調査（令和元年7月～9月実施）
調査結果より、次のような取り組みの重要性を再認識した。
 - ・SDGsやその推進に向けた森林環境教育・森林ESDの意義の周知
 - ・学校の教員と専門家を結び付ける場づくりや、情報提供・相談体制の整備
 - ・森林ESDの有効性が見える化、データ化手法の研究
 - ・教員の負担を軽減するプログラム開発やモデルカリキュラムの試行
 今後は教員向け研修や教員免許状更新講習を実施する際にも、今回の調査結果や関係者のニーズ把握を行いながら進めていく。アンケート調査結果は会報誌で紹介するとともに、令和2年2月に開催された『「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進全国セミナーin大阪』でも発表した。

- ②情報提供のシンポジウム「大阪の森林ESDについて考える会」（令和元年7月2日開催）
自然環境保全活動や森林保全活動に関わり、森林環境教育に関心のある方に集まっていたいただき、森林ESDの推進に向けた取り組みの方向性を共有し、ネットワークづくりを進める場として活用できた。

3. 参加者の声

- ①森林ESDを実践したいができない理由（自由記述より）
 - ・田舎の山があるが、遠いのでなかなか行けない
 - ・森林ESD自体を良く知らない
- ②. 単発の環境学習で終わってしまい継続性がない
 - ・与えられている時間が短く十分な授業ができない
 - ・小～中学生はスケジュールが過密で、先生が現地に来て現場を見るべきであるが、受け入れ側に魅力があるかが課題

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～9月	7月	通年	計
事業量	アンケート調査	シンポジウム		
参加者数	回収数 531人	39人	人	延べ 570人
実施場所	大阪府内			

地域緑化イベント開催事業（A-92）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑あふれる県土づくりと森林の持つ役割・重要性を広く県民に周知するため、森林の良さを肌で感じることができる森づくりの機会を提供するとともに、都市と農山村の交流を通じて森林や木材に対する認識を深めることを目的とするイベントを開催した。

(1) ささやまの森公園「秋の里山まつり」の開催

木工クラフト・草木染め・竹細工・間伐材活用スウェーデントーチ体験、森の食体験の各ブースを設置、森の音楽会（地元高校吹奏楽部ほか）を実施

(2) 第34回「ひょうご木材フェア」の開催

木材利用による森林の循環生産サイクルの理解と、人と地球環境に優しい木材を見る、触れるなどの体験を通じて、木材の良さを理解してもらい、県産木材の利用を一層推進することを目的に、木の良さの普及、住宅内装材・木製家具の展示、ミニ住宅の棟上げの体験、木製遊具の体験、親子が楽しむ木工教室などを実施。

2. 活動の成果

森林や木材に対する理解を深めるイベントを開催することで、緑あふれる県土づくりを進める契機とすることができた。

(1) ささやまの森公園「秋の里山まつり」

イベントに参加した人々が、体験活動を通じて森林の潜在的可能性を含め里山文化のすばらしさについて学ぶ機会となった。

また、間伐材利用のスウェーデントーチは予想以上の反応があり、森や樹への関心を高める良い機会となった。

(2) 第34回「ひょうご木材フェア」

親子が楽しむ木工教室は、好評で順番待ち状態で木とのふれあう効果が実感させられた。また、ミニ住宅の棟上げ、松玉プール体験、木メダルづくり等も人気があり、子ども達が直接、木に親しむイベントとして有効であった。この木材フェアにはリピーターも多くあり、国の国産材率50%という目標達成には、木材の利用をさらにPRする必要があることから引き続き開催する予定である。

3. 参加者の声

(1) ささやまの森公園「秋の里山まつり」

- ・高校生たちの参加は活気があって楽しく感じられた。

- ・天候に恵まれ里山でゆっくり過ごすことができた。

(2) 第34回「ひょうご木材フェア」

- ・木材として使うには山での間伐などの作業が必要なこと、大きくなれば木造住宅や家具に使っていけば、資源として循環していくことが解った。

- ・木工は自分の好きなものを作ることができて楽しい。

- ・住宅組立体験、木玉あそびや木メダルづくり等のワークショップは楽しかった。毎年楽しいものを作ってほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月27日	11月10日	計
事業量	ささやまの森公園「秋の里山まつり」	第34回「ひょうご木材フェア」	
参加者数	650人	約40,000人	40,650人
実施場所	丹波篠山市	神戸市	

森林整備・緑化活動支援事業（C-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

兵庫県が進める「県民総参加の森づくり」の実現を図るため、次代を担う持つ緑の少年団の活動を支援をした。

(1) 活動発表会の開催

各地域代表の緑の少年団による活動発表会、森林レクリエーション活動体験を実施した。

(2) 緑の少年団のつどいの開催

「ひょうご森のまつり2019」に合わせ開催し、ひょうご森のインストラクターによる里山林整備体験、緑の募金活動を実施した。

(3) 緑の少年団地域活動の支援（地域交流集会及び各少年団活動の支援）

兵庫県内の地区連絡協議会に地区活動費及び少年団活動費を助成した。

2. 活動の成果

活動発表会を実施することで、日頃の活動成果を発表しあって情報交換を行い、交流を深め合い仲間づくりを進めることができた。

緑の少年団のつどいを、全県イベント「ひょうご森のまつり2019」で実施することで、少年団の活動を広く県民へ知らせることができた。里山林整備体験の活動では、知識・経験不足等で森林体験がしづらかった少年団において、森林活動を行うことができた。

緑の少年団の活動促進により、次代を担う子どもたちが森林を守り育てることの大切さを認識することができた。

3. 参加者の声

- ・各団の地域特性を活かした活動内容がよくわかった。

- ・地域と協働する取組みの事例を知ることができた。

- ・具体的な整備等は、なかなか体験できないことを実際に子どもたちが体験することで、森林が人の手入れによって守られていることへの理解が深まった。

- ・指導者の確保が難しい地域では、初めての子どもにとっても経験のある子どもにとっても、非常に効果のある体験となった。

- ・森の中での自然体験は、子どもたちの表情も良く、自分たちだけでは取り組むことができない貴重なものとなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月28日	11月9日	7月～2月	計
事業量	活動発表会	緑の少年団のつどい	各地区での活動	
参加者数	130人	50人	15,610人	15,790人
実施場所	宝塚市	西宮市	県内各地	

森の文化活動事業（A-93）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑の役割、働きを都市と山村の交流や森林・緑とのふれあいイベントを通じて、緑化意識の高揚や理解、認識を深めてもらう。

「奈良県山の日・川の日」に開催された「森林体験山もり・てんこ森」イベントに参加し、花苗500本を配布し、緑化啓発活動をした。

「大和路花と緑のフェスティバル」実行委員会のオブザーバーとして、企画運営に関わったほか、「大和路プチガーデニングコンテスト」「大和路フラワーデザインコンテスト」で理事長賞を授与した。フェスティバルでは、パネル展示や緑化作品コンクール入賞作品の展示を行った。

「奈良技能フェスティバル」ではブースを出展し、緑化パネルを展示してクイズ形式で啓発活動をし、球根を配布した。

また、昭和の日には県営公園で緑化苗500本の配布と緑化作品コンクール入賞者の表彰を、ゴールデンウィーク期間中には緑化啓発PR展としてポスター等の掲示を、同じくゴールデンウィーク期間中には、うだアニマルパークで緑化苗1000本の配布を予定していたが、新型コロナウイルス拡散防止のため、中止を余儀なくされた。

その他、年間を通じて、「花いっぱい推進運動」の一環として、花苗のプランターの設置を推進し、街の景観保全につとめた。

2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。

3. 参加者の声

- ・森林の役割や現状がクイズ形式でわかりやすく理解できた。もらった球根を植えて、花を大切に育てます。
- ・きれいな花をいただけで嬉しい。枯らさないよう手入れをします。庭木の手入れの仕方を教えてもらえたらやってみたいです。
- ・木の特性や機能がわかり、興味がわいた。
- ・森林の機能やあり方など、現在の環境について、もっと勉強したいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	4月～5月	計
事業量	普及啓発 展示、花の種、資料配布	普及啓発 花苗配布、展示、表彰等	
参加者数	2,500人	0人	2,500人
実施場所	奈良県奈良市、橿原市		

ボランティア緑化活動事業（C-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、活動充実のための物資等支援等を行った。その他、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行い、指導した。

また、当協会と連携して事業を行うボランティア団体の会報づくりに協力した。

2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。

また、安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。

今後も引き続き、地域に密着した活動を支援していきたい。

3. 参加者の声

- ・個々のボランティア団体の事務的支援をお願いする。
- ・国土緑化推進機構等の助成事業など、情報提供をお願いする。
- ・各ボランティアが長く活動を続けられるよう、これからも事務的援助をお願いしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	計
事業量	イベント紹介、事業紹介、参加促進	
参加者数	300人	300人
実施場所	奈良県全域	

青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業（A-94）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進する。

今年度の主な活動としては、県内各地のみどりの少年団代表が集まり、共に活動しながら情報交換・交流を深める交流集会を実施し、和歌山市において、和歌山市立青少年国際交流センターと周辺の森林を利用し、森林の役割や林業の重要性について学習会を行った。

2. 活動の成果

- ・みどりの少年団交流集会の開催により、青少年に対して、森林・林業に関する普及啓発活動、木材の重要性及び都市地域の小学生と山村地域の小学生の交流・情報交換が行えた。

3. 参加者の声

- ・みどりの少年団交流集会に参加の子ども達からは、山を歩きながら色々と話しが聞けて勉強になった。交流集会では名刺交換して新しい友達が出来た等の声があった。また、参加団体の引率者からは、このような企画は子ども達にとって重要であり、是非、続けて欲しいなどの意見があり好評だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年8月7日(水)	令和元年8月8日(木)	備考
事業量	・和歌山市立青少年国際交流センター周辺森林の散策及び学習会を実施 ・同センターにおいて、各みどりの少年団の活動実績をポスターやプロジェクター等を用いて発表 ・親交を深めるため名刺交換会を実施	・周辺森林を活用したネイチャーゲームの実施 ・工作体験として、フォトスタンドを作製	
参加者数	99人		
実施場所	和歌山市青少年国際交流センター (和歌山市加太)		

森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業（C-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、このまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体の連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林監察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指した。

2. 活動の成果

年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来た。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えている。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促す。

3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の先生の話しが聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、身をもって学べた」等の意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年7月～令和2年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）		
事業内容	1. 座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処・和歌山県の自然植生について・様々な樹木の生育特性と自然配植技術・和歌山県の特用林産物・日本の林業と和歌山県の林業 2. 実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・人工林整備（チェーンソーの使い方と人工林間伐作業）・苗木の植栽・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・里山整備（竹炭窯出し）・照葉樹林の森林観察・ブナ林の観察・紀州備長炭生産と原木林観察		
参加者数	延べ390人		
実施場所	座学：和歌山市中央コミュニティセンター 実習：和歌山県紀美野町・岩出市・日高川町・田辺市・みなべ町・すさみ町		

樹名板設置事業（A-95）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する団体等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

2. 活動の成果

公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

3. 参加者の声

- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。
- ・公園や公的施設、登山ルートに設置したことで、利用者に高評価をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	月 日	計
事業量			
参加者数	人	人	人
実施場所	鳥取県内10市町村17箇所380枚		

木工工作キット配布事業（A-96）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図る。

2. 活動の成果

鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや組立ての難しさ等感じる事ができた。

3. 参加者の声

- ・本棚を作るときに木について、木の面が縦と横では切りにくさがあり、よく削れるところやあまり削れないところがありました。
- ・木の目にそって紙やすりでこすった後、さわってみるとつるつるでした。反対にそわないでこするとざらざらだったのでびっくりしました。
- ・かなづちでくぎを打つところが難しかったけど楽しかったです。本立てなど作ったことがなかったので、うまく本立てが作れてよかったです。
- ・友達と協力して釘打ちをすることができたので楽しかった。
- ・金づちなどあまり使ったことがなかったので、作ることが楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	月 日	計
事業量			688組
参加者数	人	人	人
実施場所	鳥取県内20小・中学校		

青少年・民間活動グループ育成事業（C-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の良さを多くの子ども達に知ってもらう活動を通じ、森林整備の重要性を認識してもらうことを目的とする。

2. 活動の成果

民間の任意団体等が自主的な緑化活動等を実施することにより、森林や環境への認識の度合いがより強くなり、また中核となる森林ボランティア育成にも繋がり、周りへの影響力も大きなものとなった。

木材の良さを子ども達に体験してもらい、木材需要・森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・かなづちがうまくつかえなかったけど、すこしづづつかえるようになっていました。
- ・くぎうちがむずかしかった。
- ・くみたてがむずかしかった。
- ・くぎをうつときにくぎがまがってむずかしたっかです。だけど、かん成した収納たなを見ると上手につくれたと思いました。
- ・思っていたよりしっかりした物が出来満足です。
- ・毎年「次は何を作ろうか」と楽しみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月27日	8月4日	計
事業内容	木工教室の開催 引き出し付き飾り棚	親子木工教室の開催 A. 違い棚 B. 組み箱 C. 小イス	
参加者数	15組	17人	
実施場所	鳥取県 大山町	鳥取県 大山町	

森林空間活用推進事業（C-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

放置された里山や耕作放棄によりヤブ化した集落周辺の遊休地を花が咲き実や紅葉が楽しめる明るく美しい里山公園的な空間に変えていくことを目的とする。

これにより「和紙の里」でもある当集落周辺風景の改善による魅力ある地域空間づくりを進め、住民の定住化と地域外からの来訪や交流促進を図る。

2. 活動の成果

放置された里山や原野等を、集落住民の参加・協力による継続的な手入れを進める契機となる。

「和紙の里」でもある集落周辺の環境・景観を改善することによって、地域の魅力が高まるとともに、地域外からの来訪者の増加や交流促進を図ることができる。

集落・農地周辺のヤブを減らして、明るく見通しの良い環境に変えることにより、イノシシが出没し獣害が多発する現状を改善できる。

3. 参加者の声

- ・あと数年して花が咲いたら、ここで花見をしたい。
- ・ヤブがなくなって、集落全域や日置の谷が一望できる。見晴らしがとても良い場所になって楽しみだ。
- ・この回りのヤブの灌木・枯れ枝なども伐採・枝払いして、見通し良い里山（空間）にした方がよい。
- ・継続が大切。参加者の多少にかかわらず、毎月1回は活動の情報提供を行い、集まって取り組もう。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月8日（日）	10月6日（日）	11月3日（日）	備考
事業内容	花木等の植栽場所の刈払い（地拵え）	花木等の植栽予定地の刈払い（2回目 地拵え）	植栽	
参加者数	15人	13人	17人	
実施場所	鳥取市青谷町山根地内（東側の里山）			

「森の誕生日」2020事業（A-97）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

全国植樹祭の開催に向け、開催地の大田市民会館で行われた200日前イベント「大田市林業祭」において、広く県民に「森林保全の大切さ」や「森林の持つ多面的機能」の普及啓発を行い、合わせて「緑の募金」を呼びかけた。

主な内容は以下の5項目

(1)「展示コーナー」

「緑の少年団」の活動をパネル等で紹介するとともに、山の仕事等について紹介した。

(2)「緑化苗木配付・緑の募金コーナー」

緑化苗木（キンモクセイ、ドウダン等）の無料配付により緑化運動の啓発を行うとともに、緑の募金への協力を呼び掛けた。

(3)「山ではたらくるま展示・実演コーナー」

高性能林業機械の紹介と体験実演を行った。

(4)「キッズお楽しみコーナー」

子供向けの森林、木材に関わるクイズやゲームを行い、子供たちへの啓発を行った。

(5)「体験・販売コーナー」

木工クラフト体験や木製プランターカバーへの絵付け体験を行い、参加者への木に対する親しみを醸成した。

2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受付での参加者住所の記帳や体温の測定、各コーナーでの手指消毒等の予防策を徹底し、約500名の参加者により実施することができた。

- ・実施内容としては、体験活動を取り入れた森林・林業のPR、パネル等を活用したわかりやすい展示を行い、県民への緑の少年団活動の紹介や森や木と接する機会の提供ができた。
- ・緑化苗木の無料配付は好評であり、「緑の募金」も多数の来場者の協力が得られた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和3年に延期された全国植樹祭の開催に向け、開催地でのPRができた。

3. 参加者の声

当日は雨模様だったにも関わらず、家族連れなど約500人の県民に会場いただいた。体験コーナーや苗木配付コーナーには行列もでき、好評であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月7日	計
事業量		
参加者数	523人	523人
実施場所	大田市大田町大田128 大田市民会館	

緑の少年団育成強化事業（C-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親善と交流活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会・森林林業体験活動等を通じ森林環境教育を推進し、「森林づくり」の大切さを理解させる。

2. 活動の成果

- 指導者講習会では、「出前講座を通じた森林環境教育の進め方」と題し、県内緑の少年団や、結団勧誘のために未結団校で出前講座を実際に行っていたいただいたNPO3団体の代表に、子どもたちへの出前講座の有効性や森林環境教育の大切さについてお話いただいた。
- 県活動発表大会では、緑あふれる自然の中での学習、活動発表や共同生活を通じて知識を深めるとともに、互いに親睦を深めることができた。熱中症対策として、スポーツドリンク・塩あめの配布を行ったところ、先生や団員にも好評だった。発表大会には見学者も含め約60名参加し、県内緑の少年団の多様な活動を知る事ができ、今後の活動につながる良い刺激となった。

3. 参加者の声

●指導者講習会

- ・出前講座の取組みを実際に活動されている方から聞くことができ、教科の補完・発展に活かせると思った。
- ・出前講座を受けたことがあったが、学校でももっと事前学習をしてから出前講座を受けると、より効果的な活動になると考えた。
- ・出前講座を受けたことがなかったが、どういったものかイメージができて良かった。

●活動発表大会・交流集会

(生徒・児童)

- ・他の少年団の発表を聞いて、色々な自然を守る活動をしている事が分かった。
- ・自分たちが取り組んでいることを知ってもらえて良かった。
- ・発表を聞いて、絶滅危惧種の保護活動など、参考にしていきたい。
- ・ネイチャーゲームでは、自然の音などを感じることができた。
- ・木工教室では、ふくろうのストラップを作ったけど、木を再利用していて良いと思ったし、楽しかった。

(教員)

- ・他校の取組みがよく分かり、とても参考になった。
- ・小さな学校なので、普段生徒たちもリーダー体験をする機会が少なく、色々な学校・異学年の子どもたちが交流する中で、そういう経験ができたことがとても良かった。
- ・各地域の特徴を理解し、学校教育に取り組むことが求められている事が分かって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月27日	7月31日～8月1日	計	備考
事業量	島根県緑の少年団連盟 総会・指導者講習会	島根県緑の少年団 活動発表大会・交流集会		(通年) 冊子・募金箱等配布
参加者数	26人	63人	89人	少年団122団
実施場所	島根県 出雲市	島根県 江津市		県内

第20回森林を考える岡山県民のつどい（A-98）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図るため、基調講演会、県民参加の森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、木工製品・地域特産品等の展示販売を行い、広く県民に森林の保全や美しい森づくりの推進と森林・緑・水に対する認識を深めてもらう場を提供する。

2. 活動の成果

基調講演会では、元高知県知事 橋本大二郎 氏をお招きして「森林（もり）は生きている」と題し、森林が持つ役割、林業の持つ一次産業の側面と二次産業の側面、また高知県知事時代の経験から感じる木材使用の壁について、お話いただいた。

ご参加いただいた県民の皆様には森林・林業を考えていただけるきっかけとなった。

また、各種木工教室や苗木の無料配布などによって、多くの方に木に親しみ、木の魅力を知ってもらうことができた。

今後も、参加される方々に地域産材の利用を紹介・推進し、県産材利用の向上につながるような取り組みを行っていきたい。

3. 参加者の声

- ・元県知事の立場ならではのお話でとてもわかりやすかった。
- ・森林について考えさせられた。
- ・毎年興味をもって参加している。今後も継続して実行してほしい。
- ・森林に対して好奇心がわいてきました。
- ・林業に関わりある者ではないが橋本先生のお話を聞き、見識が広がった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月26日	計
事業量	1日	1日
参加者数	約2,500人	約2,500人
実施場所	岡山県津山市大田920番地 グリーンヒルズ津山	

県産木材フェア開催事業（A-99）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

おかやまコープ開催の「コープフェスタ2019」の一角にブースを借り上げ、木材のぬくもりや木造住宅の快適性、安全性を広く一般県民に認識してもらうとともに、県産木材の利用拡大を図るため、児童、生徒を対象とした木育及び木材・木製品の展示・販売や親子木工教室を実施し、直接木材に触れる体験コーナーを実施した。

2. 活動の成果

当日は、天候にも恵まれ、フェスタ全体の入場者数が約20,000人となり、多くの参加者に木材、木造住宅の良さをPRするとともに、理解も得られ、今後の木材利用の拡大が期待できる。

また、木材に触れたいと多くの子供が参加した木工教室では、50組86人が便利棚づくりに挑戦するなど木育の目的を達成することができた。

3. 参加者の声

親子がいっしょに汗を流し、初めて使うノコギリやカナヅチで作品を完成させることができ、木のぬくもりを直接感じられたことも含めて非常に有意義な1日であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月28日	備考
事業量	1日	
参加者数	入場者（全体）約 20,000人 ・木工教室50組86人	
実施場所	岡山県岡山市北区大内田675 コンベックス岡山 中展示場	

もりもりクラブ普及活動事業（A-100）

基金事業の概要

1. 活動の概要

森林をフィールドに次世代を担う子ども達に五感を使って『もり』を体感してもらい、森林・林業・木材利用に対する興味や関心を持ってもらうことを目的としている。

森林を考えるつどいでは間伐事業のパネルまた公社のPRパネルの展示を行った。またポックリ・スウェーデントーチ・丸太椅子・コースターの木製クラフト販売とえんぴつ作りを行った。

2. 活動の成果

ヒノキの木工クラフトの丸太椅子・コースター、えんぴつといった普段から身近に使用できるものを提供することで今まで以上に森や木などに対する興味・関心が高めることができた。

今後も同様に木工クラフトを行い、今年度はコロナの影響で実施できなかったが間伐、丸太切り体験などの体験型事業も行っていく。

3. 参加者の声

- ・ポックリがよくできている。子どもも喜んで遊べそう。(成人女性)
- ・木にとって栄養のような光が届かなかったら、木は大きくなれない。間伐がなぜ必要なのかわかった。(小5・男)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年10月26日	備考
事業量	木工クラフト えんぴつ作り体験 パネル展示	
参加者数	約30人	
実施場所	・岡山県津山市大田 グリーンヒルズ津山	

第35回くらしき都市緑化フェア（A-101）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性について、知ってもらう必要があり、講演会、森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

2. 活動の成果

森づくりと緑の募金の紹介では、二酸化炭素の吸収や保水性などの森林の機能や木の魅力について、多くの人にPRした。また、苗木600本を無料で配布することによって、多くの方が木に親しみ、その魅力を知ってもらうことができた。さらに、次世代を担う子どもに木に関心をもってもらうために、岡山県産のヒノキを使って、ちびっこ木工教室を開催したり、木材を使用したカプラにより木の良さを体感してもらった。また、庭木の剪定教室を開催し、民地の緑化推進を図るとともに、樹木に関する展示を行い、緑化の普及啓発に努めた。

今後は、参加する人々によりいっそう身近な緑の重要性を説き、県産木材をより身近に感じてもらえるような取組みを行っていきたい。

3. 参加者の声

- ・ブルーベリー苗木を3年連続でいただき、今年は、実を収穫することができました。この緑化フェアが契機となり、ガーデニングに興味を持つことができ、シンボルツリーにアオダモも植えました。
- ・ちびっこ木工教室では、ドングリや間伐材を活用し、可愛いお家を作ることができました。日頃、プラスチックやビニール素材の玩具で遊んでいるので、木材の手触りや匂いに癒されました。子供の遊び道具はなるべく天然素材を意識していますが、値段が高いのでなかなか買うことができないので、公園や山で、ドングリやマツポックリ等の材料を集め、子供と一緒に工作をしようと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日	計
事業量	1日	1日
参加者数	1,797人	1,797人
実施場所	岡山県倉敷市福田町古新田940番地 ライフパーク倉敷	

緑化普及推進事業（C-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、自然の中で共同生活と学習活動を通じて、緑の持つ重要性や必要性を学んでもらうとともに少年隊相互の交流を図ることを目的に、県内各地のみどりの少年隊が、1泊2日で吉備中央町吉川の国立吉備青少年自然の家に宿泊し、樹木観察、焼き板の木工作に挑戦した。

「みどりの大会」は、広く県民に森林や水に対する認識を深めてもらうことを目的に、吉備中央町吉川の吉備高原都市センター区のきびプラザで開催し、緑化ポスターコンクールの表彰や記念植樹、木の葉や枝を使った工作などの野外体験活動を行った。

なお、「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6月開催を延期とした。

「岡山の巨樹老樹名木」の編集・現地調査は、書籍の作成に向けた現地調査、写真撮影、原稿の作成を行った。

また、緑化月間には山陽新聞社の協力を得て、緑化募金や緑化事業、各種緑化イベントのPRを紙面に大きく掲載した。

2. 活動の成果

みどりの少年隊交流集会では森林内の宿泊研修施設で共同生活と体験学習活動を通じて少年隊員たちの交流や緑の大切さについて認識を深めることができた。

みどりの大会は、町とRSK山陽放送が主催するフェスタ、ラジオまつりと共催することで、県下各地から多くの参加者があり、広く緑化運動をPRできた。

岡山の巨樹老樹名木では、書籍の発行に向けた現地調査、写真撮影、原稿作成を行った。

少年隊の研修等については、これからも内容等を充実させて、多くの子供たちや指導者が参加できる企画に取り組みたい。

3. 参加者の声

交流集会での子供たちの感想文には、「木の種類がたくさん分かった。」「新しい友達ができ、仲良くなれた。」「焼き板づくりが面白かった。」など1泊2日の集団生活や自然学習、友達と交流の様子が生き生きと書かれていた。

「岡山の巨樹老樹名木」の改定は約40年ぶり、出版に向けて大きな期待が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

行 事 名	みどりの少年隊 交流集会	みどりの少年隊 指導者研修会	みどりの大会	「岡山の巨樹老樹名木」 編集・調査
実 施 時 期	R1.8.23~24		R1.10.6	R1.7 ~ R2.5
事 業 量	1泊2日	6月開催延期	1日	1年間
参 加 者 数	106人		約200人	
実 施 場 所	吉備中央町吉川		吉備中央町吉川	県内各地

「みどりの集い」開催事業（A-102）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②まき割り・植樹体験、③親子木工教室、④たね団子を作ろう、⑤ノルディック・ウォーク、⑦空からオオモミジを見よう、⑧森の安全作業を学ぼうを開催し多くの家族連れで賑わった。

また、販売ブースにおいては、①朝取り野菜と地元加工品、②草花販売等を開催し、好評を博した。

展示コーナーにおいては、広島県、広島市、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

感染防止対策として、入口での検温、消毒、連絡先の届出、マスクの着用をお願いし、各ブースに消毒液、飛沫防止シールドを設置。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

初めての秋開催となったが、好天に恵まれ、紅葉も重なり、約3000人の県民の方々に参加していただいた。本年度で第24回の開催となり、多くの県民が家族連れで楽しむイベントとなっている。

3. 参加者の声

親子木工教室等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。作品が家庭に持ち帰り、使えることがメリットであると喜ばれた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取組み、今後も継続を求める声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月8日	計
事業量	10:00 開会式 各種行事を実施 15:00 閉会式	
参加者数	3,000人	3,000人
実施場所	広島県 広島市 東区 福田町 ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」	

（第39回）緑の少年団交流集会開催事業（C-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団が一堂に会する交流集会を開催し、野外活動を通じて相互の交流と親睦を図るとともに、自然に親しみながら、心身を鍛錬し、自律・友愛・協同・奉仕の心を養うことを目的とする。

広島県廿日市市吉和の「県立もみのき森林公園」において、令和元年7月25日（木）～7月26日（金）に、県内の緑の少年団4団・団員49名が一同に会して、キャンプ・班旗作り・野外学習（アスレチック、林業体験）・キャンプファイヤー・夕食の炊事等を行った。

2. 活動の成果

好天に恵まれ、大きく体調を崩す団員はなく、無事に交流集会を完了した。予定より少ない参加団数であったが、班員どうしにおいても、参加者どうしにおいても、密な親睦が図られた。

森林内での学習活動、キャンプなどのレクリエーション活動を通じて、自然を愛し、仲間を愛するなど心豊かな人間を培うことに寄与できた。

3. 参加者の声

班毎に参加者が一体となって行事に取り組んだことで、全員が役割を担うことを体験し、例年にも増して一体感が養われた。程よい行事日程のため、無理なく楽しめた。釜戸の火を付けるのが難しかった。助け合いながら自分たちで作ったご飯は、おいしかった。アスレチック、キャンプファイヤーが良かった。満天の星空が美しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月25日	7月26日	計	備考
事業量	オリエンテーション 名札・班旗作り アイスブレイク テント設営 夕食作り キャンプファイヤー	朝の体操 アスレチック 林業体験 後片付け お別れ会		
参加者数	91人	91人	91人	少年団員49人 指導者等42人
実施場所	広島県 廿日市市 吉和 1593-75 「県立もみのき森林公園」			

都市と山村ふれあい交流促進事業（A-103）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができ楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月25日～3月15日		計
作業内容	6林業研究グループが6箇所で開催した森林林業体験等を実施		
参加者数	県内	353人	人
	県外	人	人
	計	353人	人
実施場所	山口県 柳井市、光市、山口市、山陽小野田市、長門市 阿武町		

森林体験学習支援事業（C-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配布し、森林環境教育・森林ESDの促進を図る。

2. 活動の成果

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校34校の児童生徒及び指導者等1,059人に「緑の手帳」を配布し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解を深まり森林環境教育・森林ESDの促進を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・児童達は緑の手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日～2月27日		計
作業内容	34小中学校で森林体験学習を実施 学習教材を配布		
参加者数	県内	1,059人	人
	県外	人	人
	計	1,059人	人
実施場所	山口県 岩国市、柳井市、下松市、光市、周南市、山口市 宇部市、山陽小野田市、下関市、長門市、萩市 和木町、周防大島町、阿武町		

記念の森造成事業（C-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

2. 活動の成果

県内の5箇所において、子どもを含めた地域住民約107名が参加し、記念植樹や植樹イベント等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月15日		計
作業内容	県内3箇所での記念の森を造成、植樹、森林整備等実施		
参加者数	県内	107人	人
	県外	人	人
	計	107人	人
実施場所	山口県 山口市、宇部市、萩市		

企業の森づくり普及啓発イベント事業（C-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

高い環境意識を持って地球温暖化防止やSDGsに取り組む企業・団体から「緑の募金」を寄附していただき、森林整備を実施している。支援いただいた企業・団体の皆様やその家族に植樹・間伐体験のイベントに参加していただき、森林整備の重要性などを理解していただき、今後につながる活動となることを目的とする。

2. 活動の成果

今回は県東部2カ所での開催となり、参加者が減少するかと心配していたが、大勢集まり払拭された。これにより、この活動が定着し森林整備の重要性・森林保全への意識が高まっていると感じられた。森林教室は子供にもわかりやすい内容であり良かったと参加者から評価をいただいた。今後もこの活動を通じてさらに森林整備の重要性等を浸透させていかなければならないと実感した。

3. 参加者の声

- ・山歩きに自信がなかったが、スタッフの助けもあり植樹することができ貴重な経験をさせてもらった。参加して良かったです。(50代女性)
- ・木製時計は木の香りがしていい匂いだった。木の昆虫を貼り付けて格好良く出来た。大切に使いたい。(小学生)
- ・初めて木を伐った。倒れるときの音がすごく耳に残っている。こんな経験はなかなか出来ないなので、また参加したいです。(男性30代)
- ・森林教室で、木を育てるには間伐が必要だということを知った。のこぎりで木を切るのはすごく時間がかかった。友達に教えたい。(小学生)

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月1日	11月16日	計
事業量 又は 事業内容		植栽 0.70ha スギ 1400本	間伐 0.46ha	植栽 0.70ha スギ 1400本 間伐 0.46ha
参加者数	県内	151人	98人	249人
	県外	3人	10人	13人
	計	154人	108人	262人
実施場所		徳島県 上勝町 ・ 徳島県 神山町		

緑化普及活動事業（A-104）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（目的）

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

（内容）

- ①どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ②香川県の水源である早明浦ダムの上流にある高知県大川村での「交流の森づくり下草刈りツアー」を実施し、水源地における森林の大切さの普及啓発に努めた。
- ③2019ウッドフェスティバル会場において、森林ボランティア活動の屋外テントを出店した。

2. 活動の成果

多くの県民の参加を得て、県民の森づくりへの理解と関心を深めることができた。今後とも、県民参加の緑づくりを推進するため、県民にみどりづくりの普及啓発を行うほか、森づくりや森に親しむ体験の場を提供して行きたい。

3. 参加者の声

- ①（どんぐり預金、苗木の払い戻し）
「自分の記念植樹として、早く大きくなるように大切に育てたい。」
- ②（ウッドフェスティバル）
「森林の働きや緑の大切さ、植林の重要さがよく分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月13日	年間	計
事業量（内容）	2019ウッドフェスティバル	どんぐり銀行活動	
参加者数	4,500人	2,368人	
実施場所	香川県内一円		

木工作品製作キット配布事業（A-105）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

木材の利活用を促進するため、次代を担う小中学生を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製した本立てのキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

2. 活動の成果

県産材ということで、木が身近に感じられ、木材になるまでの過程や林業に携わっている人々の思いや苦勞を想像し、実感してもらうことができた。

森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、自分たちができることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・県産の材木ということで愛着をもって作成することができた。
- ・木はとてもいいにおいがしてすべすべしていて、あたたかみを感じました。電動のこぎりを使って少しアレンジを加えたりしてとても貴重な体験ができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月配布 7月～製作	計
事業量	5,365セット	5,365セット
参加者数	5,365人	5,365人
実施場所	愛媛県内の小中学校	

愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業（A-106）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

県民に森林・林業についての知識を向上させ、理解を深める。

【内容】

- ・新居浜市別子山の森林散策の案内状送付(令和元年10月2日)
 - ・新居浜市別子山の森林散策の実施(令和元年11月9日)
- 愛媛森林管理署の協力を得るとともに、「えひめ山の日の集い」併催行事と併せての森林散策を行った。

2. 活動の成果

「えひめ山の日」の周知に寄与するとともに、森林を散策することで、森林が生み出す綺麗な空気、川、水を体感し、森林の良さを身体全体で実感してもらうことができた。そして、この森林を保全することの必要性を理解してもらうことができた。

今後も、森林と触れあう活動を通して、森林保全、森林資源の活用について、広く一般県民に普及啓発していきたい。

3. 参加者の声

- ・ガイド付きの森林散策で、美しい紅葉や景色を楽しむことができた。
- ・樹木の解説などをしていただいて、知識を深めることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月2日	11月9日	計
事業量	1回	1回	2回
参加者数	-	50人	50人
実施場所	-	新居浜市別子山	

土佐の名所の樹木活性化事業（A-107）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの人が大切にしてきた名所の桜等の再生を図るため、高知県内5カ所で桜のテングス治療や土壌改良、支障木の剪定等の手入りをボランティア団体と地元住民等で行い、憩いの場としての地域の活性化を図るとともに、樹木を大切にすること等の普及啓発を行った。

2. 活動の成果

長年手入れをしていなかったため樹木がかなり痛んでいた場所もあったが、今回の作業を通して樹木の樹勢回復と景観整備ができた。ボランティアの中には当会が長年実施している樹木医セミナーの修了者もあり、セミナーで得た知識や技術の実践の場となった。おおなる園では作業の前には樹木医による剪定講習も行い、参加者の知識や技術の向上を図った。また、地域住民と一緒に活動を行ったことで、樹木の保護・育成の必要性等を伝えることができた。

3. 参加者の声

- ・今回作業を行った四万十町のJR影野駅は4月18日から運行する観光列車「志国土佐時代の夜明けものがたり」の通過する駅で、駅に出る前には2kmの長いトンネルがある。視界が開けてすぐ目に入る景色が荒れた樹木ではがっかりするので今回の作業できれいになった景色を見てもらえるのはうれしい。
- ・毎年、ボランティアの方に作業をしてもらって桜がとてもきれいになった。
- ・セミナーでも樹木の治療実習は行ったが、今回作業して更に理解できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月10日	3月14日	3月14日	3月15日	3月15日	計
事業量	おおなる園の桜の治療・土壌改良・樹木の剪定	農村環境改善センターの桜の治療・土壌改良	琴平川沿いの桜の治療	JR影野駅周辺の桜の治療・樹木の剪定	国道56号線沿いの桜の治療・樹木の剪定	
参加者数	26人	9人	12人	14人	14人	のべ75人
実施場所	高知市、高岡郡四万十町					

森のようちえん推進事業（A-108）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内で森のようちえん等の自然体験活動が広まり、より多くの子どもたちが質の高い自然体験の機会を得られるために、森のようちえん活動の先進フィールドである高知市「アジロ自然の森」と最近取り組みを始めた土佐町「ふるさと再生の森」でイベント型の森のようちえんを開催した。実施に当たっては、子どもたちの自然体験のみならず親への普及啓発や指導者育成を視野に入れて行った。また、安全に子どもたちが遊べるように、定期的なフィールド整備を行った。

2. 活動の成果

自然の中で子どもが伸び伸びと遊ぶことで豊かな感性や好奇心が芽生えるように、過保護にならない見守りをボランティアが行っている。自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、自然を活かしつつ少し手を加えることで安心して遊べるフィールドを確保し、継続的な自然体験活動を行うことができてきた。両フィールドともリピーターが増えてきており、保護者がスタッフと一緒に運営に協力してくれるようになってきた。また、毎回新しい参加者もあり、今後さらなる広がりが期待できる。

3. 参加者の声

- ・回数を重ねるごとに子どもがたくましくなってきた。
- ・椎茸の駒うち体験や木工体験ができてよかった。収穫が楽しみです。
- ・スタッフの方が良く目配りしてくれるので安心できる。
- ・遊歩道の整備をしてみて、日頃の手入れ等の苦勞を感じた。
- ・アジロ自然の森は開放された森なので、イベントがない週末に家族で遊びに来ています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月21日	10月6日	1月25日
事業量	アジロ自然の森のフィールド整備・遊具の修繕	アジロ山を綺麗にしよう&綺麗になった森で遊ぼう	自然体験&子どもたちと遊具を作ろう	森の散策&木工体験
参加者数	のべ80人	34人	40人	18人
実施場所	高知市・土佐郡土佐町			
実施時期	2月8日・9日	2月29日	3月7日	計
事業量	森の散策&木の巣箱作り	森の散策&木のプランター作り	森の散策&しいたけの駒打ち体験	
参加者数	のべ40人	29人	28人	のべ269人
実施場所	高知市・土佐郡土佐町			

高知県森林インストラクター養成講座（A-110）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に関する幅広い知識や技術を持った森林インストラクターの養成を図ることで、体験活動や自然観察、森林づくり等を通して、森林・林業に関する正しい知識を一般県民等に広く普及啓発する人材を育成する。

今年度も県内で活動する団体「高知県森林インストラクター会」が実施主体となり、森林に対する幅広い知識、技術を習得するため、「森林」「林業」「森林内の活動」「安全及び教育」の4分野の講習及び実習を全7回で実施した。講座内容は、全国森林レクリエーション協会の実施する「森林インストラクター」の受験に対応できるものとし、講座修了者には養成講座修了証を発行した。修了証書（写）提出により、森林インストラクター資格試験の二次試験「実技」が免除される。

2. 活動の成果

過去の受講生がスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図っており、過去の受講生から5人の森林インストラクター資格試験合格者を誕生させることができた。このように、森林・林業分野における指導者の育成が着々とすすんでいる。また、受講者が、今後森林ボランティア等として普及啓発していくことが期待できる。

3. 参加者の声

- ・植物を覚えることを目的に参加したが、森林について幅広く学習することが先決であることが理解できた。
- ・講座で学んだことをベースに、今後技術力を向上させたい。
- ・野外活動、ロープワーク、救急法などは防災意識を高め、日常の危機管理に役立つ内容だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	計
事業量	森林インストラクター養成講座 (全7回)	
参加者数	15人	
実施場所	高知県 高知市、香美市、長岡郡大豊町	

地域の森林整備事業（C-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のボランティア団体や地域住民により、緑の募金等で植樹が行われた場所の草刈り等を行い、憩いの場の維持管理や景観整備を行った。

2. 活動の成果

緑の募金で植樹した場所は公園など近隣住民の憩いの場となっており、維持管理をすることで地域の活性化に貢献できた。また、鏡吉原ふれあいの森は、植樹後の定期的な草刈りにより樹木が順調に成長している。成長した桜や紅葉がこの地域の景観を良くしている。

3. 参加者の声

- ・きれいに草刈りや手入れをしてくれているので、季節ごとに桜やツツジなどの花を楽しむことができる。
- ・森のようちえんのフィールドに植樹しているので、子どもたちが樹木の成長を見ることができる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月7日	7月・9月	11月24日	計
事業量	約0.4haの草刈り作業 アジロ自然の森	約0.3haの草刈り・つるきり、 剪定作業 清水農村公園	約0.4haの草刈り作業 鏡吉原ふれあいの森	
参加者数	4人	のべ5人	8人	のべ17人
実施場所	高知県高知市、吾川郡いの町			

活動基盤整備推進事業（C-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

高知県内で森や緑と水に関わって活動する団体について、地域ごとに組織化を図る。これまでも支援してきた県内4つの緑と水の会（幡多、須崎、高知、嶺北）の活動を持続できる基盤整備として事務費の助成を行った。

2. 活動の成果

地域の森林整備や緑化推進に関する啓発活動を行っている団体を支援することで、ボランティア活動を継続することができる。また、これにより一般県民に森林にふれる機会を提供でき、森林の持つ機能や大切さについての普及啓発ができる。

3. 参加者の声

- ・事務費を支援していただいたので会費を節約でき、事業費を多く確保することができた。
- ・総会や勉強会開催のための通信費や印刷費にあてることできた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	計
事業量		
参加者数	4団体	
実施場所	高知市、須崎市、四万十市、土佐郡土佐町	

ウッドフェスタ2019福岡（A-111）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 木材と直接ふれあうことによって、木材の良さや木材を使うことの大切さを広く県民に理解してもらうことを目的としている。
- * 木工教室（背付きイス・背無しイス・本立て・小物入れ・ティッシュケース 各100セット）
 - * ドローンフライトシミュレーション体験
 - * 木工工作コンクール表彰式及び作品展示
 - * マイ箸づくり、ミニ樽づくり体験 等

2. 活動の成果

親子連れで賑わい、木工教室や木育広場の遊具では子どもが楽しく過ごしていて、木の良さを感じることができた、また参加したい、と大変好評であった。

材料は無料で提供し、併せて緑の募金への協力を依頼したところ、皆快く募金に応じてくれた。

今後も、いろいろな活動を通して木材の素晴らしさや、木を使うことの意義を多くの人々に普及啓発しなければならないと実感した。

3. 参加者の声

- ・木に触れる貴重な機会ができて良かったです。
- ・とても楽しかったです。また機会があれば参加したいと思います。
- ・木製ボーリングで遊びました。とても楽しかったです。
- ・家から近く気軽に参加できました。
- ・親子でイス作りを体験しましたが、とてもいい経験をさせていただきました。
- ・はじめて参加しました。楽しく自然とふれあうことができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年10月12日（土）	備考
事業量	100%	
参加者数	946人	
実施場所	福岡県久留米市 久留米市鳥類センター	

森林ふれあい交流事業（A-112）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 親子木工教室・・・木製品を利用することで間接的に自然とのふれあいを親子間で感じながら物を組み立てていく共同作業を通じて親子の絆を深めていきます。
- 写真展・・・「福岡の自然と四王寺山にかかわるもの」と題して、一般の方々から作品を募集することにより、その題目に対しての認識を深められ、また、それらの作品を展示公開することにより、見学される方々にも同様な認識を広げてゆきます。
- 広葉樹の植樹体験 参加者に緑の大切にする思いを込めて、歩道沿いに色とりどりの花木を植える予定だったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、急きょ規模を縮小して植樹体験行事を開催した。

2. 活動の成果

- 親子木工教室・・・あいにくの曇天のためピロティにブルーシートを張りその上で、多くの親子がいっしょに笑顔で作業を楽しみ、自然の木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてもらえたと思います。
- 写真展・・・鳥、昆虫、植物など森林の生息する生き物たちや、朝焼けなど自然の織り成す様々な風景に感動して、森林や自然環境を守り育てる心が醸成できたと思います。森林のひみつ等のパンフレットも喜んで持って帰っていました。
- 広葉樹の植樹体験・・・参加者約30名の予定がスタッフ・ボランティアの計9名の規模になったが、参加者の思いを込めて植樹し、その成果をツイッター等で発信することにより、参加予定者だけでなく広く県民等に緑を守り育てる気持ちを普及啓発できた。

3. 参加者の声

- 親子木工教室・・・親子で、普段使わない金槌やプラスドライバーを使って木工キットを組み立てたり、電熱ペンを使って出来上がった作品にイラストを描いたりしてたのしかったです。
- 写真展・・・四王寺の野鳥や歴史、珍しいきのこや楽しそうな少年団の様子などしれてためになりました。
- 広葉樹の植樹体験・・・参加予定者の「華やかで緑あふれる歩道づくりに携わりたい」という気持ちに寄り添って植樹できてよかった。
きっと花が咲くころに予定した人だけでなく多くの人が楽しんでくれると思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月3日	11月10日～12月8日	2月22日	計	備考
事業量	親子木工教室	写真展	広葉樹の植樹体験		
参加者数	108人	1,000人	9人	1,117人	
実施場所	福岡県 宇美町				

福岡県緑の少年団育成事業（A-1131）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

子供たちが森林や森林が育む草花や動物、そして木材・木の実・その他の林産物など豊かな自然と触れ合うための図書を購入配布することにより森林林業教育の推進を図ることを目的として実施した。

県内46の緑の少年団及び6か所の地区緑化推進委員会に配布した図書の総数は次のとおりである。

みどりの手帳	900冊
みんなの森安全編	55冊
森の中の自然体験プログラム	55冊

2. 活動の成果

緑の少年団の野外活動等において配布図書が活用され、子供たちの森林及び自然に関する知識の取得に役立った。

3. 参加者の声

参考になるいい図書を配布いただいたので森林林業教育に役立てていきたいという指導者からの声をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月10日	計	
事業量 又は 事業内容	図書の配布		
参加者数	県内 5,594人	5,594人	県内46緑の少年団の 団員数
	県外 人	人	
	計 5,594人	5,594人	
実施場所	福岡県全域		

第29回世界子ども愛樹祭コンクール（A-114）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

国内においては、植栽による針葉樹林の増加と放置・広葉樹林の減少などにより、各地で豪雨による被害が拡大している。世界に目を向けると森林の伐採が広域化し、加えて海岸埋め立て・工場廃棄物等による自然破壊・汚染が進み、温暖化・異常気象の引き金となっている。本会はこのような事態を予期し、森との共生により心豊かな人間性を育み緑豊かな自然環境づくりを訴え、平成3年より「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画・実施してきた。環境的・教育的見地から応募が相次ぎ、29回までに世界24ヶ国・国内46都道府県より絵画52,334点（海外7,662点）、詩・作文19,098点、木はがき9,048点、作品累計80,480点、29回までの受賞者記念植樹は320本を越えるなど多大な成果を見ている。

今回は、コロナウイルス感染拡大防止のため、授賞式は中止となり残念ではあったが、後日、矢部中学校生徒、NPO関係者による植樹を行った。30回コンクールは、更なる環境保全・緑化推進を目指して子ども達への啓発を進め、悪化する地球環境への警鐘となるよう、また、30年間の取り組みの集大成となるよう節目の年にしたい。

2. 活動の成果

国内外から多数の作品応募があり、自然環境の大切さに、人類は感心を持っているという事への安堵感が再確認出来た。まだまだ、微力ながら、未来の地球を次世代へのこすために、これからも活動していきたいし、意味がある事業だということが分かった。

3. 参加者の声

今回も昨年同様、群馬県より、授賞式への参加予定者があり、大変心待ちにされておられたが、残念ながら、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、非常に残念な思いをされたとお手紙を頂き、事務局も申し訳なく思う。

授賞式にむけて、地元の小中学生には式での演出予定で、唄、合唱の練習と連日励んでおられたが、披露する機会が失われたことについても申し訳なく思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月15日	1月15日	3月29日	3月29日	計
事業量	一次選考会	最終選考会	授賞式（中止）	記念植樹	
参加者数	25人	7人	0人	3人	35人
実施場所	福岡県八女市	東京都千代田区	福岡県八女市	福岡県八女市	

那珂川市植樹祭（A-115）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹祭を毎年市内1地区毎に実施し、地区単位できめ細かな緑化の推進と普及啓発を図るため、令和2年2月19日に那珂川市緑づくり推進委員会の主催により、安徳小学校で第16回那珂川市植樹祭を開催。小学生の6年生約70名に加え、緑づくり推進委員、地域の方に参加いただき総勢120名により、ソメイヨシノを11本植樹した。

2. 活動の成果

小学校という住民の身近な場所で小学校児童だけに留まらず、小学校教員や地域住民も一緒になって、サクラを植樹したことは、地域全体に対して緑化活動の重要性を認識させる契機とすることができた。今後も市内の小学校等にこのような地域住民をも巻き込んだ植樹祭を行っていききたい。

3. 参加者の声

自分たちが植えたサクラが開花するのが楽しみ（児童）

- ・子どもたちが将来大人になって自分の子供にお父さん、お母さんが植えたサクラの木であることを伝えてほしい。（先生）
- ・地域のシンボルになってくれて、地域に愛着を持ってくれるきっかけになるといい（地域の方）

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月19日	計
事業量	桜の植樹 11本	
参加者数	120人	
実施場所	福岡県 那珂川市	

里まちサイクルプロジェクト（B-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

未来の子ども達に豊かな自然環境を引き継ぐために、森林資源の整備を行う。又、青少年が森林を身近なものに感じるためには、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行い、次世代のリーダー育成のための普及啓発事業を行う。また、多くの方々に森林の現状を理解し、森林資源の整備等の必要性を理解してもらうためにも活動を行う。

「内容」

- ①里山の保全活動を行う。竹林の整備により発生した竹材を畑に有効活用する。「循環」「再生」を行う。
- ②竹を活用した環境教育を通して、守り育てる学習。竹細工、竹でパンを焼こう。杉の間伐材を切る体験等の自然体験学習
- ③森の迷惑物のカズラを取って、クリスマスリース作り
- ④竹の再利用と活用の目的で「ミニ門松づくり」

2. 活動の成果

- 活動の成果 里山の保全活動を通して、自然環境学習の開催ができ、多くの方々に里山を身近に感じてもらうことができた。森林のたいせつさ、守り育てなければならないことなどを理解していただけた。
また、自然環境学習の開催を待ち望んでいる方々が多く、活動の必要さを望んでいます。その上、竹の再利用で「ミニ門松」等は、日本文化の良さを青少年から高齢者までもが、体験できている上に喜んでもらっている。
- 今後の取り組みとしては、森林の現状、里山の現状を多くの人に知っていただき、緑地の再生、修復に理解と協力を得るためにも竹林の整備と体験型の自然環境教育を行う。

3. 参加者の声

- ・都会の中で暮らしていると、森林や自然環境について考えることが少ないのですが、今回参加して、身近に感じました。
- ・子供が伸び伸びと遊ぶ姿が、感動でした。
- ・日頃、体験できないことばかりで、いい体験になりました。
- ・竹でパンを焼くなどは、今回初めての体験でした。
- ・来年も参加したいです。
- ・ミニ門松で3世代の活動ができました。とてもよかったです。
- ・本物のカズラでリース作りをして、いろいろの種類の木の実を使って、クリスマスリースができました。世界に一つだけのリースです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量			
緑化維持活動	9月5日～2019年12月10日	8回	50人
自然環境学習会	7月25日～2020年2月29日	11回	400人
竹の再利用	12月20日～2019年12月26日	5回	128人
参加者数		24回	計 578人
実施場所	福岡県 糸島市前原・福岡市早良区・西区・城南区		

よかウッドフェスタ（A-116）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑を県民みんなの財産として社会全体で守り育て、次の世代に引き継いでいくという意識の醸成を図るため、緑の募金寄付者の表彰、森の手・名人認定証伝達式、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技の表彰並びに作品の展示、優良丸太展示品評会の表彰を行うとともに、ふれあい広場において併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ① プレイイベント：イベント開催に先立ち、9時30分から和太鼓・葉隠による和太鼓演奏を開始
- ② 式典：国土緑化運動・育樹運動標語及びポスターコンクールの知事表彰、県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技及びさがが優良丸太展示品評会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ③ 併催イベント：木工工作、木の実工作、かんな削り・かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、棟上実演・もち投げ、魚のタッチプール、親子でガンバレ！県産木でトライ！、シシ肉とのりパン無料配布、チェンソーアートやピアノマン・タリルトーク&ミニライブなど多彩な催しを行った

2. 活動の成果

緑化や木材に関する表彰を実施することにより緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらった。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「木の良さが改めてわかり、香りで癒され、いろいろ体験できよかった」、「天然の木をもっと使用して環境の良い日本へ」、「佐賀の木材利用増加のために良いフェスタだと思う」、「とても良いイベント、佐賀の森林・林業を盛り上げていただければと思います」、「子供が自然に触れあえる機会になって、とても良かった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月3日（日）	備考
事業量	・緑の募金寄付者、木工工作コンクール等の表彰 ・木工工作体験など各種イベント実施	
参加者数	約1,200人	
実施場所	佐賀市天神 どん ³ の森広場	

森・川・海人っフェスタ（A-117）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に森とのふれあいを通して、森・川・海が暮らしに様々な恩恵を与え、重要な役割を果たしていることへの理解を深めてもらい、森・川・海に対する県民意識の醸成を図るため、21世紀県民の森を会場に佐賀県森林整備課との共催により、一般県民の森づくり活動として昨年のフェスタで植栽した広葉樹の周辺の下草刈りを行った。

また、会場内に「ふれあいエリア」及び「イベントエリア」を設けて、SDGsへの理解向上のためのゲームや森川海の工作・講演会・パネル展示や森川海クイズ大会などのイベントを行った。

〔事業の実施内容〕

- ① 森林づくり活動
さがの樹の育樹活動として、昨年のフェスタで植栽した広葉樹の周辺の下草刈りを森林づくりボランティアの協力を得て一般県民30名で行った。
- ② ふれあいエリア
森林学習展示館において、SDGsへの取組促進のためのコーナーを設けるとともに、森・川・海のパネル展示、森川海の素材を使った工作や積木コーナーの催しを行った。
- ③ イベントエリア
総合案内センター広場において、森川海の講演会・クイズ大会、ヤマメのつかみ取り、さがの樹プレゼントなどの催しを行った。
また、記念植樹として、ヤマザクラ1本を緑の少年団の介添えにより、知事とCWニコル氏が植樹を実施した。

2. 活動の成果

森づくり活動、森川海に関する講演会や様々なイベントを体験することにより、森・川・海は一つとの認識を深めてもらうとともに、森・川・海が一体となった整備・保全や維持管理、さらにはSDGsへの取組が重要であるとの意識の醸成を図ることができた。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「子供が楽しめる、自然の中で過ごせる」、「下草刈り活動が楽しかった、また来たい」、「子供はヤマメなど触る機会がないのでよかった」、「子供も大人も一緒に楽しめた」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月11日	備考
事業量	・森林づくり活動（下草刈り） ・森川海の素材を使った工作などの体験活動 ・SDGs関係のイベント、森川海の講演会、森川海に関するイベント ・記念植樹（1本）	
参加者数	800人	
実施場所	佐賀県立21世紀県民の森（佐賀市富士町）	

緑の探検学習会（C-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、夏休みの期間に野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらい、自然の中で少年団活動発表会や団員の交流会を盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午 前

- ① 県内緑の少年団及び指導者が参加し、各地区代表の5団が体験活動を発表
- ② 講演「ペルーの自然環境」講師:青年海外協力隊 松本徹氏

午 後

- ① この木何の木
名前を書いていない木の花や葉っぱの写真を見て、実際に植栽してある木の中から写真と同じ木を探し出すクイズを行った。
- ② 森のクラフト体験
木の枝などを使って、各自、自由に恐竜を作る体験を行った。
- ③ 活動発表大会の表彰式及び閉会式

2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた。

また、樹木の葉っぱの特徴や違いを学習するとともに、木を使った工作体験を行うことにより樹木が身近に感じることが出来た。また、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

3. 参加者の声

猛暑の中、熱中症などへの懸念があったが、子供たちは、大変元気よく、最後まで熱心に学習会に取り組んだ。講演を聞いたり、体験等を通じて、「森の大切さや樹木の多様性などを学べた。」などの前向きな感想が多かった。

また、大人からは、暑さへの対応をお願いするものが見受けられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	備考
事業量	・少年団活動発表5団 ・講演「ペルーの自然環境」 ・この木何の木 ・森のクラフト体験	
参加者数	223人（少年団員・指導者等206人、スタッフ17人）	
実施場所	佐賀市北山コミュニティーセンター・ 佐賀市立小中一貫校北山校（佐賀市富士町）	

森林のつどい事業（A-118）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県民が森林とふれあい、森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「ふるさとのもりフェスタ」を開催し、会場では森の演奏会、やじろべえ作り体験、落葉や木々で模様をつけるエコバックづくり体験、木工体験、また色づき始めた森林の中でのウォーキング等を行った。
- ・小学校高学年を対象に募集を募り、木育キャンプ(森のつどい)を2回開催し間伐体験や紙芝居とパネルによる「森のはたらき」を学び、間伐した木を利用して丸太のコースターを作成した。2日目は製材工場で丸太から製材になるまでの過程を見学した。

2. 活動の成果

- ・「ふるさとの森フェスタ」では、家族での参加が多く森林と触れ合う機会が少ない中で森林を再認識する機会が出来た。
- ・木育キャンプ（森のつどい）を今年度は2回開催し、次代を担う子供たちが森林のはたらきや、丸太から製材になる過程を見学出来て貴重な体験が出来た。児童や生徒の森林に対する関心を高めるためにも、今後も継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・「ふるさとの森フェスタ」の参加者からは、家族で色々な体験が出来て楽しかったという声が聞かれた。
- ・森林ウォーキングに参加者からは、森の案内人による説明も解りやすく、紅葉の森林の中で楽しく森林浴が出来たという声が聞かれた。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、森林には人工林と天然林があることを知ることが出来た。丸太から製材になる過程を見学出来て良かった。などの意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9～10日	11月25日	11月30～12月1日	計
事業量	木育キャンプ ～森のはたらきを知り、丸太から 木材になるまでを学ぼう～	ふるさとの森フェスタ	木育キャンプ ～森のはたらきを知り、丸太から 木材になるまでを学ぼう～	
参加者数	26人	約350人	46人	約422人
実施場所	諫早市	長崎市	諫早市	

緑の少年団活動活性化事業（C-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心を養い、協調性と豊かな心を養うために「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、地域交流集会、全県交流集会及び指導者研修を開催した。

6月の環境月間に、緑の少年団による地域の公共施設等に花苗の植栽を実施した。

2. 活動の成果

- ・地域での花苗の植栽、清掃活動等の野外活動をつうじて、自然の大切さや地域の環境を守ることの大切さを学ぶことが出来た。
- ・地域交流集会や全県交流集会では、それぞれの少年団の活動発表を行うとともに、体験学習では、竹林の現状についての説明があり、門松作りを体験した。また、植物の種子に触れて「植物種子の模型作り」を行い植物について新たな知識が習得された。
- ・指導者研修では、夜の野外研修（火おこし体験）を実施し、今後の少年団の野外研修の参考となった。

3. 参加者の声

- ・活動発表会では、他団の活動内容を知ることが出来て参考となった。
- ・「門松作り」では、初めて体験し門松の由来や飾る場所を知ることが出来た。
- ・色々な種子を観察できて勉強になった。また、自分の知らない植物を知ることが出来た。
- ・指導者研修の「火おこし体験」はとても参考となったという意見があった。
- ・指導者研修では、実際に体験しながら、知恵をしぼって活動出来て良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月26日 ～11月16日	12月7～8日	6月1日 ～6月30日	計
事業量	地域交流集会 指導者123人 団員 196人	全県交流集会 指導者49人 団員 50人	環境月間花苗植栽 8,907本	
参加者数	12団 319人	10団 99人	19団 470人	888人
実施場所	西海市ほか2カ所	諫早市	県下一円	

森林のめぐみいきいき活用促進事業（C-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の利用や林産物の活用を促進するため、県下の林業研究グループが、森林資源の有効活用や林産物の展示・販売や木工体験を実施し、都市の人々との交流をととして山村の現状や森林・林業に理解を深めてもらうため「森林のめぐみ展示会」を開催。

2. 活動の成果

コロナウイルス感染症防止のため開催中止

3. 参加者の声

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量			中止
参加者数	人	人	
実施場所			

くまもと森づくり普及・啓発事業（A-119）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

共催：(株) 熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本県インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話聞きながら森を散策した。

また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々の指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	計
事業量		
参加者数	56人	56人
実施場所	熊本市黒髪 立田山いこいの森（多目的広場）	

緑の少年団活動助成事業（C-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

目的：県下に67団ある「緑の少年団」の育成並びに活動の活性化、更に、新規団の創設に向けて、古くなった団旗や帽子、スカーフなどの補充及びTシャツの配布を行い、緑の少年団活動の一層の充実を図る。

内容：緑の少年団装備品整備

団旗の更新 6団 6本

スカーフ配布 11団 279枚

2. 活動の成果

装備品が新しくなることで、少年団活動が活発になる。今後は、Tシャツの配布等も含め、少年団活動を後押しする取組みを進める。

3. 参加者の声

団旗などの装備品は、発足当時のもので古くなっていった。新しい装備品を購入いただいたことで団員や指導者のモチベーションも上がり今後の活発な緑の少年団活動の取組みが期待される。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～1月	計
事業量	団旗の更新 6団 6本 スカーフ配布 11団 279枚	団旗の更新 6団 6本 スカーフ配布 11団 279枚
参加者数		
実施場所	熊本県熊本市、宇城市、美里町、荒尾市、和水町、南関町、菊池市、菊陽町、津奈木町、あさぎり町、水上村、天草市、苓北町の緑の少年団	

シンボル森林の活用促進事業（C-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社)熊本県緑化推進委員会

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を記した総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂と本体の補修

合志市熊本ふるさとの森林「弁天山」の森林は、単独峰の周りに広がる照葉樹林の中に散策路が整備され、山頂からの360°の眺めを楽しむほか、健康管理のための散策など多くの県民に親しまれている。本事業で平成9年に設置した案内板の表示内容の改訂と本体の補修を実施した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板W=2,500mm H=1,590mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

合志市の公園の管理者からは、写真を使った森林散策のコース等の案内により、弁天山公園がより分かりやすくなり利用者が増加するのではというような意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～1月	計
事業量	案内板1基設置	案内板1基
参加者数		
実施箇所	熊本県合志市弁天山公園北側周回園路沿	

ふれあい森林教室（A-120）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の啓発及び森林のもつ多様な機能にふれあう機会の提供を目的に、キャンプ、自然観察等を計画したが、台風の為中止となった。

内容 7月21日（土）

7月22日（日）

2. 活動の成果

森林教室の竹工作づくりでは小さい子どもでも作業が出来る様に1年生のマタケを準備するなど工夫した。今回は、台風により中止になったので、来年度に向けて日程等も含め、再度調整し計画したい。

3. 参加者の声

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日～22日	計
事業量	森林教室 自然観察会（中止） 野外炊飯	
参加者数	人	人
実施場所	大分市大字高原 平成森林公園キャンプ場	

農林水産祭林業部門運営委員会

木と暮らしのフェア（A-121）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材のふれあいの場を広く県民に提供し、木材に対する理解を深め、さらに県産材を中心とした需要を喚起し、県内の森林林業・木材産業の活力を高めることを目的に令和元年度農林水産祭林業部門を開催。

木とのふれあい部門において、木製品製作体験・展示を実施。

また木製品・林産物の販売ゾーンにおいて、木製品・林産物等の展示・販売、林業・緑化相談、緑化木無償配布等を実施。

2. 活動の成果

木とのふれあいゾーンや木製品製作体験などを通じて多くの参加者に対し、森林・林業・木材に対する理解を深めてもらうことにより、木材の利用や森林の大切さについて普及啓発を図ることができた。

これからもイベント・出店内容、駐車場を含めたアクセス、雨天対策、休憩場所等への要望をできるだけ反映し、秋の大分県の大きなイベントとして定着している当フェアをさらに充実させていきたい。

3. 参加者の声

- ・木を使ったブースが多く、大分らしさを感じた。
- ・木の体験コーナーが楽しかった。
- ・いつも楽しみにしています。
- ・いろいろな体験ができてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月26日	10月27日	計
事業量			
参加者数	35,000人	35,000人	70,000人
実施場所	大分県別府市（別府公園）		

大分県みどりの少年団のつどい（A-123）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う少年少女に緑化思想の普及と定着を図るため、県下のみどりの少年団が一堂に会し、森に学ぶことによって相互の親睦と少年団活動の助長を図った。活動内容として、今回少年団員の交通事故防止など安全安心に参加できる環境を整えるため貸切バスによる送迎を行った。また、各少年団が日頃活動している内容について発表した。2日目は、自然観察指導員による緑と森の自然観察会を行い、自然とのふれあいを通じて森林林業への関心を高めた。

内容 8月1日（木）・飯ごう炊飯・キャンプファイヤー・少年団活動発表会

8月2日（金）・自然観察指導員による、緑と森の自然観察会

2. 活動の成果

貸切バスによる送迎を行うことにより、少年団員が安全安心に活動を行うことができた。また、活動発表により他の少年団の活動を知ることができ、活動を通して他団体との交流ができ、親睦が深まった。2日目の自然観察会は、指導員の方から植物の仕組みや昆虫について教えていただき、より森林の働きに関心が高まった。

3. 参加者の声

- ・他の少年団の活動発表を聞いて、すごいと思った。
- ・みんなでバスに乗って参加できてよかった。
- ・自然観察会で、いろんな形の葉や実を見つけることができた。

など

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日～2日	計
事業量	野外炊飯 自然観察会	
参加者数	142人	142人
実施場所	大分市大字高原 平成森林公園キャンプ場	

名木保全事業（B-5）

ファンド事業の概要

1. 事業の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について保育、保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

内容：①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた

②実施時期 令和2年2月～令和2年3月

③実施場所 大分県一円（今回は別府市、佐伯市）

④事業内容 樹勢等の健康度等を基に治療をおこなった。

2. 事業の成果

- ①調査木
- ②診断結果 別紙にまとめた。

3. 考察

過去の剪定・折損箇所及び傷等を処置せず放置していた所より腐朽が進み、幹の空洞化、樹皮の欠落など生育に大きな影響を及ぼし、樹勢が衰弱している。腐朽に対する樹体抵抗度又は腐朽進行度は、樹種、樹勢等により異なるが、土壌・根系障害などがこれに併発している場合が多いので、腐朽部の治療と土壌改良を一緒に実施することが望ましい。

森林ボランティアリーダー養成研修（C-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

2. 活動の成果

山村所有者と協定を交わしたフィールドを使い、本年度は、昨年に引き続き竹の除伐作業・支障木の伐採・しいたけ駒打ち・水生植物植栽を行った。また、実践の場として大分県の主催する「豊かな国の森づくり大会」（津久見市）において樹木を植樹した。また学生たちが先輩から継承した知識と今年度習得した事柄について一般公開のイベント等にて発表し、幅広い人々に林業・森林の役割について啓発出来た。

3. 参加者の声

- ・学内では学べないことがたくさんあり、貴重な時間でした。
- ・活動を通して森林に大変興味を持ちました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月～3月	計
事業量	2回/月	
参加者数	150人	150人
実施場所	大分市久土（NBUの森）ほか	

緑と花のふれあい推進事業（A-124）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病害虫防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

2. 活動の成果

受講者は、①緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、緑への関心や理解をさらに深めることができた。②生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、緑に関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。③「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することが「緑の募金」の推進につながっている。

3. 参加者の声

受講者の多くが御夫婦での参加のため、出席率が高い。参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加して良かったという方の意見は次のとおりである。①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々との交流ができて楽しい。③家庭において緑化木管理をしている受講者からは、講義の中での質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④街頭募金活動の際、自分たちの育てた緑化木が市民の皆さんに配布されることが嬉しい。⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成31年4月～令和2年2月	計
事業量	年間を通じて12回計画のうち11回実施 (令和2年3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	11回
参加者数	受講生 82名	のべ775名
実施場所	宮崎県小林市野尻町(宮崎県緑化木養成圃場)	

森林浴癒しの集い事業（A-125）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民から参加者を募集し、森林セラピー基地に認定された日之影町の石垣の村トロッコ道コースにおいて、森林セラピーに関する学習や散策を行い、森林の持つ癒し効果と森林やみどりへの理解と認識を深めさせ、県民参加による森林・みどりづくりを推進する「森林浴癒しの集い」を開催した。

2. 活動の成果

森林セラピー基地を散策し、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどへの理解を深めることができた。

この集いは、参加者からも評判も良く、また、日常の生活では味わうことの少ない自然体験を通じて、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことができることから、重要な活動であると考えられる。

3. 参加者の声

- ・セラピーガイドの方の説明を聞きながら散策できたのが良かった。
- ・歩きやすく、気持ちよかった。
- ・山々の紅葉がとてもきれいでいい時期に来た。
- ・石垣の村内（11メートルの石垣等）もう少し、散策したかった。
- ・トロッコ道をもう少し散策する時間があつたらよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月26日（火）	計
事業量	森林セラピーの講義 遊歩道の散策 樹木や植物の観察	
参加者数	30人 (講師・スタッフ6名を含む)	30人
実施場所	宮崎県西臼杵郡日之影町 (森林セラピー基地 石垣の村トロッコ道コース)	

かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-126）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 令和元年度は、秋季に「九州森林の日活動」や「かごしま木材まつり」などを開催し、森林ボランティア団体等の協力のもと、森林整備体験や木工クラフト体験など、イベントを通じて、森林環境学習を実施することができたが、春季（R2.4月）に開催予定であった、全県イベント「みどりの感謝祭」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止せざるを得なかった。
- 県内の各支部では、地区ごとに植樹祭や木材まつりを開催し、地球温暖化対策をはじめとする森林の多面的な役割を理解させると共に、木材に触れて親しむ機会の創出に努めた。

2. 活動の成果

- 「共生協働」の理念のもと、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体と連携して、さまざまな普及啓発イベントを円滑に開催できた。
- それぞれのイベントでは、森林ボランティア団体が周到な準備のもと、体験学習や環境教育に積極的に取り組んでいただき、所期の目的を十分に果たすことができた。今後ともさらに連携を強化し、積極的な普及啓発、情報発信に努めることとしたい。

3. 参加者の声

- 森林ボランティアの方のご協力により、色々楽しい木工体験をさせていただいた。森林内の木々、木の実を使って作品を作り、子ども達も楽しそうだった。
- 皆伐された山林にスギ苗1,000本を植える「九州森林の日植樹祭」に参加した。秋の気持ちの良い風を感じながら、一所懸命に植え、この場所が再び立派なスギ林になることを願った。自分で植えると、この山に愛着も自然と湧いてくる。また、後日、自分が植えた箇所を訪れてその後の成長を確認してみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R1.10月～R2.1月	R2年4月	計
事業量	・かごしま木材まつり（2,500人） ・九州森林の日植樹祭（523人） ・支部植樹祭（6地区・1,200人）	みどりの感謝祭 ※新型コロナ感染拡大防止のため、中止。	
参加者数	4,223人	0人	4,223人
実施場所	鹿児島市、霧島市他		

かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 県や市町村、教育委員会を通じて事業要望を募ったところ、離島を含め3市町から3ヶ所3本の樹勢診断要望があった。（内訳：学校1ヶ所、自治会施設2ヶ所）
- 11月6日付で日本樹木医会鹿児島県支部に調査業務を委託し診断を行ったが、うち1箇所（学校）の樹木については、その後急速に樹勢の衰えが見られたため、再診断を実施した。
- すべての調査が終了したあと、その診断結果については各申請者に通知した。
- 今後の診断向上のため、同樹木医会と共催で、被害状況の把握及び保全処置の手法等について研修を4月に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止とした。

2. 活動の成果

- 保全作業については、現場担当の樹木医と地元関係者が調整を図りながら、円滑に進めることができた。
- 【霧島市 山ヶ野金山 イヌマキ】
平成14年に実施された腐朽治療部については、充填物を除去のうえ改めて治療を実施し、また根の伸張を促すための盛土や土壌改良を実施するなど周辺環境の整備をおこなった。
- 【曾於市 七村自治会 スギ】
腐朽部については防護層まで除去し、保護剤等による処置を実施した。
また雨水処理のための排水対策や、調湿及び殺菌対策の工事を実施した。
当初5～8本程度の申請があるものと想定していたが、3ヶ所（3本）の要望にとどまった。更なるPRに努め、事業の掘り起こしに努めたい。

3. 参加者の声

- 樹齢300年以上の大切な木の樹勢が弱ってきていたので、保全措置をしていただき、また木が元気に回復していくと思うと嬉しいです。
- せっかく懇切丁寧な保全措置をしていただいたので、今後も大切に管理していきます。ご対応感謝いたします。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R1年11月～R2年3月	R2年4月	計
事業量	・樹勢診断 3ヶ所3本 ・樹勢診断書作成 4件	・樹勢診断にかかる現地研修会 （新型コロナのため中止）	
参加者数	1団体 （日本樹木医会鹿児島県支部）	0人	1団体・0人
実施場所	樹勢診断：霧島市、曾於市、伊仙町	研修会：中止	

活力のある緑の少年団活動促進事業（C-60）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・緑を守り育てる活動を通じて、豊かな心を育成するため、県内で52団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導のもと活動している。

活動の一層の活性化を図るため、緑の少年団活動発表大会を開催するとともに、各地域単位で交流集会を開催した。

なお、4月開催予定であった全体交流集会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

2. 活動の成果

- ・全県レベルで実施している活動発表大会や緑化イベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、情報が共有され、活動内容も多岐にわたってきている。児童生徒の減少、小・中学校の統廃合が進むなか、緑化活動を通じた情操教育は、郷土や自然を慈しむ心を育てるとともに、自然界における人間の役割を理解させる糸口ともなっている。

今後も、関係機関団体と連携を図りながら、支援を継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・イベント参加の際の交通費助成はありがたい。遠隔地（離島）でも参加しやすい支援体制に感謝している。
- ・地域の交流集会は夏休み期間中に開催されるため、様々な森林体験プログラムへの参加や他団との交流は、夏休みの思い出にもなる貴重な体験となっている。今後も続けていただきたい。
- ・団服整備支援については、各団オリジナルの帽子やジャンパーの整備も助成対象に認めていただき有難い。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R元.8月～11月	R元.11月	中止（R2.4月）	計
事業量	地区交流集会 （5地区）	九州森林の日 植樹体験	全県交流集会 ※新型コロナ感染拡大防止のため、中止。	
参加者数	232人	98人	0人	330人
実施場所	指宿市、和泊町他			

森林ボランティア活動促進事業（C-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・一般公募による森林インストラクター養成講座（かごしま森林の学校）を開催し、新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため、体験イベントや先進地研修などを開催し相互交流とスキルアップを図った。

また、県森林ボランティア連絡会加盟団体25団体の自主活動を促進するため、年間活動費を助成し組織の活性化に努めるなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

2. 活動の成果

- ・かごしま森林の学校は、地元鹿児島大学などから、多彩な外部講師を招き、年間を通じて計7回の講座を実施、10人に修了証を交付した。森林ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会等も定着してきており、四半期毎に開催する森林ボランティア連絡会議と相まって、情報共有および相互交流が促進され、資質の向上が図られた。

また、団体運営の年間活動費の助成により、森林ボランティア団体の自主活動が促進されたほか、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

3. 参加者の声

- ・森林・林業に対し、漠然としたイメージを持って養成講座に参加したが、森林の様々な機能や生態について理解が深まった。木材についての基礎知識や加工利用についても学ぶことができた。今後、森林ボランティア、森林インストラクターとして、どのように関わっていけるかを考え、少しでも貢献していきたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R1年7月～R2年6月	R1.9月5～6日、 R2.1月10日	R1.11月8日	計
事業量	森林インストラクター 養成講座7回 修了者10名	・ボランティアリーダー研修 （先進地研修・救命法研修等）	志布志港海辺の 森づくり実践活動	
参加者数	81人	46人	75人	202人
実施場所	県内各地	佐賀・福岡県	志布志市	

令和元年度 緑の育樹祭開催事業（A-127）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施日 令和元年11月9日（土）

主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会、浦添市

大会テーマ 「育てよう 時をつなげる てだこの森」

森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について、理解を深め県民参加の森づくりを進めるため育樹祭を開催した。式典において、主催者、来賓のあいさつ、緑化コンクールの表彰、緑の少年団による大会決議を行い、式典終了後、参加者全員による施肥作業、補植作業を実施。

2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

浦添市カルチャーパークは、市の図書館、美術館、てだこホールなど市の文化活動及び生きがい活動の拠点となるところで、「てだこの森」として、さらに、緑の整備が必要な公園となっており、本育樹祭により、ますます県民の憩いの場として活用されることを期待します。

今後、適切な保育管理を実施することにより観光立県を目指す本県において、緑の美ら島沖縄を目指し今後も緑化活動を取り組んでいく気運を高めた。

3. 参加者の声

これから適切に保育作業をすることによりさらに樹木が大きく生長して、カルチャーパークが県民の憩いの場となるようにしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年11月9日	計
事業量	緑の育樹祭の開催	
参加者数	500人	500人
実施場所	沖縄県浦添市	

令和元年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実行額	備考
北海道	普	A 1	青少年育成事業	160	160	
	普	A 2	「美遊の森」体験活動事業	100	100	
	普	A 3	森林・みどり環境教育推進事業	150	150	
	普	A 4	☆緑の少年団野幌森林公園道有林育樹事業	100	100	
	普	A 5	森林ボランティア活動推進事業	400	400	
	普	A 6	野幌自然休養林再生事業を中心とした森林知識の普及啓発活動	100	58	計画変更
	普	A 7	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	200	200	
	普	A 8	北海道指導林家社会貢献緑化推進事業	100	100	
	普	A 9	お魚を増やす植樹運動促進事業	300	0	計画変更(減)
	普	A 10	木育ひろば 2019in ばんけい	100	100	
	普	A 11	☆森林機能の普及啓発事業	150	150	
	普	A 12	林間学校	80	80	
	普	A 13	☆旭山希少種調査・保護事業	200	200	
	普	A 14	☆子ども達の木工職業体験プロジェクト	200	0	計画変更(減)
	普	A 15	☆ふきだし公園育樹事業	150	0	計画変更(減)
	普	A 16	森と自然体験の子どもエコキャンプ 2019	250	250	
	普	A 17	身近な森林再発見事業	250	250	
	普	A 18	五稜郭保安林清掃事業	80	80	
	普	A 19	木になるフェスティバル	170	170	
	普	A 20	阿寒湖畔における森林保全事業	150	150	
	普	A 21	普及啓発事業	350	350	
	普	A 22	「望みの森」森林浴の集い	80	80	
	普	A 23	森林を活用した青少年育成対策事業	100	100	
	普	A 24	森林及び木製遊具体験事業	130	130	
	普	A 25	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	110	110	
	普	A 26	津別「げんきの森」利用推進事業	130	130	
	普	A 27	緑化団体ネットワーク推進事業	50	50	
	普	A 28	☆地域材の利活用と生物多様性保全事業	150	150	
	普	A 29	間伐施業体験事業	200	200	
	普	A 30	緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業	50	50	
	普	A 31	青少年木育推進事業・木育ひろば in チ・カ・ホ	500	500	
	普	A 32	「北海道森づくりフェスタ」春期推進事業	1,450	—	期間延長
普	A 321	緑の少年団活動助成事業	0	420	計画変更(増)	
基	C 1	馬追自然の森整備事業	100	100		
	C 2	清流と魚を守る森林(もり)づくり造成事業	80	80		
	C 3	台風被災森林の植栽後の保育活動	80	80		
	C 4	「遊々の森」での森林体験事業	160	160		
	C 5	コンサ百年の森づくり事業	170	170		
	C 6	サミットの森プロジェクト	80	80		
	C 7	☆森林の役割を助ける「森に光と風を」事業	80	80		
	C 8	「ラブアースの森づくり」事業	120	120		
	C 9	平成 31 年度 北海道小樽商業高等学校林「植樹の会」	120	0	計画変更(減)	
	C 10	風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり	100	100		
	C 11	未来に向かって日高の森づくり事業	50	50		
	C 12	日高の森づくり事業	160	160		
	C 13	「おさかなの森づくり運動」事業	150	150		
	C 14	第 25 回 サケの上る森づくり植樹祭	80	80		
	C 15	お魚を増やす森づくり	80	80		
	C 16	旭川ユネスコの森づくり	50	50		
	C 17	☆赤岩青巖峡環境整備事業	150	150		
	C 18	☆環境林を育てる山主スクール事業	150	150		
	C 19	☆散布漁業協同組合女性部植樹事業	200	200		
青森	普	A 33	青森県森林づくり推進体験学習活動事業	1,000	1,000	
	普	A 34	☆木と人のふれあい事業	960	960	
岩手	普	A 35	令和 2 年度遠野市緑化祭「里山フェスタ 2020」	400	400	
	普	A 36	2019 森林とのふれあい in 外山森林公園(第 40 回盛岡市民植樹祭)	250	250	
	普	A 37	ふるさとの巨樹・名木観察会	250	250	
	普	A 38	第 51 回岩手県緑の少年団大会	1,750	1,750	
宮城	基	C 20	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040	2,040	
秋田	普	A 39	緑と水のキャンペーン事業	1,250	1,250	
	普	A 40	市民グループ森林づくり事業	700	700	
	基	C 21	緑の少年団育成事業	450	450	
	基	C 22	森林活動指導者支援事業	250	250	
山形	普	A 41	山形県緑の少年団交流研修支援事業	980	980	
	普	A 42	山形県林業まつり開催事業	720	720	
	普	A 43	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	260	260	

福島	普	A 44	第28回緑の提言・作文コンクール	900	900	
	普	A 45	森林・林業とのふれあい事業（第44回福島県林業祭）	700	450	計画変更(減)
	普	A 46	ファミリー緑の教室開催事業	400	400	
	普	A 47	☆次世代を担う子どもたちによる森林づくり会議	200	450	計画変更(増)
茨城	基	C 23	都市と農村の交流事業「第32回ふくしま緑の百景歩こう会」	900	—	期間延長
	普	A 48	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150	150	
	普	A 49	緑の体験教室開催事業	350	350	
	普	A 50	グリーンフェスティバル開催事業	600	342	
	基	C 24	森林ボランティア育成事業	300	300	
	基	C 25	山村地域づくり活動助成事業	550	550	
栃木	普	A 51	緑化樹木等苗木無償配布事業	410	410	
	普	A 51	森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業	1,840	1,840	
群馬	基	C 27	青少年の教育の場としての森林活用促進事業	200	200	
	普	A 52	群馬県植樹祭開催事業	850	—	期間延長
埼玉	普	A 53	森と木のまつり	500	500	
	普	A 54	巨樹・古木巡りツアー事業	700	—	期間延長
	普	A 55	緑の少年団活動活性化事業	480	480	
	普	A 56	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,500	1,400	
千葉	普	A 57	緑の少年団育成事業	170	170	
	普	A 58	緑化普及啓発事業	440	440	
	普	A 581	緑の少年団活動支援事業	0	100	計画変更(増)
	基	C 28	森林ボランティア活動支援事業	300	300	
	普	A 59	木づかい推進・普及啓発事業	580	580	
東京	普	A 60	森林林業技術講習会	160	160	
	基	C 29	第39回千葉県みどりの少年団交流集会事業	1,020	1,020	
新潟	調	B 1	ふるさとの杜活力調査事業	2,250	2,250	
富山	普	A 61	普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業	763	763	
	普	A 62	「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）	1,376	1,376	
	普	A 63	「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）	1,608	1,608	
	普	A 64	緑化団体活動周知・地理情報活用事業	413	413	
石川	普	A 65	森林・木材等普及啓発事業	1,216	1,216	
	基	C 30	花とみどりの少年団活動支援事業	464	464	
	基	C 31	森づくりグループ活動支援事業	50	50	
福井	普	A 66	緑化思想の普及啓発事業	120	120	
	基	C 32	県内産緑化苗木無償配布事業	190	190	
	基	C 33	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450	1,450	
山梨	普	A 67	もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）	1,370	1,370	
	基	C 34	ふくいの森林づくり推進事業	500	500	
長野	普	A 68	緑の少年隊森林学習会	390	390	
	普	A 69	教職員森林・林業研修	140	140	
	普	A 70	子ども樹木博士認定事業	190	190	
	普	A 71	森の教材「くらしと森林」発刊事業	790	790	
	普	A 72	親子緑の集い	370	370	
	普	A 73	緑化ポスター・標語コンクール開催	320	320	
	普	A 74	緑の活動発表会	130	130	
	普	A 75	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160	—	期間延長
岐阜	普	A 76	緑化推進活動促進と活動資材提供事業	1,940	1,138	
	普	A 77	みどりの啓蒙推進事業	600	600	
	基	C 35	恵みの森づくり事業	640	640	
静岡	普	A 78	森づくり県民大作戦支援事業	840	840	
	基	C 36	緑の少年団交流集会開催事業	2,500	2,500	
愛知	普	A 79	みどりに親しむ集い事業	1,200	1,050	計画変更(減)
	普	A 80	みどりフェスティバル'20春事業	500	0	計画変更(減)
	普	A 801	みどりの少年団育成事業	650	650	
	調	B 2	ふるさと樹木診断事業	1,080	1,080	
	基	C 37	森林ボランティア養成事業	1,050	1,050	
三重	普	A 81	県民参加の植樹祭開催事業	220	194	計画変更(減)
	普	A 82	みえ森林イベント参加	150	194	計画変更(〆)
	普	A 83	森林とのふれあい促進事業	900	753	計画変更(〆)
	普	A 84	みどりの少年隊活動の推進	540	214	計画変更(〆)
	普	A 85	森林教室開催	150	95	計画変更(〆)
	普	A 86	海・山連携植樹事業	300	0	計画変更(〆)
	普	A 87	森林ウォーキング、巨樹・古木見学会開催	150	227	計画変更(増)
	普	A 871	県民参加の植樹活動	556	700	計画変更(増)
滋賀	基	C 38	緑の少年団育成事業	2,250	2,250	
京都	普	A 88	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000	2,000	

大阪	普	A 89	大阪府緑の少年団連盟交流集会	350	196	計画変更(減)
	普	A 90	自然環境保全ボランティア養成講座「森人塾」	200	40	計画変更(〆)
	普	A 91	府民参加の森林づくりのための普及啓発	1,100	2,312	計画変更(増)
	調	B 3	☆森林 ESD の推進	1,200	300	計画変更(減)
兵庫	普	A 92	地域緑化イベント開催事業	400	400	
	基	C 39	森林整備・緑化活動支援事業	2,540	2,540	
奈良	普	A 93	森の文化活動事業	1,510	1,510	
	基	C 40	ボランティア緑化活動事業	200	200	
和歌山	普	A 94	青少年を対象とする森林 ESD の推進など森林環境教育の促進	1,690	1,657	
	基	C 41	森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業	640	640	
鳥取	普	A 95	樹名板設置事業	700	720	計画変更(増)
	普	A 96	木工工作キット配布事業	640	713	計画変更(増)
	基	C 42	青少年・民間活動グループ育成事業	300	200	計画変更(減)
	基	C 43	森林空間活用推進事業	200	200	
鳥根	普	A 97	「森の誕生日」2020 事業	400	400	
	基	C 44	緑の少年団育成強化事業	1,400	1,400	
岡山	普	A 98	第 20 回森林を考える岡山県民のつどい	300	300	
	普	A 99	県産木材フェア開催事業	400	400	
	普	A 100	もりもりクラブ普及活動事業	124	124	
	普	A 101	第 35 回くらしき都市緑化フェア	450	450	
	基	C 45	緑化普及推進事業	1,216	1,216	
広島	普	A 102	「みどりの集い」開催事業	2,020	2,020	
	基	C 46	(第 39 回) 緑の少年団交流集会開催事業	1,000	1,000	
山口	普	A 103	都市と山村ふれあい交流促進事業	640	1,040	計画変更(増)
	基	C 47	森林体験学習支援事業	360	360	
	基	C 48	記念の森造成事業	1,000	600	計画変更(減)
徳島	基	C 49	企業の森づくり普及啓発イベント事業	1,960	1,960	
香川	普	A 104	緑化普及活動事業	1,410	1,410	
愛媛	普	A 105	木工作品製作キット配布事業	1,880	1,880	
	普	A 106	愛媛の森林友の会の育成及び現地研修会開催事業	200	200	
高知	普	A 107	土佐の名所の樹木活性化事業	800	582	計画変更(減)
	普	A 108	森のようちえん推進事業	450	500	計画変更(増)
	普	A 109	森の魅力普及啓発事業	400	—	期間延長
	普	A 110	高知県森林インストラクター養成講座	400	400	
	基	C 50	地域の森林整備事業	200	131	計画変更(減)
	基	C 51	活動基盤整備推進事業	80	80	
福岡	普	A 111	ウッドフェスタ 2019 福岡	600	600	
	普	A 112	森林ふれあい交流事業	300	300	
	普	A 113	グリーンフェスティバル 2020	650	0	計画変更(減)
	普	A 1131	福岡県緑の少年団育成事業	0	650	計画変更(増)
	普	A 114	第 29 回世界子ども愛樹祭コンクール	300	300	
	普	A 115	☆那珂川市植樹祭	300	300	
	調	B 4	里まちサイクルプロジェクト	540	540	
佐賀	普	A 116	よかウッドフェスタ	713	705	
	普	A 117	森・川・海人っフェスタ	700	700	
	基	C 54	緑の探検学習会	390	390	
長崎	普	A 118	森林のつどい事業	1,120	1,120	
	基	C 55	緑の少年団活動活性化事業	1,150	1,568	計画変更(増)
	基	C 56	森のめぐみいきいき活用促進事業	500	82	計画変更(減)
熊本	普	A 119	くまもと森づくり普及・啓発事業	1,000	1,000	
	基	C 57	緑の少年団活動育成事業	1,090	—	期間延長
	基	C 58	シンボル森林の活用促進事業	518	518	
大分	普	A 120	ふれあい森林教室	700	280	計画変更(減)
	普	A 121	木と暮らしのフェア	80	80	
	普	A 123	☆大分県みどりの少年団のつどい	240	240	
	調	B 5	名木保全事業	850	1,270	計画変更(増)
	基	C 59	森林ボランティアリーダー養成研修	170	170	
宮崎	普	A 124	緑と花のふれあい推進事業	2,370	2,370	
	普	A 125	森林浴癒しの集い事業	280	280	
鹿児島	普	A 126	かごしまの緑・元気な森林体験事業	1,630	1,630	
	調	B 6	かごしまの名木古木樹勢診断事業	250	250	
	基	C 60	活力ある緑の少年団活動促進事業	800	800	
	基	C 61	森林ボランティア活動促進事業	950	950	
沖縄	普	A 127	令和元年度 緑の育樹祭開催事業	1,470	1,470	
			合 計		94,061	

国 緑 3 1 第 2 号
平成 3 1 年 2 月 1 日

各都道府県緑化推進委員会 殿
様

公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 佐々木 毅

平成 3 1 年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

平成 3 1 年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の要望につきましては、別添「平成 3 1 年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、〔様式 1〕により平成 3 1 年 4 月 1 2 日（金）までに提出してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

担当：基金業務 井上
0 3 (3 2 6 2) 8 4 5 7
E-mail: inoue@green.or.jp

令和元年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

II 重点課題の設定

令和元年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及・啓発
- ② 地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ③ リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- ④ 学校林活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- ⑤ 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する普及啓発・調査研究

Ⅲ 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の四分野において、以下の事業を重点的に実施する。

1 普及啓発事業

- (1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発活動
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用等の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

Ⅳ 事業の適切な実施

令和元年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとする。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol.9

令和3年2月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <http://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



「大分県みどりの少年団のつどい」(大分市：平成森林公園キャンプ場)
森林ネットおおいた

公益社団法人 国土緑化推進機構



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用